

第一集

明治三十九年六月

樺太法令集

5-0398|

0123

5-0398

0124

樺太法令集凡例

- 一、本篇ハ明治三十八年八月ヨリ同三十九年五月ニ至ル迄ノ
樺太民政ニ關スル重ナル法令ヲ纂輯セリ
- 二、本篇ハ八類ニ分ツ其編次ハ年月日ヲ逐フ
- 三、本篇ハ發布ノ形式ニ依リ類別ス規定ノ實質ニ依ラサルハ
互ニ相關連シテ分別シ難キモノ多キニ因ル
- 四、本篇ハ草創ノ際ニ成ル誤謬脱漏ナキヲ保シ難シ追テ訂正
加除ヲ期ス

明治三十九年六月

樺太民政署長官々房編輯

樺太法令集

目録

| | |
|----------------|------------|
| 第一類 勅令 | 自三頁至四頁 |
| 第二類 陸軍省告示 | 自七頁至一二頁 |
| 第三類 軍令 | 自一五頁至八六頁 |
| 第四類 告諭 | 自八九頁至九四頁 |
| 第五類 署令 | 自九七頁至一六四頁 |
| 第一目 本署令 | 自九七頁至一二一頁 |
| 第二目 支署令 | 自一二一頁至一六四頁 |
| 第一節 コルサコウフ支署令 | 自一二一頁至一三五頁 |
| 第二節 ウラジミロフカ支署令 | 自一三六頁至一五六頁 |
| 第三節 マツカ支署令 | 自一五六頁至一六四頁 |
| 第六類 布達 | 自一六七頁至一六八頁 |
| 第七類 告示 | 自一七一頁至二二二頁 |

第一類
勅令

| | | |
|-----|-------------|------------|
| 第一目 | 本署告示 | 自一七一頁至一九〇頁 |
| 第二目 | 支署告示 | 自一九一頁至二二二頁 |
| 第一節 | コルサコウフ支署告示 | 自一九一頁至一九四頁 |
| 第二節 | ウラジミロフカ支署告示 | 自一九四頁至二〇五頁 |
| 第三節 | マツカ支署告示 | 自二〇五頁至二二二頁 |
| 第八類 | 公告 | 自二二五頁至二二八頁 |
| 第九類 | 彙報 | 自三三一頁至三五〇頁 |

5-0398

0127

第一類 勅令

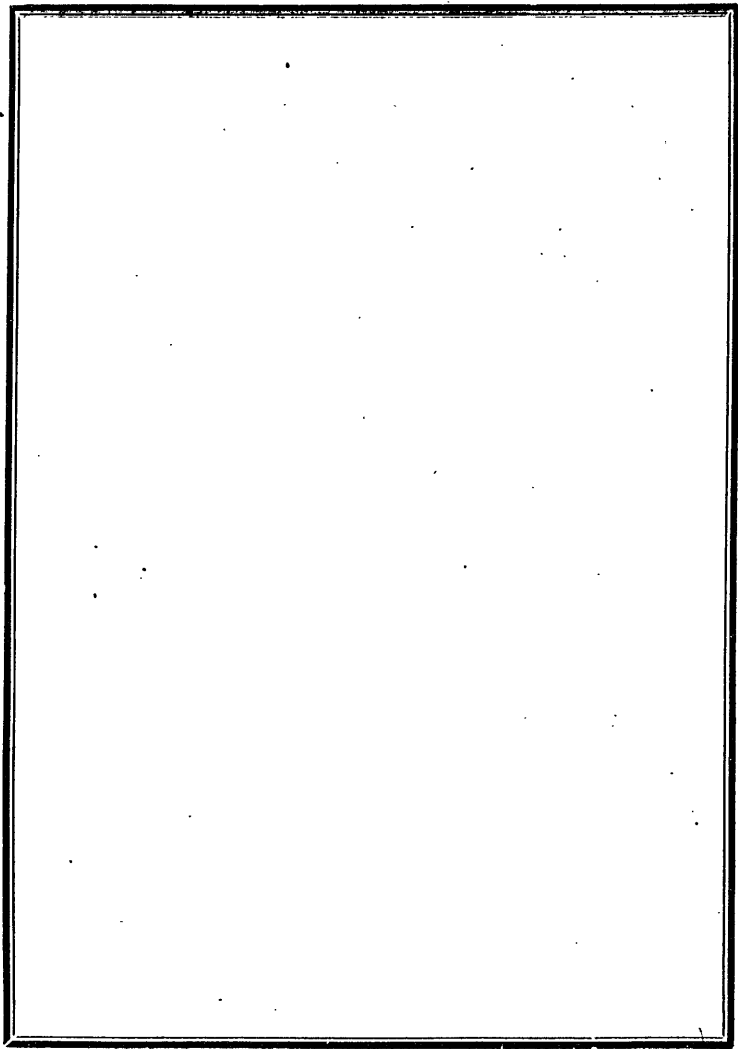
占領地民政署ノ職員ニ關スル件(明治三十八年五月勅令第五十六號)

朕占領地民政署ノ職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 占領地民政署ニハ必要ニ應ジ左ノ職員ヲ置ク

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 民 | 政 | 長 | 官 | 勅 | 任 |
| 事 | 務 | 官 | 奏 | 任 | |
| 警 | 視 | 官 | 奏 | 任 | |
| 技 | 師 | 奏 | 任 | | |
| 通 | 官 | 奏 | 任 | | |
| 屬 | 判 | 任 | | | |
| 警 | 判 | 任 | | | |
| 技 | 判 | 任 | | | |
| 通 | 判 | 任 | | | |
| 譯 | 任 | | | | |

第二條 民政長官ノ官等ハ高等官一等又ハ二等トシ其ノ年俸ハ三千圓・三千五百圓又ハ四千圓トス
第三條 事務官及警視ノ官等及俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸第一號表ニ依ル諸官、通譯官ノ官等及俸給ハ陸軍通譯官ノ例ニ依ル
通譯生ノ俸給及等級ハ陸軍通譯生ノ例ニ依ル
第四條 占領地民政署ニ巡查ヲ置ク

第二類
陸軍省告示



5-0398

0129

第二類 陸軍省告示

陸軍省告示第十五號

樺太島漁業假規則左ノ通定ム

明治三十八年八月七日

陸軍大臣 寺 内 正 毅

樺太島漁業假規則

第一條 樺太島占領中同島ニ於ケル鮭、鱒及鱈ノ漁業ハ本規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ營ムコトヲ得

海豹島ノ海獸獵ハ之ヲ許可セザルモノトス

第二條 漁業ヲ營ムヘキ場所ハ其ノ漁業ヲ許可シタル漁場ニ限ル

漁業ヲ許可スヘキ漁場ハ露國官廳ノ公示シタル千九百三年度漁場區域表ニ掲クルモノ及千八百九十九年露國官廳カ長期ノ特許ヲ與ヘタルモノニ依リ其ノ許可ハ一年毎ニ之ヲ爲スモノトス但シ明治三十八年及三十九年ノ漁業ハ一免許期間トシテ之ヲ許可スルモノトス

第三條 漁業ヲ許可スヘキ漁場ハ各漁場毎ニ漁業料ヲ競争入札ニ附シ落札者ニ其ノ漁業ヲ許可スルモノトス其ノ入札執行ノ日時場所ハ管轄軍衙(樺太島ヲ管轄スル地)ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ競争入札ハ漁業ニ經驗アル帝國臣民ニシテ管轄軍衙ニ於テ相當ノ資格アリト認ムルモノニ付之ヲ行ヒ全軍衙ニ於テ豫定スル金額以上ノ最高額入札ヲ爲ス者ヲ落札者ト定ム但シ同額ノ入札者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札者ヲ定ム

第四條 漁業ヲ營マントスル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニハ管轄軍衙ハ之ニ優先ノ詮議ヲ爲スコトアルヘシ

一 帝國臣民ニシテ露國官廳ヨリ一定ノ漁場ニ於テ明治三十六年度ノ漁業ノ許可ヲ受ケタル者
二 帝國臣民ニシテ從來露國官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケタル露國人ノ漁場ヲ借受ケ漁業ニ關スル建
物其ノ他ノ財産ヲ現ニ該漁場ニ有スル者
三 樺太島在任露國人ニシテ從來露國官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケ現ニ該漁場ニ於テ自ラ漁業ヲ營ム
者但シ第一條ニ該當スル漁場ニツキテハ此ノ限ニアラス
第五條 漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ漁業ヲ營マムトスル漁場、漁種及網數、使用漁船隻數、漁夫
人員ヲ記載シ管轄軍衙ニ出願スヘシ
前項ノ願書ニハ本規則第三條ニ依ル者ハ地方廳ノ調製セル營業及身元證明書本規則第四條第一號ニ
依ル者ハ漁業ノ許可ヲ證スル書類及地方廳ノ調製セル身元證明書及漁業許可書同條第二號ニ依ル者
ハ地方廳ノ調製セル身元證明書、漁場借受契約書及漁場ニ於ケル建物其ノ他財産目録書同條第三號
ニ依ル者ハ漁業ノ許可ヲ證スル書類及漁場ニ於ケル建物其ノ他財産目録書ヲ添付スルモノトス
第六條 漁業ノ許可ヲ受ケタルトキハ管轄軍衙ノ定ムル所ニ依リ漁業料ヲ納付スヘシ但シ競争入札ニ
依リタル者ハ漁業料金ハ落札金額ニ依ル
前項漁業料ハ本規則ニ違反シ若ハ不正ノ行爲アリタル爲漁業ノ許可ヲ取消サレタル場合ト雖之ヲ免
セラル、コトナシ但シ軍事上ノ必要ニ依リ漁業ノ停止ヲ命スルトキハ其ノ漁業料ノ一部又ハ全部ヲ
免セラル、コトアルヘシ
第七條 漁業ノ許可ハ他人ニ讓渡又ハ貸渡スルコトヲ得ス
第八條 河川ノ全部及河川ノ河口前面ノ水域ハ其ノ河口ヨリ左右海岸ニ「キロメートル」間、鱒、鯉、
爲スコトヲ得ス

第九條 鮭、鱒及鯉漁ノ爲使用スヘキ漁具ハ建網及引網トス
第十條 各漁場ニ使用スル建網ハ一統ニ限ルモノトス
各漁場ニ用ウル各網間ノ左右ノ間隔ハ鮭、鱒漁ニ在リテハ二「キロメートル」鯉漁ニ在リテハ一「キ
ロメートル」半ヨリ下ルコトヲ得ス
第十一條 漁業ニ従事スル船舶ニハ特ニ許可スル場合ノ外露國人ヲ乗込マシムルコトヲ得ス
第十二條 漁業者及其ノ使用人ハ管轄軍衙ノ許可ヲ得テ同島ニ於ケル樹木ヲ伐採シ山林ヲ傷害スヘ
カラス
第十三條 漁業者及其ノ使用人ハ本規則ノ外管轄軍衙ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スヘキモノトス
第十四條 管轄軍衙ニ於テ軍事上必要ト認ムル場合ハ漁場區域ノ一部又ハ全部ニ對シ漁業ノ停止ヲ命
スルコトアルヘシ
第十五條 本規則ニ違反シタル者ニハ管轄軍衙ニ於テ漁業ノ許可ヲ取消スノ外軍令ニ依リ處罰スルコ
トアルヘシ
第十六條 樺太島所在土人ニシテ土人以外ノ者ヲ使用セス小漁具ヲ以テ漁業ヲ爲ス者ニハ本規則ヲ適
用セス
第十七條 昆布採取業其ノ他第一條以外ノ漁業ヲ爲サムトスル者ハ前諸條ノ規定ニ依ラス管轄軍衙ノ
定ムル所ニ從ヒ料金ヲ納付シテ鑑札ヲ受クヘシ
附 則
第十八條 本規則第四條ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケ得ヘキ者ニシテ本年及明治三十九年漁業ニツキ出願
スル者ハ本年九月五日迄ニ願書ヲ差出スヘシ
前項出願期日ハ願書ノ到着スヘキ日ヲ示ス

第十九條 本規則第五條ノ願書ハ在「コルサコウフ」樺太民政署ニ差出スモノトス。

陸軍省告示第十六號 (明治三十九年五月) 樺太島出入船舶及渡航者規則左ノ通定ム

明治三十八年八月七日

陸軍大臣 寺内正毅

樺太島出入船舶及渡航者規則

第一條 本規則ハ樺太島ニ出入セムトスル船舶及同島渡航者ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

明治三十八年陸軍省告示第十五號ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タル者ノ漁業ニ使用スル船舶及其ノ乗組員ニツキテハ本規則ヲ適用セス

第二條 船舶ノ出入シ得ヘキ港灣ハ當分ノ内「コルサコウフ」港ニ限ル但シ陸軍大臣又ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項以外ノ港灣ニ出入ヲ許ス場合ハ更ニ告示ス

第三條 出入船舶ハ日本船舶ニ限ル

第四條 渡航者及出入船舶ノ船員ハ日本臣民ニ限ル但シ陸軍大臣又ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ニ於テ特ニ認許シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ掲クル者ハ渡航スルコトヲ得ス

- 一 豫戒令施行中ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者
- 三 剝奪公權者及停止公權者

四 一定ノ生業ナキ者

第六條 渡航者ハ上陸後直ニ本籍地若ハ居住地ノ地方官廳ニ於テ調製セル身元證明書及戶籍謄本ヲ添ヘ民政署ニ届出ツヘシ

第七條 出入船舶ノ碇泊及乗客貨物ノ揚陸等ニツキテハ運輸通信官衙ノ指示ニ從フヘキモノトス

運輸通信官衙ハ必要ニ應ジ出入船舶ニ臨檢スルコトアルヘシ

第八條 出入船舶及渡航者ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ノ規則及命令ヲ遵守スヘキモノトス

樺太島ヲ管轄スル軍衙ハ必要ニ應ジ船舶ノ出入及渡航者ノ上陸ヲ禁シ、船舶若ハ渡航者ヲ抑留シ又ハ之ニ退去ヲ命スルコトアルヘシ

陸軍省告示第十一號

明治三十八年八月陸軍省告示第十六號樺太島出入船舶及渡航者規則第四條中「及出入船舶ノ船員」ヲ「出入ノ船員」ニ改ム

明治三十九年五月二十二日

陸軍大臣 寺内正毅

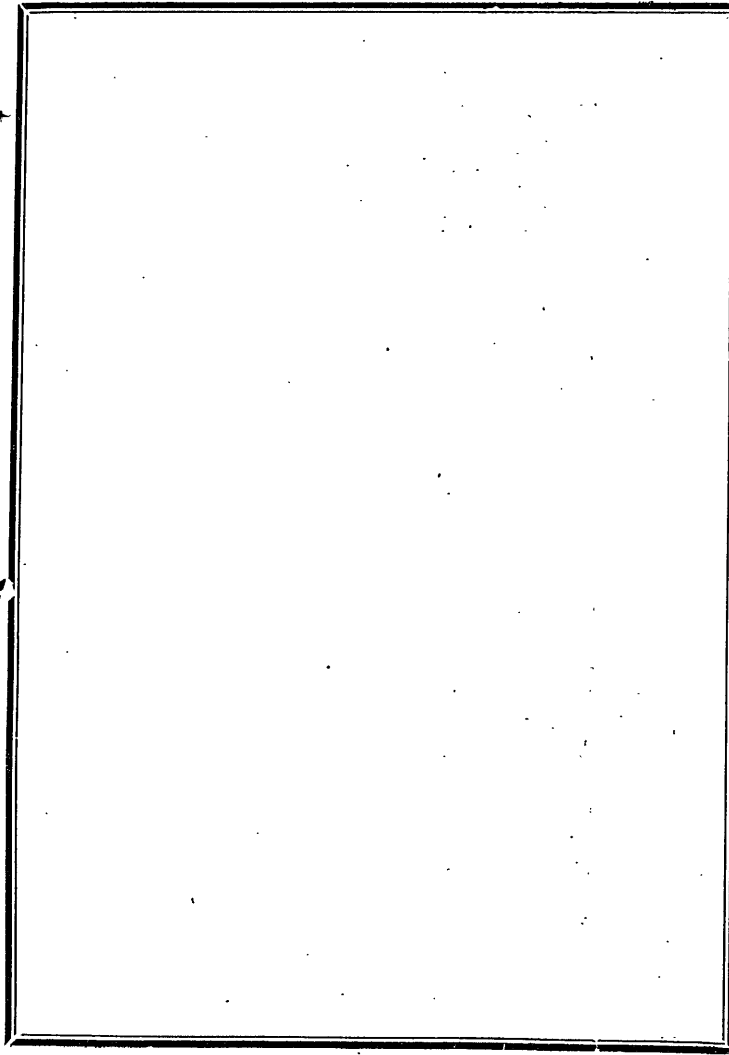
陸軍省告示第十二號

樺太島出入船舶及渡航者規則ニ依リ同島「マウカ」港ニ船舶ノ出入ヲ許ス

明治三十九年五月二十二日

陸軍大臣 寺内正毅

第三類
軍令



5-0398

0133

第三類 軍令

軍令第一號

樺太民政署本署ヲ「アレキサンドル」ニ置キ支署ヲ「コルサコウフ」ニ置ク
明治三十八年八月廿八日

樺太軍司令官

軍令第二號

- 「コルサコウフ」「ボロアントマリ」「ベルツヤバージ」及其ノ附近ニ於テ左ニ掲クル事項ニ付民政ヲ布
キ民政長官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ民政長官ハ支署長若ハ他ノ事務官ヲシテ其ノ權限ノ一部ヲ行ハシ
ムルコトヲ得
- 一 出入船舶ノ檢査ニ關スルコト
 - 二 出入船舶及渡航者ノ取締ニ關スルコト
 - 三 人民ノ出願ニ係ル土地使用、家屋倉庫等ノ建築並ニ諸營業ノ許否及其ノ取締ニ關スルコト
 - 四 土地使用料、營業免許料其ノ他ノ公課ヲ定ムルコト及其ノ徵收ニ關スルコト
 - 五 占領地人民ノ保護及救助ニ關スルコト
 - 六 市街豫定地並ニ其區劃ヲ定ムルコト
 - 七 衛生ニ關スルコト
 - 八 前各項ノ外行政警察及司法警察ニ關スルコト
 - 九 占領地人民ノ刑事及占領地人民並ニ在留帝國臣民ノ行政規則違反ニ對スル審判及處罰ニ關スル
コト

十 民事審判事件
十一 樺太島漁業假規則施行ニ關スルコト
十二 行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令施行ニ關スルコト
第九號及第十號ニ關スル規則ハ軍令ヲ以テ之ヲ定メ第六號ニ掲クル事項ハ樺太軍司令官ノ認可ヲ經ル
モノトス
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第三號
民政施行地域内ニ於テ民政長官ノ命令ニ由ルノ外居留民ノ團體ヲ作ルコトヲ禁ス其ノ團體ヲ作ルコトヲ發
起シ勸誘シ又ハ其ノ勸誘ニ應シタル者ハ百圓以内ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム
退去命令ヲ實行スル爲メ民政長官ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第四號
本島ニ於テ鑛物(石油ヲ)ノ採取、山林ノ伐採並ニ狩獵ハ新ニ之ヲ許可セシム但シ一時ノ利用ノ爲メ所轄官
憲ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限りニアラス
許可ヲ得シテ鑛物(石油ヲ)ヲ採取シ山林ヲ伐採シ狩獵ヲ爲シ又ハ土地ヲ占有シタルモノハ五百圓以下
ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム
退去命令ヲ實行スル爲メ所轄官憲ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第五號
官命ニ依リ又ハ官ノ許可ヲ受ケタル者ノ外本島産ノ鑛物(石油ヲ)林産物、野鳥(其ノ卵子ヲ含ム)
野獸、海鳥(其ノ卵子ヲ含ム)海獸、家畜(其ノ卵子ヲ含ム)、家畜及獸皮ヲ本島外ニ移出スルコトヲ禁ス
犯シタル者ハ五百圓以内ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム
退去命令ヲ實行スル爲メ所轄官憲ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第六號
帝國臣民ノ渡航者ニシテ民政施行地域「アレキサンドル」「ルイコフ」及其ノ附近ニ於テ家畜ヲ屠殺セ
ントスルモノハ所轄官憲ノ許可ヲ受クヘシ犯シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リテハ本島外
ニ退去セシム
退去命令ヲ實行スル爲メ所轄官憲ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第七號
民政長官ハ樺太軍司令官所在地ヲ距ルコト遠隔ナル民政地域内ニ駐在スル場合ニ於テ必要ト認ムルト
キハ軍令ニ低觸セサル範圍内ニ於テ署令ヲ發シ五十圓以下ノ罰金若ハ三十日以内ノ禁錮ノ罰則ヲ附ス
ルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第八號
支署長ハ委任ノ範圍ニ於テ又ハ輕易ナル事項ニ付支署令ヲ發シ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留
ヲ科スヘキ罰則ヲ設クルコトヲ得
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第九號
民政ニ關スル軍令ハ民政署官報ニ登載シ且ツ之ヲ必要ノ場所ニ揭示スルヲ以テ公布式トス
署令及支署令ハ支署官報ニ登載シ且ツ之ヲ必要ノ場所ニ揭示スルヲ以テ公布式トス
民政ニ關スル軍令ハ別ニ施行ノ期日ヲ定メタルモノヲ除ク外樺太軍司令官所在地ニ於テハ公布ノ翌日
ヨリ其ノ他ハ民政署官報到達及揭示ノ翌日ヨリ之ヲ施行ス
署令及支署令ハ別ニ施行ノ期日ヲ定メタルモノヲ除ク外支署所在地ニ於テハ公布ノ翌日ヨリ其ノ他ハ
支署官報到達及揭示ノ翌日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第十號 (明治三十九年二月十五日)
本島内ニ於ケル土地家屋ニ關シ占領地人民ト締結シタル契約ハ所轄官憲ノ許可ヲ受クルニアラサレハ
占領中其ノ効力ヲ生セス但シ官憲ト占領地人民トノ契約ハ此ノ限ニアラス
本令ハ占領軍上陸ノ日ニ溯リ之ヲ施行ス
明治三十八年八月廿八日
樺太軍司令官

軍令第十一號 (明治三十八年十月十四日)
第一條 海獸ヲ獵獲シ又ハ許可ヲ得スシテ鯨、鯨ノ漁業ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ且
ツ其ノ漁獵具、船舶及收穫物ヲ沒收シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム許可ヲ受ケタル漁場
以外ニ於テ鯨、鯨及鯨ノ漁業ヲ爲シタル者亦同シ
第二條 樺太島漁業假規則第七條乃至第十二條ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ
其ノ犯罪ノ用ニ供シ及之ニ依リテ獲タル物ヲ沒收シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム
第三條 鑑札ヲ受ケスシテ昆布採取業ヲ爲シ又ハ鯨、鯨及鯨以外ノ漁業ヲ爲シタル者ハ參百圓以下ノ
罰金ニ處シ且ツ其ノ漁具、船舶及收穫物ヲ沒收シ情狀ニ依リテハ之ヲ本島外ニ退去セシム
第四條 退去命令ヲ實行スル爲メ所轄官憲ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年九月九日
樺太軍司令官

軍令第十號
樺太島漁業假規則ニ依リ鯨、鯨及鯨ノ漁業ヲ許可シタル場所及其ノ附近ニ民政ヲ布ク
樺太南部ニ於テ前項以外ノ區域ニ民政ヲ布クコトヲ要スルトキハ民政長官ハ南部守備隊司令官ト協議
シテ之ヲ定メ民政長官之ヲ告示スヘシ
民政施行ニ就テハ軍令第十號ヲ適用ス
明治三十八年九月九日
樺太軍司令官

軍令第十號
公安ヲ害シ風俗ヲ紊リ其ノ他不穩ノ舉動アル者ハ當該官憲ニ於テ之ヲ本島外ニ退去セシムルコトヲ得

退去命令ヲ實行スル爲メ當該官憲ハ總テノ強制力ヲ使用スルコトヲ得
明治三十八年九月九日
樺 太 軍 司 令 官

軍令第拾四號
民政長官ハ其ノ定ムル所ノ命令ヲ以テ物件沒收ノ規定ヲ設クルコトヲ得
明治三十八年九月九日
樺 太 軍 司 令 官

軍令第拾五號

第一條 民政長官ノ許可ヲ受ケタル者ハ民政施行地域内ニ放置シタル牛馬ヲ取押フルコトヲ得
前項ニヨリ取押ヘタル牛馬ハ無料ニテ民政署ニ納付スヘシ但シ半數以上ハ之レヲ取押人ニ拂下クヘ
シ其ノ代價ハ民政長官之ヲ定ム
第二條 牛馬取押ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ附近ニアル田園ノ穀物及牧草ヲ收入スルコトヲ得
前項ノ收入ハ現品ヲ以テ其ノ三分ノ一ヲ無料ニテ民政署ニ納付スヘシ
第三條 牛馬取押ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ附近ノ土地ヲ牛馬置場ニ使用スルコトヲ得、但シ官ハ何
時ニテモ其ノ土地ノ變更ヲ命シ其ノ面積ヲ制限シ又ハ其ノ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ
第四條 取押人其ノ他ノ間ニ起ル民事事件ハ追テ定ムル所ノ民事審判手續ニ依ル外當事者ノ協定ニ依
ルヘシ
第五條 牛馬置場ノ位置、面積、取押ヘタル牛馬ノ頭數及田園收穫物ノ量目ハ最寄民政署支署若クハ
出張所ニ届出ツヘシ
第六條 本令ニ違背シテ收穫シタル物件ハ總テ之ヲ沒收ス

第七條 本令ハ既ニ官憲ノ許可ヲ受ケタル者ニモ之レヲ適用ス
第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
明治三十八年九月十六日
樺 太 守 備 隊 司 令 官

軍令第拾六號 (明治三十九年三月三十日
軍令第拾二號ヲ以テ廢止)

一 「ソロウイヨフカ」「ミツリヨフカ」「ウラヂミロフカ」間ハ危險ノ虞アルヲ以テ當分ノ内日本人
ノ單獨通過ヲ禁ス
二 「ホムトフカ」「ウラヂミロフカ」「ノオアレキサンドローフ」間ニ於テ放置シタル牛馬ヲ取押ユ
ルコトヲ禁ス
明治三十八年九月廿二日
樺 太 守 備 隊 司 令 官

軍令第拾七號

第一條 陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タル者ノ漁業ニ使用スル船舶ノ
隻數及使用人ノ原籍及氏名ハ各漁場毎ニ漁業主ヨリ民政長官ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦
同シ
第二條 漁業許可ヲ得タル者自ラ其ノ漁場ニ在ラサルトキハ責任アル管理人ヲ定メ民政長官ヘ届出ツ
ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ
管理人ハ漁業主ニ代リ前項ノ届出ヲ爲スコトヲ得
第三條 第一條及第二條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四條 本令施行ニ要スル細則ハ民政長官之ヲ定ム

明治三十八年十月一日

樺 太守 備 隊 司 令 官

軍令第拾八號

落札漁場ノ建物其ノ他財産取締規則

- 第一條 落札ニヨリ漁業ノ許可ヲ得タル者ノ落札漁場ニ於ケル他人ノ建物及其ノ他ノ財産ヲ現狀ノ儘保管スヘシ所有者若クハ管理人ノ承認アルニテラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 他人ニ落札シタル漁場ニ漁業上必要ナル建物及其ノ他ノ財産ヲ有スル者ハ其ノ漁場ニ於ケル明治三十九年度ノ漁期開始前ニ之ヲ除去シ又ハ落札者ニ之ヲ讓渡スヘシ落札者ハ之ヲ讓受クル義務アルモノトス若シ其ノ價格ニ付當事者ノ間ニ協議調ハサルトキハ民政長官之ヲ定ム
- 第三條 前條ノ期限内ニ除去セス又ハ讓渡サ、ル建物及其ノ他ノ財産ハ無償ニテ官ノ所有ニ歸ス
- 第四條 他人ニ落札シタル漁場ニ於ケル建物及其ノ他ノ財産ニシテ落札者ノ漁業ニ妨害ナキモノニ限リ當分ノ内之ヲ存置スルコトヲ得
- 此ノ場合ニ於テハ所有者之ヲ保管スヘキモノトス
- 第五條 他人ニ落札シタル漁場ニ建物及其ノ他ノ財産ヲ有スル者其ノ保管又ハ除去ノ爲メ其ノ漁場ニ赴カントスルトキハ民政長官ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第六條 前條ノ規定ニ違背シタル者又ハ所有者若クハ管理人ノ承諾ナクシテ他人ノ建物及其ノ他ノ財産ヲ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 本令第六條ニ規定セル罰則ハ代理人又ハ傭人ノ所爲ト雖之ヲ漁業主ニ科ス
- 第八條 本令施行ニ要スル細則ハ民政長官之ヲ定ム

明治三十八年十月一日

樺 太守 備 隊 司 令 官

軍令第拾九號

- 第一條 民政施行區域内ニ於テ醫業ヲ爲サントスル者ハ開業ノ場所ヲ記シ内務大臣ヨリ授與セラレタル醫術開業免狀ヲ添ヘ所轄民政署支署長ニ届出ツヘシ
- 第二條 民政長官ニ於テ必要アリト認メタルトキハ醫術開業免狀ヲ有セサル者ト雖其ノ履歴ニ依リ地域ヲ限リ期間ヲ定メ假開業免狀ヲ授與スルコトヲ得
- 第三條 醫師其ノ業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ民政長官ハ其ノ業ノ停止若ハ禁止ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 醫術開業免狀若ハ假開業免狀ヲ有セス又ハ第一條ノ届出ヲ爲サスシテ醫師ノ行爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ本島外ニ退去セシム

樺 太守 備 隊 司 令 官

軍令第二十號

- 第一條 牛馬ノ購入又ハ取押ノ許可ヲ得タル者ハ民政長官ノ許可ヲ受クルニテアラサレハ購入又ハ取押ヘタル牛馬ヲ他人ニ賣却讓與スルコトヲ得ス違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ニ違背シテ占有、所持又ハ所有スル牛馬ハ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收ス
- 第二條 本令ハ本年九月十四日ニ遡リ之ヲ施行ス

樺 太守 備 隊 司 令 官

軍令第二十一號

占領地人民刑罰令

第一條 本令ハ樺太民政署管轄區域内ニ在ル占領地人民ノ刑事ニ適用ス但シ軍令裁判所ノ權限ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 安寧秩序ヲ害シ又ハ生命、身体、自由、名譽、財産ニ害ヲ加フルノ所爲ハ地方ノ法規慣例、陸軍刑法、海軍刑法及日本帝國刑法其ノ他ノ附屬法規ヲ參照シテ之ヲ處分ス

第三條 刑ヲ分テ死、禁錮、沒收、罰金、管、拘留及科料トス

犯罪ノ情狀ニ依リ死ニ沒收ヲ併科シ禁錮ニ沒收又ハ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四條 死ハ斬又ハ絞首トス

第五條 禁錮ハ十一日以上トシ獄ニ拘禁シ定役ニ服セシム但シ情狀ニ依リ服役セシメサルコトヲ得

第六條 沒收ハ資産ノ全部又ハ一部ヲ官沒ス

罰金ハ貳圓以上トス

管ハ百以下トシ管ニ鞭ス

拘留ハ十日以下トシ拘留場ニ留置ス

科料ハ壹圓九拾五錢以下トス

第七條 罰金ハ處分言渡ノ日ヨリ十五日以内ニ完納セシム若シ期限内ニ完納セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ徵收シ仍完納スルコト能ハサルトキハ禁錮又ハ管ニ換フ

罰金ヲ禁錮ニ換フルトキハ五十錢ヲ一日ニ換算ス其ノ五拾錢ニ滿タサルモノト雖亦同シ但シ二年ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金ヲ管ニ換フルトキハ壹圓ヲ管五ニ換算ス其ノ壹圓ニ滿タサルモノト雖亦同シ

第八條 科料ハ處分言渡ノ日ヨリ五日以内ニ完納セシム若シ期限内ニ完納セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ徵收シ仍完納スルコト能ハサルトキハ拘留ニ換フ

科料ヲ拘留ニ換フルトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 禁錮又ハ管ニ處セラレタルモノハ第七條ノ例ニ準シ罰金ニ換フルコトヲ求ムルコトヲ得

第十條 正犯、從犯、教唆犯タルト既遂犯、未遂犯タルト問ハス情狀ニ因リ本刑ヲ科シ又ハ減刑シ若ハ其ノ罪ヲ論セス

第十一條 本令中其ノ準用シ得ヘキモノハ行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令其ノ他ノ諸規則ニ違背シタル占領地人民ノ處罰ニ之ヲ適用ス

第十二條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ民政長官之ヲ定ム

第十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十月九日

樺太守備隊司令官

軍令第二十二號

民事審判條例

第一條 樺太民政署管轄區域内ニ在ル帝國臣民間、帝國臣民ト占領地人民間、帝國臣民又ハ占領地人民ト第三國人民間及第三國人民間ノ民事々件ハ日本帝國民法、商法及其ノ附屬法規ヲ準用ス

第二條 占領地人民間ノ民事々件ハ土地ノ慣例ヲ參照シテ之ヲ處斷ス

第三條 訴ハ左ノ事項ヲ具シ訴狀ヲ司法委員ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一 當事者ノ表示

二 起シタル請求ノ一定目的物及其ノ請求ノ一定原因

三 一定ノ申立
第四條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ民政長官之ヲ定ム
第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十月九日

樺 太守 備隊司令官

軍令第二十三號

樺太民政署司法委員條例

第一條 樺太民政署司法委員ハ占領地人民ノ刑事、帝國臣民、占領地人民及第三國人民ノ行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令其ノ他ノ諸規則違背者ノ處罰及軍令第二十一號ニ掲クル民事ノ審判ヲ掌ル
第二條 樺太民政署司法委員ハ民政署職員中ニ就キ民政長官之ヲ命ス
第三條 樺太民政署司法委員ノ職務ヲ行フ所ヲ民政法院ト稱ス
第四條 憲兵科將校、準士官及下士ハ犯罪ヲ搜索シタルトキハ犯人及證據書類ヲ司法委員ニ送致スヘシ
第五條 司法委員ハ犯罪ニ係ル事實審査ノ爲メ證人ヲ喚問シ鑑定ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲シ家宅ヲ搜索シ物件ヲ押收スルコトヲ得但シ官吏ヲ喚問セントスルトキハ其ノ所屬長官ノ許諾ヲ受クヘシ
第六條 司法委員ハ職務執行ノ爲メ憲兵ヲ指揮スルコトヲ得
第七條 司法委員犯罪ニ係ル證憑ノ取調ヲ終リタルトキハ處分言渡書ヲ作成シ之ヲ言渡スヘシ
第八條 犯罪ニ係ル被告事件ヲ送致シタル憲兵將校及下士ハ其ノ事件ノ審理、處分言渡ニ立會シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第九條 罪死ニ該當スルト認ムルトキハ民政長官ノ認可ヲ得テ處分言渡ヲ爲スヘシ
第十條 民政長官ハ刑ノ言渡ニ錯誤アリタルコトヲ發見シタルトキハ司法委員ニ其ノ再審ヲ命スルコトヲ得
第十一條 死ノ處分言渡ヲ爲シタルトキハ樺太守備隊司令官ノ指揮ヲ受ケ其ノ執行ヲ爲スヘシ
第十二條 刑ノ執行中ニ在ル者改悛ノ情狀顯著ナルトキハ樺太守備隊司令官ハ其ノ刑ノ全部又ハ一部ヲ赦免ス
第十三條 民事ヲ分テ審判及勸解ノ二種トス
第十四條 審判ハ勸解ノ成立セサル場合ニ限リ之ヲ行フ
第十五條 成立シタル勸解ハ審判ト同一ノ効力ヲ有ス
第十六條 司法委員ハ期日ヲ定メテ當事者ヲ召喚シ口頭辨論ヲ爲サシメ證據調ヲ爲シテ之ヲ審理スヘシ
第十七條 審理ヲ終リタルトキハ處分言渡書ヲ作成シテ之ヲ言渡スヘシ
第十八條 當事者ノ一方召喚ノ期日ニ出頭セザルトキハ闕席ノ儘審理ヲ進行スルコトヲ得
第十九條 司法委員ハ當事者ノ申請ニ依リ審判及成立シタル勸解ヲ執行スル爲メ執行文ヲ附與スヘシ
第二十條 總テノ審判ノ執行ハ憲兵ヲシテ之ヲ行ハシム
第二十一條 審判ハ合議制トス但シ民政長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ單獨制ヲ以テ之ヲ行ハシムルコトヲ得
第二十二條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規定ハ民政長官之ヲ定ム
第二十三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十月九日

樺 太守 備隊司令官

軍令第二十四號

明治三十八年九月軍令第十一號中左ノ如ク修正ス

第一條中「海獸」トアルヲ「臘虎、臘豚獸」ト改メ

第三條「退去セシム」ノ下ニ「漁業鑑札ニ記載以外ノ漁具、漁船若ハ漁夫ヲ使用シ又ハ漁業鑑札ニ記載以外ノ漁業ノ場所若ハ時期ニ漁業ヲ爲シタル者亦同シ」ヲ加フ

明治三十八年十月十四日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

軍令第二十五號

家屋一時使用規則左ノ通定ム

明治三十八年十月十八日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

第一條 本島渡來者ニシテ明年ニ亙リ在留セントスル者ハ民政長官ノ許可ヲ受ケ官憲ノ保管ニ屬スル空屋ヲ一時使用スルコトヲ得

第二條 使用ノ許可ヲ受ケタル家屋ヲ燒失、毀損シタルトキハ使用者ニ於テ之レカ賠償ノ責ヲ負フヘシ但シ不可抗力ニ因リタル場合ハ此ノ限ニアラス

第三條 本令施行前ニ於テ官憲ヨリ使用ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ繼續使用セントスル者ハ本令ニ依リ民政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ立退ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 本令施行ニ關シ必要ナル規程ハ民政長官之ヲ定ム

第六條 本令及本令ニ基キテ發スル命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ場合ニ依リテハ其

ノ使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍令第二十六號

マウカニ樺太民政署マウカ支署ヲ置キ其ノ管轄ハ直「シラヌシ」ヨリ北國境ニ至ル海岸地方並ニ其ノ附近一圓トス

明治三十八年十月廿五日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

軍令第二十七號

新聞紙取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年十月廿五日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 題號記載ノ種類及發行ノ時期

二 發行所及印刷所

三 發行人ノ原籍地、住所、氏名、年齢

許可ヲ得タル後前項記載ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ更ニ前項ニ依リ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ發行所並ニ發行人ノ住所氏名ノ變更ニ係ルトキハ其ノ許可ヲ得ルマテハ假發行所又ハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

公權剝奪又ハ公權停止中ノ者、未成年者及本島ニ在住セサル者ハ發行人トナルコトヲ得ス
 第二條 發行ノ時期ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス第十二條第二項ノ保證金ノ缺額ヲ期限内ニ完納セサル者亦同シ
 第三條 發行人ハ保證トシテ金五百圓ヲ民政署ニ納付スヘシ保證金ハ時價ニ準シタル國債證券ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得
 第四條 新聞紙ハ每號ニ發行人ノ氏名及發行所ヲ記載スヘシ
 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ發行人ト共ニ其ノ責ニ當ランム
 第五條 新聞紙ハ其ノ發行毎ニ先ツ樺太守備隊司令部、樺太民政署及所轄支署ニ各二部ヲ納ムヘシ
 第六條 左ノ事項ハ新聞紙ニ記載スルコトヲ得ス
 一 司法委員ニ於テ取調中ニ係ル犯罪ニ關スル事項
 二 刑事被告人又ハ犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤シ若ハ犯罪ヲ曲庇スル事項
 三 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書又ハ官廳ノ議事ニシテ許可ヲ得サル事項
 四 安葬秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル虞アル事項
 五 外務大臣、陸軍大臣、海軍大臣ニ於テ特ニ記載ヲ禁シタル外交又ハ軍事ニ關スル事項
 第七條 樺太守備隊司令官ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事其ノ他秘密ヲ要スル事項ニ關スル記載ヲ禁スルコトアルヘシ
 第八條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付本人又ハ關係者ヨリ取消又ハ正誤ヲ求メタルトキハ速ニ其ノ求ニ應スヘシ
 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録シタル事項ニシテ其ノ官報又ハ新聞紙ニ取消若ハ正誤ヲ掲載シタルト

キハ速ニ取消又ハ正誤スヘシ
 第九條 左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル新聞紙ハ民政長官ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ仍發行ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 一 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスル事項
 二 第六條ノ各號及第七條ニ依リ特ニ記載ヲ禁止シタル事項
 第十條 民政長官ニ於テ許可ヲ取消シタル新聞紙ニ從事シタル者又ハ本則ニ依リ處分ヲ受ケタル者ハ名義ノ如何ニ拘ハラズ再ヒ本島内ニ於テ新聞紙事業ニ従業スルヲ得ス
 數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其ノ停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス
 第十一條 本島外ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ第六條、第七條、第九條第一號ニ該當スルモノト認ムルトキハ民政長官ハ本島内ニ於ケル其ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得
 第十二條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ罰金ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ發行人ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ其ノ缺額ヲ完納スヘシ
 第十三條 第一條、第四條第一項、第五條、第十條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 第六條ニ違背シ又ハ第七條ニ依リ爲シタル命令ニ從ハサル者又ハ第九條ノ停止命令ニ違背シタル者ハ六ヶ月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十五條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスル事項ヲ記載シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 本條ヲ犯シタル者ハ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス
 第十六條 定期ニ發行スル雜誌、通信ノ類ハ其ノ學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告等ニ關スルモ

ノヲ除クノ外此ノ規則ニ依ル
第十七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

軍令第二十八號

屠獸場、屠獸及賣肉取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年十月廿九日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

屠獸場、屠獸及賣肉取締規則

第一條 本則ニ於テ屠獸ト稱スルハ食用ニ供スル牛、馬、羊、豚ヲ云フ

第二條 屠獸場ヲ設置セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
一 屠獸場設置者ノ原籍、住所、職業、氏名、年齢

二 屠獸場設置ノ場所及四隣百間以内ノ見取圖

三 工事設計書

第三條 屠獸場ノ工事落成シタルトキハ所轄民政支署長ニ届出検査ヲ受クヘシ検査ニ合格シタル後ニ非ラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ之ヲ改造シタルトキ亦同シ

第四條 屠獸場以外ノ場所ニ於テ屠獸ヲ屠殺スルコトヲ得ス

第五條 屠獸營業ヲ爲サントスル者ハ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條 屠獸ヲ屠殺セントスル者ハ其ノ前日迄ニ屠獸ノ種類、牝牡ノ區別毛色、年齢、頭數、屠殺ノ場所及其ノ時刻ヲ記シ所轄民政支署長ニ届出ヘシ若シ其ノ屠殺カ他人ノ依頼ニ係ルトキハ依頼者ノ住所、氏名ヲ附記スルコトヲ要ス

第七條 屠殺セントスル屠獸ハ屠殺前指定ノ場所ニ牽付検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ受ケヌ又ハ検査ニ

合格セザル屠獸ハ之ヲ屠殺スルコトヲ得ス検査官ニ於テ蕃殖上必要ト認ムルモノ亦同シ

第八條 屠獸屠殺ノ依頼ヲ受ケタル屠獸營業者ハ正常ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 官設屠獸場ニ於テ屠殺スルモノハ別ニ定ムル所ノ使用料ヲ徴收ス

第十條 屠殺後屠肉ニハ検印ヲ受クヘシ

第十一條 屠獸營業者ハ屠獸臺帳ヲ製シ第六條ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

屠獸台帳ハ最終記載ノ日ヨリ一年間保存スヘキモノトス

第十二條 屠獸營業者ハ所轄民政支署長ノ認可ヲ得テ屠獸料ヲ定ムヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十三條 屠夫稼業ヲ爲サントスル者ハ所轄民政支署長ニ願出鑑札ヲ受クヘシ

第十四條 傳染性疾患ニ罹レル屠夫ハ其ノ疾患治愈スルマテ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十五條 屠夫屠獸場ニ入ルトキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

屠獸ニ關シテハ總テ立會吏員ノ指揮ニ從フヘシ

第十六條 屠肉ノ運搬ニハ覆蓋ヲ有シ液汁ノ滲漏セザル清潔ノ容器ヲ用フヘシ

第十七條 屠肉販賣營業ヲ爲サントスル者ハ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十八條 官廳ノ検印ナキモノ及腐敗セル屠肉ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十九條 販賣スヘキ屠肉ハ清潔ナル白布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第二十條 屠獸營業者、屠肉販賣營業者又ハ屠夫轉居、改氏名、廢業又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ

第二十一條 屠夫鑑札ヲ毀損、亡失シ又ハ鑑札面記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出鑑札ヲ再渡又ハ書換ヲ請ヒ廢業又ハ死亡シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第二十二條 前二條ノ場合ニ於ケル死亡ノ届出若クハ死亡ニ因ル鑑札ノ返納ハ死亡者ノ親族、同居人若ハ其ノ營業又ハ稼業ニ關係アル者ニ於テ其ノ義務ヲ負フ

第二十三條 屠獸營業者、屠肉販賣營業者及屠夫此ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ公安若ハ衛生上必要ト認ムルトキハ所轄民政支署長ハ其ノ營業又ハ稼業ノ停止ヲ命シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 所轄民政支署長ニ於テ衛生上必要ト認ムルトキハ屠肉ノ廢棄ヲ命シ若ハ其ノ貯藏、販賣ニ關シ必要ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第二十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ屠獸場ヲ設置シ若ハ屠獸營業、屠肉販賣營業又ハ屠夫稼業ヲ爲シタル者

二 第六條ノ届出ヲ爲サス又ハ第七條ノ検査ヲ受ケス若クハ検査不合格ノ獸畜ヲ屠殺シタル者及第十二條ノ認可ヲ受ケスシテ屠獸料ヲ定メ若ハ之ヲ變更シタル者

三 第三條、第四條、第八條、第十條、第十一條、第十四條、第十五條第一項、第十六條、第十八條、第十九條、第二十條及第二十一條ニ違背シタル者

四 第十五條第二項ノ指揮ニ從ハス又ハ第二十三條ノ停止命令及第二十四條ノ命ニ違背シタル者可セス

第二十六條 「コルサコウフ」及「ボロアントマリ」ニ於テハ官設屠獸場ノ外私設屠獸場ノ設置ハ之ヲ許ス

第二十七條 軍隊ニ於テスル屠獸ニ付テハ本令ヲ適用セス別ニ定ムル所ニ依ル

第二十八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

軍令第二十九號

行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令其ノ他ノ諸規則違反者即決例左ノ通相定ム

明治三十八年十一月十七日

樺太守備隊司令官 山 田 保 永

第一條 支署長ハ行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令其ノ他ノ諸規則違反者即決例左ノ通相定ム

内若ハ物件沒收ヲ言渡スヲ適當ト認ムルトキハ即決ヲ以テ之ヲ言渡スコトヲ得

前項ニ掲クル事項ニ就テハ支署長ハ司法委員ト同一ノ權限ヲ有ス憲兵科將校、准士官及下士犯罪ヲ搜索シタルトキハ軍令第二十三號第四條ニ依リ犯人及證據書類ヲ司法委員ニ送致スルノ前之ヲ支署長ニ送致シ支署長ニ於テ之ヲ即決セサルコトヲ告知シタルトキハ之ヲ司法委員ニ送致スヘシ

支署長ニ於テ即決ヲ言渡シタルトキハ之ヲ司法委員ニ通知スヘシ

第二條 即決ノ言渡ヲ受ケタルモノニシテ其ノ言渡ニ不服アル者ハ正式ノ審判ヲ司法委員ニ請求スルコトヲ得但シ禁錮及拘留ヲ除ク外言渡ヲ執行ヲ停止セス

罰金及沒收ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ正式ノ審判ニ依リ罰金及沒收ノ原言渡ヨリ減シタルカ若ハ原言渡ヲ破毀セラレタルトキハ其ノ超過シタル部分ヲ返還ス但シ其ノ沒收品ニ就テハ變質、毀損、滅失、逃走等ノ責ニ任セス

第三條 正式ノ審判ヲ司法委員ニ請求スルハ即決言渡ノ日ヨリ五日以内トス但シ交通杜絶ニ因リ期日内ニ請求スル能ハサルトキハ其ノ交通杜絶中ノ日數ハ請求期間ニ算入セス

第四條 禁錮若ハ拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキハ必要ノ場合ニ於テハ支署長ハ之ヲ留置スルコトヲ得但シ言渡ノ禁錮又ハ拘留期間ヲ超過スルコトヲ得

交通杜絶ニ依リ請求期日ノ延期シタルトキハ其ノ延期日内之ヲ留置スルコトヲ得



罰金ヲ禁錮又ハ拘留ニ換刑シタル場合ニ於テモ本令ノ規定ヲ適用ス
第五條 留置シタル者正式ノ審判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ留置ヲ解クヘシ
第六條 本令ニ規定スルモノ、外必要ナル規程ハ民政長官之ヲ定ム
第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

軍令第三十號 (明治三十九年六月十四日)
消防組設置概則左ノ通相定ム

明治三十八年十二月廿九日

樺太守備隊司令官 山 田 保 永

消防組設置概則
第一條 火災ノ警戒、防禦ノ爲メ「コルサコウフ」及「ボロアントマリ」ニ消防組ヲ設置ス
第二條 消防組ハ組頭一人、小頭二人、消防手五十人ヲ以テ之ヲ組織ス但シ當分ノ内所定ノ人員ヲ置カサルコトアルヘシ
第三條 組頭及小頭ハ憲兵長之ヲ命免ス但シ組頭ノ命免ハ民政長官ノ認可ヲ受クルヲ要ス
第四條 消防手ハ憲兵分隊長之ヲ命免ス
第五條 組頭ハ憲兵ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス
小頭ハ組頭ヲ輔ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ル
第六條 憲兵長ハ民政長官ノ命ヲ受ケ消防組ヲ指揮監督ス
消防組ハ憲兵ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ憲兵ノ臨場スルマテ組頭若ハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得
第七條 消防組ハ火災警防ノ爲ニ非サレハ集合若ハ運動スルコトヲ得ス但シ憲兵長若ハ其ノ委任ヲ受

ケタル憲兵分隊長ニ於テ儀式、訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合、運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 消防組員ノ服務紀律、懲戒、手當其ノ他此ノ概則ヲ施行スル爲メニ必要ナル規程ハ民政長官之ヲ定ム

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

軍令第三十一號
樺太民政署拘禁所條例左ノ通相定ム

明治三十九年一月十五日

樺太守備隊司令官 山 田 保 永

樺太民政署拘禁所條例
第一條 樺太民政署拘禁所ハ之ヲ「コルサコウフ」ニ置キ司法委員ノ管掌ニ屬スル未決既決ノ囚人ヲ拘禁スル所ニシテ樺太守備隊憲兵長ノ管理ニ屬ス
第二條 「ウラジミロフカ」及「マツカ」ニ樺太民政署拘禁所支署ヲ置キ民政署支署長ノ即決權限ニ屬スル未決既決ノ囚人ヲ拘禁スル所トシ其ノ管理ハ憲兵分隊長又ハ憲兵分遣所長之ヲ掌ル
第三條 拘禁所職員ハ樺太憲兵隊職員ヲ以テ之ニ充ツ
第四條 憲兵准士官及下士兵ハ憲兵長ノ命ヲ承ケ拘禁所ノ警戒及看守、護送ノ事ニ服ス
第五條 憲兵長ハ拘禁ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處理ヲ爲スヘシ
第六條 司法委員又ハ民政署支署長ニ於テ拘禁ヲ要スヘキ處分言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ勝手ヲ添ヘ拘禁所又ハ拘禁所支署ノ管理者ニ通知スヘシ換刑處分ニシテ拘禁ヲ要スルトキ亦同シ
第七條 本令ノ施行ニ必要ナル事項ハ民政長官之ヲ規定ス

軍令第三十二號
薪材及用材伐採請負者取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年一月十五日

樺太守備隊司令官 山田保永

薪材及用材伐採請負者取締規則

第一條 軍隊官衙ノ請負ヲ爲シ薪材又ハ用材ノ伐採ヲ爲サントスル者ハ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條許可ヲ受ケタル者ハ民政長官ノ指定シタル樹種以外ノ樹木ヲ伐採シ又ハ指定ノ區域、數量及期間ヲ超過シテ伐採スルコトヲ得ス又其ノ伐採シタル薪材又ハ用材ヲ請負ヲ命シタル軍隊官衙ニ納付スルノ外之レヲ他ニ賣却又ハ讓與スルコトヲ得ス

第三條 第一條ノ願書ヲ差出スト同時ニ使用人ノ原籍氏名ヲ民政長官ニ届出山入鑑札ヲ申受クヘシ其ノ使用人ヲ變更シタルトキ亦同シ

山入鑑札ハ山入ノ際各自必ス携帶スヘシ山入鑑札ヲ携帶セシテ伐採ニ従事スルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ違背シタル者ハ二箇月以内ノ禁錮又ハ五百圓以内ノ罰金ニ處シ既ニ納付シタル薪材又ハ用材ニ對スル代價ハ之ヲ沒收ス

第五條 指定ノ樹種以外ノ樹木ヲ伐採シタル者ハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 指定ノ區域及數量ヲ超過シテ伐採シタル者ハ二箇月以内ノ禁錮又ハ五百圓以内ノ罰金ニ處シ區域若ハ數量ヲ超過シテ伐採シタル薪材及用材ハ之ヲ沒收ス既ニ納付シ又ハ賣却シタルトキハ其ノ代價ヲ追徴ス

第七條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ伐採シタル薪材又ハ用材ヲ他ニ賣却讓與シタルトキハ二箇月以内ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ且ツ其ノ代價ヲ追徴ス

第八條 山入鑑札ヲ所持セシテ伐採ニ従事シタル者ハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス若シ本人納付スルコト能ハサルトキハ請負者ヨリ徵收ス

附 則

第九條 本令ハ既ニ軍隊官衙ノ請負ヲ命セラレ現ニ伐採中ノ者ニモ之ヲ適用ス

第十條 前項ニ該當スル者ハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ本令第一條及第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ第三條第二項及第八條ハ本年二月一日ヨリ施行ス

軍令第三十三號

明治三十八年八月軍令第十號ヲ左ノ通改ム

樺太守備隊司令官 山田保永

本島内ニ於ケル土地家屋ニ關シ帝國臣民ト露國臣民又ハアイヌ其ノ他ノ土人トノ間ニ締結シタル契約ハ民政長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ効力ヲ生セス

本令ハ明治三十八年十月十六日ニ溯リ之ヲ施行ス

軍令第三十四號

宿屋營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年二月廿一日

樺太守備隊司令官 山田保永

宿屋營業取締規則

第一條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
一 原籍、住所、身分、氏名、年齢及從來ノ職業

二 營業ノ場所
 三 樓名又ハ屋號
 四 營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數及間取ノ圖面
 第二條 支店ヲ設ケントスルトキハ前條第二號乃至第四號ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 第三條 營業ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ第一條第二號及第四號ノ事項ヲ具シ又營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ添へ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 第四條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 營業者ハ自ラ其ノ營業ヲ管理スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第六條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ツヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人若ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出ツルコトヲ要ス
 一 營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 二 樓名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
 三 廢業又ハ死亡シタルトキ
 四 支店ヲ閉鎖シタルトキ
 五 營業ノ爲メ婦女ヲ雇入レ又ハ之ヲ解雇シタルトキ但シ雇入ノ届書ニハ其ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記載スルヲ要ス
 六 管理人又ハ雇婦女ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ

四〇

第七條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 客引ヲ出シ又ハ虚偽ノ手段ヲ以テ客ヲ勧誘スヘカラサルコト
 二 正當ノ事由ナクシテ宿泊ヲ求メテ拒絶スヘカラサルコト
 三 附録様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ備へ宿泊人アル毎ニ様式ニ示ス事項ヲ記載シ置キ最終記載ノ日ヨリ一年間保存スヘキコト
 四 宿泊人ノ衣類其ノ他ノ所持品ハ寄託ノ有無ニ拘ハラズ嚴重ニ保管スヘキコト
 五 宿泊人變死シタルトキ若ハ其ノ所持品ニシテ盜難ニ罹リ又ハ紛失シタルトキハ即時憲兵ニ届出ツヘキコト
 六 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥、食物等其ノ求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘキコト
 七 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ヨリ衣類其ノ他ノ物品ヲ受取ルヘカラサルコト但シ合意ノ上憲兵ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 八 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其ノ他ノ者ヲ濫リニ宿泊人ノ室内ニ立入ラシムヘカラサルコト
 九 宿泊人ニ面會ヲ求ムルモノアルトキハ濫ニ隠秘シ又ハ其ノ取次ヲ拒絶スヘカラサルコト
 十 歌舞、音曲其ノ他喧噪ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラサルコト
 十一 腐敗ノ兆アリ若ハ中毒ノ虞アル物又ハ宿泊人ノ求メサル飲食物ヲ供スヘカラサルコト
 十二 結核病、癩病、徵毒其ノ他傳染性疾患アル者ヲシテ宿泊人ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムヘカラサルコト營業者ニシテ其ノ疾患ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
 十三 營業所ノ内外、便所、流シ場等ハ常に清潔ニ掃除シ飲食物具ハ使用ノ都度洗滌シ不潔ナラシムヘカラサルコト

四二

十四 前各號ノ外公安、衛生若ハ風俗上ノ必要ニ依リ所轄民政支署長ニ於テ命令シタル事項
 第八條 宿泊人ハ營業者若ハ管理人ノ請求アルトキハ宿泊人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ宿泊人名簿ニ之ヲ記載スヘシ
 第九條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ツヘシ
 第十條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安、衛生若ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコト
 二 支店ノ閉鎖ヲ命スルコト
 三 組合ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト
 四 家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止、停止又ハ雇人ノ解雇ヲ命シ若ハ其ノ人員ヲ制限スルコト
 五 管理人ノ認可ヲ取消スコト
 第十一條 憲兵長ニ於テ必要ト認ムルトキハ宿泊人アル毎ニ時間ヲ限リ宿泊人名簿ニ記載ヲ要スル事項ノ届出ヲ命スルコトヲ得
 第十二條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス
 一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第二條ノ許可ヲ受ケスシテ支店ヲ設ケタルモノ
 二 第三條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ノ場所ヲ移轉シ若ハ營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更シタルモノ
 三 第九條第一項ノ認可ヲ受ケスシテ營業組合ヲ設ケ若ハ其ノ規約ヲ變更シタルモノ

四 第十條第一號乃至第四號ノ命令又ハ制限ニ從ハサルモノ
 第十三條 第五條乃至第八條、第九條第二項ニ違背シタル者及第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第十四條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
 第十五條 本令ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十六條 本令施行前宿屋又ハ旅人宿營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

附則
 附錄様式(宿泊人名簿)
 (用紙小判十二行)

| 來着月日時 | 前宿泊地 | 国籍又ハ原籍及住所 | 身業分 | 氏名 | 年齢 |
|-------|------|-----------|-----|----|----|
| 出發月日時 | 行先地 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

備考 軍隊、學生等ノ隊伍ヲ組ミタル者ハ其ノ引率スル上ノ官職、兵名並ニ隊伍ノ人員ニ止メ其ノ他ハ官公吏ハ其ノ官職、氏名ヲ記スルヲ以テ是レトシ又一般人民ト雖一市町村、一部落ノ數名同行シ或ハ妻子、弟妹、僕隸等ヲ連行スル者ニシテ其ノ原籍身元明瞭ナルトキハ同行中重立タル者又ハ連行ノ長上者ヲ式ニ從テ記載シ他ハ其ノ人口ヲ附記スルヲ以テ是レトス

軍令第三十五號

料理屋及飲食店營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年二月廿一日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

料理屋及飲食店營業取締規則

第一條 料理屋又ハ飲食店營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 一 原籍、住所、身分、氏名、年齢及從來ノ職業
 二 營業ノ場所
 三 樓名又ハ屋號
 四 營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數及間取ノ圖面
 第二條 支店ヲ設ケントスルトキハ前條第二號乃至第四號ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 第三條 營業ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ第一條第二號及第四號ノ事項ヲ具シ又營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ添へ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 第四條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ願出認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
 第六條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ツヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人若ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出ツルコトヲ要ス

一 營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 二 樓名又ハ屋號ヲ變更シタルトキ
 三 廢業シタルトキ
 四 支店ヲ閉鎖シタルトキ
 五 營業ノ爲メ婦女ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキ但シ雇入ノ届書ニハ其ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記載スルヲ要ス
 六 管理人又ハ雇婦女ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 第七條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘スヘカラサルコト
 二 來客ニ面會ヲ求ムルモノアルトキハ濫ニ之ヲ隱秘シ又ハ其ノ取次ヲ拒絕スヘカラサルコト
 三 飲食料ノ抵償トシテ來客ヨリ衣類其ノ他ノ物品ヲ受取ルヘカラサルコト但シ合意ノ上憲兵ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 四 夜間十二時以後歌舞、音曲其ノ他喧嘩ニ涉ル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラサルコト
 五 腐敗ノ兆アリ若ハ中毒ノ虞アル物又ハ客ノ求メサル飲食物ヲ供スヘカラサルコト
 六 結核病、癩病、微毒其ノ他傳染性疾患ニ罹レル者ヲシテ客ニ供スル飲食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムヘカラサルコト營業者ニシテ其ノ疾患ニ罹レルトキ亦之ニ準ス
 七 營業所ノ内外、便所、流シ場等ハ常ニ清潔ニ掃除シ飲食物具ハ使用ノ都度之ヲ洗滌シ不潔ナラシムヘカラサルコト
 八 前各號ノ外衛生若クハ風俗上ノ必要ニ依リ所轄民政支署長ニ於テ命令シタル事項

第八條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ
 第九條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安、衛生若クハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコト
 二 支店ノ閉鎖ヲ命スルコト
 三 組合ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト
 四 家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止、停止又ハ雇人ノ解雇ヲ命シ若ハ其人員ヲ制限スルコト
 五 管理人ノ認可ヲ取消スコト
 第十條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス
 一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第二條ノ許可ヲ受ケスシテ支店ヲ設ケタル者
 二 第三條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ノ場所ヲ移轉シ若ハ營業用ニ供スル建物ノ構造、坪數又ハ間取ヲ變更シタル者
 三 第八條第一項ノ認可ヲ受ケスシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其規約ヲ變更シタル者
 四 第九條第一號乃至第四號ノ命令又ハ制限ニ從ハサル者
 第十一條 第五條、第六條、第七條及第八條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第十二條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
 第十三條 本令ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ執行ス



第十四條 本令施行前料理屋又ハ飲食店營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

軍令第三十六號
質屋營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年二月廿一日

權太守備隊司令官 山 田 保 永

質屋營業取締規則

- 第一條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケヘシ
一 原籍、住所、身分、職業、氏名、年齢及從來ノ職業
- 二 營業ノ場所及店舖ノ位置
- 三 屋號又ハ通稱
- 四 嘗テ質屋營業ヲ爲シタル事實ノ有無若アラハ其ノ開始ノ年月日、場所並ニ廢業ノ年月日及營業ノ禁止又ハ停止處分ヲ受ケタル事實ノ有無
- 第二條 支店ヲ設ケントスルトキハ其ノ場所ヲ記シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受ケヘシ
- 第三條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第四條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人若ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出ツルコトヲ要ス

- 一 營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
- 二 營業ノ場所又ハ支店ヲ移轉シ若ハ支店ヲ閉鎖シタルトキ
- 三 店舖ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シ若ハ之ヲ閉鎖シタルトキ
- 四 廢業又ハ死亡シタルトキ
- 五 家族、同居人又ハ雇人ヲシテ專ハラ營業ニ從事セシメ又ハ其ノ從業ヲ罷メシメ若ハ雇人ヲ解雇シタルトキ但シ從業ノ届書ニハ從業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記載スヘシ
- 六 管理人及從業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
- 七 質物臺帳ヲ毀損、亡失シタルトキ
- 第六條 質屋ハ店舖ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 營業者物品ヲ質ニ取ラントスルトキハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若シ不正品ノ疑アルトキハ直ニ憲兵ニ申告スヘシ
- 第八條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名詳カナル者ニシテ質置主ノ身元ヲ保證スルニ足ルヘキ相當ノ事由アル者其ノ證人タルトキ又ハ憲兵ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス
- 證人ヲ要シテ物品ヲ質ニ取リタル場合ニ於テハ證人ノ住所、氏名ハ質置主ノ住所、氏名ト併セテ質物臺帳及質札ニ記載スヘシ
- 憲兵ノ承認ヲ受ケ物品ヲ質ニ取リタル場合ニ於テハ其ノ旨質物臺帳ニ記載シ憲兵ノ認印ヲ求メ置クヘシ
- 第九條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス

第十條 營業者ハ附録第一號様式ノ質物臺帳ヲ製シ所轄民政支署ノ檢印ヲ受ケテ之ヲ店舗ニ備ヘ質契約及質物處分ヲ爲シタル都度附録第二號様式ニ依リテ之ヲ記載スヘシ

第十一條 營業者質置主ノ代理人ヨリ物品ヲ受取質契約ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理人ノ住所及代理關係ヲ詳ニシ且ツ代理人ノ住所、氏名ハ質置主ノ住所、氏名ト併セテ之ヲ質物臺帳及質札ニ記載スヘシ

第十二條 營業者ハ質契約ノ證トシテ附録第二號様式ノ質札ヲ質置主ニ交付スヘシ

第十三條 營業者ハ左ノ事項ニ付所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケテ店頭其ノ他見易キ場所ニ揭示スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

一 利息ノ割合

二 流質期限

三 質物災難ニ罹リタルトキノ處辨方

四 質物出入時間

流質期限ハ三ヶ月以上ノ期間ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ質物ノ性質ニ因ルカ又ハ特別ノ事情アルモノハ此ノ限リニアラス

第十四條 營業者ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス

轉質ハ當分ノ内之ヲ禁止ス

第十五條 營業者ハ左ニ掲クル制限内ノ利息ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ金錢ヲ領收スルコトヲ得ス

一 貸金五十錢以下ハ一月月百分ノ五半

二 貸金一圓以下ハ一月月百分ノ四半

三 貸金五圓以下ハ一月月百分ノ四半

四 貸金十圓以下ハ一月月百分ノ三半

前項第二號以下ノ貸金ノ利率ハ其ノ貸金ノ額カ各其ノ前號ニ規定セル貸金ノ最高額ニ相當スル部分ニ限リ各其ノ前號ノ規定ニ依ル

前二項ニ違背シタル質契約ハ其ノ違背セル部分ニ限リ無効トス

第十六條 質置主ハ流質期限前何時タリトモ元利金ヲ辨濟シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得

第十七條 營業者ハ何人ニ拘ハラス質札ヲ所持スル者ニ質物ヲ返還スルコトヲ得但シ不正ノ手段ニ因テ質札ヲ所持スル疑アルトキハ直ニ憲兵ニ申告スヘシ

第十八條 營業者ハ流質期限後ハ何時タリトモ其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得

第十九條 質物臺帳ヲ廢棄セントスルトキハ其ノ臺帳ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ質物ニ對スル處分終了シタル後ニ非ザレハ願出ツルコトヲ得ス

第二十條 質物臺帳ヲ毀損、亡失シタルトキハ其ノ臺帳ニ記載シアリシ現在ノ物品ヲ十日以内ニ新臺帳ニ登載シ所轄民政支署長ニ提出シ檢閲ヲ受クヘシ

第二十一條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ

第二十二條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認めルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコト

二 支店ノ閉鎖ヲ命スルコト

三 組合ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト

四 家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止若ハ停止ヲ命シ又ハ雇人ノ解雇ヲ命スルコト

五 管理人ノ認可ヲ取消スコト

第二十三條 憲兵ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒ニ汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物及質物臺帳ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ期間ヲ限リ質物及質物臺帳ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 質物ニシテ遺失物又ハ贖物ニ係ルトキハ憲兵ハ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若シ被害者知レサルトキハ二ヶ年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ

第二十五條 質屋廢業シ若ハ許可ヲ取消サレ又ハ許可ノ効ヲ失フト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質物ニ付テハ尙本令ノ規定ヲ適用ス營業ノ停止命令ヲ受ケタル者其ノ停止期間亦同シ

第二十六條 管理人ヲ置キタルトキハ本令第六條乃至第十二條、第十四條、第十五條、第十七條、第十九條及第二十條ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス

第二十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第二條ノ許可ヲ受ケスシテ支店ヲ設ケタル者

二 第十六條ノ場合ニ於テ質物ノ受戻ヲ拒ミタル者

三 第十九條ノ許可ヲ受ケスシテ質物臺帳ヲ廢棄シタル者

四 第二十一條第一項ノ認可ヲ受ケスシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者

五 第二十二條第一號乃至第四號ノ命令ニ従ハサル者

六 第二十三條ノ場合ニ於テ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ質物臺帳ヲ毀損亡失シタル者

七 第六條乃至第十一條、第十二條、第十四條、第十五條及第十七條ニ違背シタル者

第二十八條 第四條、第五條、第十三條、第二十條及第二十一條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

五二

第二十九條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責任ス

附錄 第一號

年 號 月 日 起

質 物 臺 帳

紙 數 (表紙ヲ除ク) 何 枚

支 署 印

備考 裏面ニ營業者ノ原籍、住所、氏名ヲ記シ若シ管理人アルトキハ其ノ原籍、住所、氏名ヲ併記スヘシ
大判紙形横折ニテ厚表紙ヲ附シ本綴トス
紙數ハ滿一ヶ年間使用ノ見積ニテ甚シキ過不足ナキヲ要ス

五三

| 附録 第二號 | | 第一欄 | 第二欄 | 第三欄 |
|---------------------------|-----|----------------|-----|--------------------------|
| 第一號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 受戻 元利金何圓何拾錢受取 |
| 一、墨羽二重男袴 但シ何々五ツ紋附裏花色秩父 | 壹枚 | | | |
| 此貸金何圓何拾錢 | | | | |
| 第二號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 内三俵受戻 元利金ノ内何圓受取 |
| 一、博多男帯 | 壹筋 | | | |
| 但シ茶ト紺ト淺黄トノ小柄縹縹裏紺 | | | | |
| 無地 | | | | |
| 一、銘仙男結入 | 壹枚 | | | |
| 但シ茶ト紺ト・縹縹縹木綿 | | | | |
| 此貸金何圓何拾錢 | | | | |
| 第三號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 流賃 元利金ノ内何圓受取 |
| 一、玄米(四斗二升八) | 六俵 | | | |
| 但シ陸前米晚稻 | | | | |
| 此貸金何拾何圓 | | | | |

五四

| 附録 第三號 | | 第一欄 | 第二欄 | 第三欄 |
|---------------|-----|----------------|-----|-------------------------------------|
| 第四號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 流賃 此品自用ニ供ス |
| 一、金圓時計 銀共 | 壹個 | | | |
| 但シ十八金十九形兩蓋 | | | | |
| 此貸金何拾圓 | | | | |
| 第五號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 流賃 何府縣郡市町村大字何某ニ金何圓ニテ 賣却 |
| 一、双子襦袢 | 壹枚 | | | |
| 但シ紺ト赤ト大柄縹縹裏淺黄 | | | | |
| 唐木綿 | | | | |
| 第六號 | 月 日 | 何府縣郡市町村大字 何 | 何 | 年 月 日 流賃 元利金ノ内何圓受取 |
| 一、毛織子丸帯 | 壹筋 | | | |
| 但シ何々 | | | | |
| 此貸金何圓 | | | | |

五五

備考 第一欄ニハ貨物ノ番號、品名、種類、数量、形状、模様、産地、裝飾、特徴及貸金額等第二欄ニハ買主ノ原籍、住所、氏名又ハ代理人、証人アルトキハ其ノ原籍、住所、氏名等第三欄ニハ受戻又ハ流賃ノ別、其ノ年月日及流賃ニ付テハ處分ノ結果即チ賣却シタルトキハ其ノ年月日、代價、買主ノ原籍、住所、氏名又自用ニ供シ者ハ古物商ヲ兼業スル者ニシテ之ヲ商品ニ移シタルトキハ其事由ヲ詳ニスヘシ

買物証置ノ場所、貸金元利ノ計算等營業者ニ於テ必要トスルモノハ適宜記入スルモ妨ナシ

第三欄ニ受戻又ハ流賃ノ記載ナキモノハ貸期限内ノモノトス又流賃物ニシテ處分ノ記載ナキモノハ現在品トス



第十條ノ質物彙報ハ本令施行後十日以内ニ所轄民政支署ニ提出シテ檢印ヲ受クヘシ
軍令第三十七號
森林伐採規則左ノ通相定ム

明治三十九年二月二十八日
樺太守備隊司令官 山田 保 永

森林伐採規則
第一條 森林ノ伐採ハ特別ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外左記各號ノ用途ニ限り民政長官ニ於テ區域又ハ立木ヲ指定シテ一時之ヲ許可スルコトヲ得
一 自家建築用材
二 薪炭材
第二條 前條用材又ハ薪炭材ヲ伐採セントスル者ハ民政長官ニ出願ス可シ
第三條 民政長官ニ於テ定ムル所ノ伐採料金ヲ納付シタル後ニアラサレハ伐採ニ着手スルコトヲ得ス
第四條 伐採ノ許可ヲ受ケタル用材又ハ薪炭材ハ民政長官ノ許可ヲ得スシテ其ノ用途ヲ變更シ又ハ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ス
第五條 天災其ノ他不可抗力ニ因リ木材ヲ所定ノ期限内ニ搬出シ終ルコトヲ得ザルトキハ其ノ事由ヲ具シ搬出期限延期ヲ民政長官ニ願出ラ其ノ許可ヲ受クヘシ
第六條 造材ト運材トヲ問ハス總テ又ハ搬出期限經過後許可ヲ得スシテ木材ヲ搬出シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ木材ハ何人ノ所有ニアルヲ問ハス之ヲ沒收ス
第七條 第三條及第四條ニ違背シ又ハ搬出期限經過後許可ヲ得スシテ木材ヲ搬出シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處シ木材ハ何人ノ所有ニアルヲ問ハス之ヲ沒收ス
第八條 山入鑑札ヲ携帶セスシテ伐採運搬ニ從事シタルモノハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス若シ本人納付ト看做ス

備考 堅五寸乃至六寸横二寸以上ニシテ紙質ハ兩面ヲ用ヒ得ヘキモノ
附 則
第三十條 本令ハ明治三十九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十一條 本令施行前質屋營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

| | | | | |
|-----------|---------------------------------|---|---|---|
| 第 號 | 明治 | 年 | 月 | 日 |
| 一、貸金何圓何拾錢 | 質 置 主 何府縣郡市町村大字 何 | | | |
| 二、何々々 | 代 理 人 (證 人) 何府縣郡市町村大字 何 | | | |
| 三、何々々 | 何 | | | |
| 四、何々々 | 何 | | | |
| 五、何々々 | 何 | | | |
| 六、何々々 | 何 | | | |
| 七、何々々 | 何 | | | |
| 八、何々々 | 何 | | | |
| 九、何々々 | 何 | | | |
| 十、何々々 | 何 | | | |
| 以上 | 何 | | | |

裏

| | |
|---------------|---------------|
| 一、利子ノ割合 | 何 所(營業ノ場所ヲ記ス) |
| 二、流 質 期 限 | 何 所(支店ノ場所ヲ記ス) |
| 三、質物異種ニ編リタルトキ | 質屋營業 |
| 四、質物出入時間 | 何 (管 理 人) |
| | 某 印 |
| | 某 印 |
| | 某 印 |

第五六

スルコト能ハサルトキハ其ノ雇主ヨリ徴收ス

附 則

第九條 明治三十八年陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依リ漁業ノ許可ヲ得タル者及ヒ全年樺太民政署告示第四號漁業鑑札規則ニ依リ漁業ノ鑑札ヲ受ケタル者ニシテ所定ノ目的ノ爲メニ森林ヲ伐採スル場合ニ於テモ本則第六條及第八條ヲ適用ス

第十條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ第八條ハ本年四月一日ヨリ施行ス

軍令第三十八號

湯屋營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月十五日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

湯屋營業取締規則

第一條 湯屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ第二條構造設計書及圖面ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 原籍、住所、身分、氏名、年齢

二 浴場ノ位置

三 湯ノ種類(洗湯、蒸湯、藥湯ノ別)

四 水質(淡水、鹹水ノ別)

第二條 藥湯ハ前項ノ外其ノ使用スル藥品ノ名稱、用法及効能ヲ詳記スルヲ要ス

一 湯槽ハ木造、石造又ハ煉瓦造ト爲シ爐竈又ハ瀉管ヲ露出セス上部ニハ湯氣口ヲ設クルコト但シ

蒸湯ニ付テハ本號ノ規定ヲ適用セス

二 洗湯ハ板又ハ石、煉瓦、陶器ノ類ヲ敷キ適當ノ勾配ヲ附シ且ツ板敷ノ下又ハ石、煉瓦、陶器類ノ間隙ハ總テ厚キ漆喰叩ト爲スコト

三 蒸湯ニ在テハ前號ノ外洗湯ニ適當ノ溫度ヲ保タシムヘキ相當ノ裝置ヲ施スコト

四 湯槽、洗湯、脱衣場ハ總テ男女ノ區別ヲ爲シ交通又ハ透見シ得サル様完全ノ境界ヲ設ケ且ツ適當ニ光線ヲ通セシムルコト

五 竈口ノ周圍ハ石又ハ煉瓦ヲ以テ疊ミ若ハ厚キ漆喰塗ト爲シ煙筒ハ可燃質物ニ接セス屋上八尺以上突出セシメ轉倒ノ虞アルモノハ適當ノ方法ヲ以テ防備ヲ爲スコト

六 洗湯ト脱衣場トノ境界ニハ硝子障子ヲ設クルコト

所轄民政支署長ニ於テ前項各號中ノ規定ニ比シ同等若ハ同等以上ト認ムルトキハ他ノ方法又ハ材料ヲ用キテ構造スルヲ許可スルコトアルヘシ

第三條 浴場ニハ左ノ設備ヲ爲スヘシ

一 洗湯ニハ適當ナル湯溜及淨水溜ヲ設ケ且ツ清湯及淨水ヲ使用スルニ相應ナル小桶、手水盥及柄杓ノ類ヲ備フルコト但シ蒸湯ノ湯溜ハ前條第一項第一號ノ規定ニ準シ構造シコック附ト爲スコト

二 脱衣場ニハ浴客ノ數ニ相應スル衣類及携帶品ノ容器ヲ備フルコト

三 浴場入口ノ内庭ニ男女各別ノ履棚ヲ設ケ降雨ノトキハ傘臺ヲ備フルコト

四 湯槽、洗湯、脱衣場ヲ外部ヨリ透見シ得ヘキ場所ニハ適當ノ目隠ヲ設クルコト

五 夜間ハ浴場ノ全部ヲ十分ニ照スヘキ燈火ヲ點スルコト

六 蒸湯ニ在テハ前各號ノ外浴室ニ相應ナル適當ノ階段ヲ設クルコト

第四條 浴場ノ工事落成シ及前條ノ設備完成シタルトキハ所轄民政支署長ニ届出検査ヲ受クヘシ
 検査ニ合格シタル後ニ非サレハ開業スルコトヲ得ス

第五條 左ノ場合ニハ第一條ノ規定ニ準シ所轄民政支署長ニ届出許可ヲ受クヘシ
 一 浴場ノ位置又ハ構造ヲ變更セントスルトキ
 二 洗湯又ハ蒸湯ヲ藥湯ニ變更セントスルトキ
 三 藥湯ニ用ユル藥品ノ種類ヲ變更セントスルトキ浴場ノ位置ヲ變更シ若ハ構造變更ノ工事落成シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス若ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ得テ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出ヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第八條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ家族、同居人又ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ届出ルコトヲ要ス
 一 營業者又ハ管理人ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 二 湯ノ種類又ハ水質ヲ變更シタルトキ但シ第五條第一項第二號ノ場合ヲ除ク
 三 廢業又ハ死亡シタルトキ

第九條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 日出前午後十二時後營業ヲ爲スヘカラサルコト又烈風ノ節ハ時間ニ拘ハラズ焚火ヲ停ムヘキコト
 二 煙突ハ毎週一回以上掃除スヘキコト

三 浴場ニハ適當ノ番人ヲ置キ浴客ノ出入及衣類携帶品等ノ看守ヲ爲サシムヘキコト
 四 浴湯ハ毎日更換シ湯槽、洗場、脱衣場等ハ常ニ清潔ニ掃除スヘキコト但シ藥湯ニシテ毎日更換シ難キ事情アルモノハ期日ヲ定メ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ繼續スルコトヲ得

五 浴客ノ遺留品又ハ取換品アルトキハ浴場内浴客ノ見易キ箇所ニ揭示シ五日以内ニ物主知レサルトキハ現品ヲ添ヘ憲兵ニ届出ヘキコト

六 浴客中盜難ニ罹リタル者アルトキハ即時憲兵ニ届出ヘキコト

第十條 浴場内浴客ノ見易キ箇所ニ左ノ事項ヲ揭示スヘシ
 一 入浴料ノ定額
 二 第十一條、第十二條各號ノ事項
 三 藥湯ハ其ノ効能及浴法

第十一條 浴客ニ對シ左ノ事項ヲ履行スヘシ
 一 十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシメサルハ勿論洗場、脱衣場、履棚等總テ混同セシメサルコト
 二 入浴中放歌、喧嘩又ハ猥褻ノ雜話、不潔ノ行爲ヲ爲サシメサルコト
 三 湯槽内ニ於テ石鹼、洗粉其ノ他湯ヲ汚濁スヘキ洗料ヲ使用セシメサルコト

第十二條 左ニ記載シタル者ハ入浴ヲ拒絶スヘシ
 一 保護者ノ附添ハサル五歳未満ノ幼者、老疾者、白痴者及癡癪者ト認ムル者
 二 癩病、疥癬病及微毒患者等ニシテ著シク外部ニ顯ハレ其ノ他皮膚ノ甚シク腐爛シタル者但シ藥湯ニシテ其ノ種類ノ病者ニノミ入浴セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス
 三 身體ニ特殊ノ不潔物附着シタル者
 四 亂醉者



第十三條 管理人ヲ置キタルトキハ第九條乃至第十二條ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス

第十四條 營業者又ハ管理人本令ニ違背シ又ハ公安、衛生若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコト
- 二 浴場ノ構造又ハ設備ノ變更ヲ命スルコト
- 三 入浴料又ハ管理人ノ變更ヲ命スルコト

第十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

- 一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第四條及第五條第二項ノ検査ヲ受ケス若ハ検査ニ合格セスシテ開業シタル者
- 二 第五條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ其ノ各號ノ事項ヲ爲シタル者
- 三 第十四條各號ノ命令ニ従ハサル者

第十六條 第九條第四號ノ認可ヲ受ケタル期日以後藥湯ヲ更換セサル者及第七條乃至第十二條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十七條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス

第十八條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本令施行前湯屋營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ニシテ浴場ノ構造第二條ノ規定ニ適合セス又ハ第三條ノ設備ヲ缺クモノハ該規定ニ依リ本年五月三十一日迄ニ改修又ハ設備ヲ爲シ所轄民政支署長ニ届出検査ヲ受クヘシ

前項ノ検査ヲ受ケス又ハ検査ニ合格セサル者ハ期限後許可ノ効ヲ失フ

軍令第三十九號
馬車營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月十五日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

馬車營業取締規則

第一條 馬車營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 原籍、住所、身分、氏名、年齢及從來ノ職業
- 二 營業ノ種類 乗合馬車 貨物馬車
- 三 營業ノ場所
- 四 往復スヘキ線路
- 五 營業用ニ供スル車輛數 乗合馬車ノ車輛ニハ乘客定員ヲ附記スルコト

第二條 營業ノ種類又ハ往復スヘキ線路ヲ變更セントスルトキハ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 營業許可ノ後三ヶ月以内ニ開業セス又ハ引續キ六ヶ月以上休業シタルトキハ許可ノ効ヲ失フ但シ所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ休業シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

シ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 營業用ニ供スル車輛ハ所轄民政支署ノ検査ヲ受ケ合格シタルモノニ限ル

検査ニ合格シタル車輛ニハ検査證ヲ付與ス

第六條 車輛検査證ハ車輛ノ見易キ箇所ニ釘附スヘシ

第七條 乗合馬車ニハ車掌、馭者及馬丁ヲ置クヘシ但シ馬丁ハ車掌之ヲ兼テ又乘客定員十人未満ノ馬



車ニ限り取者ヲシテ車掌及馬丁ヲ兼ネシムルコトヲ得
貨物馬車ニハ取者ヲ置クヘシ
第八條 車掌、取者、馬丁ヲ雇入レ又ハ家族、同居人ヲシテ車掌、取者、馬丁タラシメントスルトキハ其ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記シ所轄民政支署長ニ願出鑑札ヲ受ケ之ヲ携帯セシムヘシ
營業者自ラ車掌、取者、馬丁タラントスルトキ亦之ニ準ス
貨物馬車ノ取者ニ對シテハ前項ノ規定ヲ適用セス
第九條 車掌、取者ハ年齢滿十八歳以上馬丁ハ同拾六歳以上ノ強壯ナル男子ニシテ取車ハ取術ニ熟練シタルモノニ限ル

六四

第十條 車輛ニハ適當ノ燈器及號角又ハ號令ヲ備フヘシ
第十一條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ第三號、第四號及第六號ノ場合ハ車輛検査證又ハ鑑札ヲ返納シ第五號及第七號ノ場合ハ車輛検査證又ハ鑑札ノ再下付若ハ書換ヲ受クルコトヲ要ス
一 營業者及管理人ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
二 營業ノ場所ヲ移轉シタルトキ
三 廢業シタルトキ
四 車掌、取者、馬丁死亡シ又ハ之レヲ解雇シ又ハ其ノ業ヲ罷メシメタルトキ及車掌、取者、馬丁ヲ兼スル營業者ニシテ其ノ業ヲ罷メタルトキ
五 車掌、取者、馬丁ノ鑑札ヲ毀損、亡失シ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ
六 車輛ヲ毀損、亡失、賣渡、讓渡シ又ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ若シ賣渡讓渡ノ場合ニハ買受人、讓受人ノ連署ヲ要ス

七

車輛検査證ヲ毀損、亡失シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不明ニナリタルトキ營業者死亡シタルトキハ其ノ家族、同居人又ハ其ノ營業ニ關係アルモノヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出車輛検査證ヲ返納スヘシ但シ相續人又ハ他ノ家族ニ於テ引續營業ヲ爲サントスルトキハ所轄民政支署長ニ届出車輛検査證ノ書換ヲ受クヘシ
第十二條 車掌ハ就業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 定員外ニ客ヲ乗載スヘカラサルコト但シ十二歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ五歳未滿ノ者ハ定員外トス

二 傳染性疾患患者、人ノ厭忌スヘキ疾患患者及亂醉者等ヲ乗載スヘカラサルコト
三 惡臭ヲ發シ又ハ危險、不潔ノ物品ヲ乗載スヘカラサルコト
四 定額ノ賃錢ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ金錢ヲ領收スヘカラサルコト
五 行人ニ對シテ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラサルコト
六 就業中酩酊スヘカラサルコト
七 馬車ノ行進中乗客ヲ乗降スヘカラサルコト
八 正當ノ事由ナクシテ乗車及發車ヲ拒ムヘカラサルコト
九 夜間ハ馬車ノ前面及車室内ニ點燈スヘキコト
第十三條 取者ハ就業中左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 止ムヲ得サル場合ノ外取者臺ヲ離ルヘカラサルコト但シ貨物馬車ノ取者ハ此ノ限ニ在ラス
二 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラサルコト
三 許可線路以外ニ行車スヘカラサルコト
四 交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ停車シ又ハ貨物ノ積卸ヲ爲シ若ハ馬ニ秣飲セシムヘカラサル

六五

六六

五 馬車ヲ併行シ又ハ他ノ馬車ト競争スヘカラサルコト

六 就業中酷罰スヘカラサルコト

七 交通頻繁又ハ道路狹隘ノ場所、街角、橋梁及坂路ヲ通過スルトキハ馬丁ヲ前行セシメ號角又ハ號鈴ヲ鳴ラシ徐行スヘキコト

八 人又ハ車馬ニ行逢フトキハ號角又ハ號鈴ヲ鳴ラシ左ニ避クヘキコト

九 人又ハ車馬ヲ追過セントスルトキハ號角又ハ號鈴ヲ鳴ラシ避讓ヲ求ムヘキコト

十 貨車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ之ヲ避クヘキコト

十一 街角ヲ通過スルトキハ右折ハ大廻ヲ爲シ左折ハ小廻ヲ爲スヘキコト

一 貨物馬車ノ取者ハ前項各號ニ掲クルモノ、外左ノ事項ヲ遵守スヘシ

二 前條第四號、第八號及第九號ノ事項但シ車室内ノ點燈ハ之ヲ要セス

三 荷臺ヨリ高サ六尺、左右一尺、前後各二尺ヲ超過スル貨物ヲ乘載スヘカラサルコト但シ竹木其ノ他分割スヘカラサルモノ又ハ藁、秫其ノ他輕量ナル物質ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四 長大ナル貨物ヲ運搬スル爲メ必要トスルモノ、外馬車二臺以上ヲ連繫スヘカラサルコト

五 人ヲ乘載スヘカラサルコト

六 尖端ヲ繩束セスシテ尖リタル竹木其ノ他ノ貨物ヲ乘載シ又ハ墜落、漏出、飛散ヲ防クニ足ルヘキ裝置ヲ爲サスシテ其ノ虞アル貨物ヲ乘載スヘカラサルコト

第十四條 所轄民政支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ隨時場所ヲ指定シテ車輛ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得

六七

何等ノ事由アリシニ拘ハラス前項ノ検査ヲ受ケサル車輛ハ其ノ期日以後更ニ検査ヲ受ケル迄營業ニ使用スルコトヲ得ス

第十五條 馬車ノ貸錢ハ民政長官之ヲ定ム

前項ニ依リ定メラレタル貸錢ハ車輛ノ見易キ箇所ニ揭示スヘシ

第十六條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ

第十七條 管理人ヲ置キタルトキハ本令第五條乃至第八條、第十一條第一項第四號乃至第七號、第十四條及第十五條第二項ノ規定ハ之ヲ管理人ニ適用ス

第十八條 本令又ハ本令ニ依リ所轄民政支署長ノ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコト

二 組合ノ解散又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト

三 車掌、取者、馬丁ノ就業ノ禁止、停止又ハ其ノ解雇ヲ命スルコト

四 車輛ノ改造又ハ車輛、馬匹ノ使用ノ禁止、停止ヲ命シ若ハ其ノ數ヲ制限スルコト

五 行車線路ヲ制限スルコト

六 管理人ノ變更ヲ命スルコト

第十九條 危害豫防上必要ト認ムルトキハ憲兵ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 定員ノ如何ニ拘ハラス乗客人員ヲ制限スルコト

二 乘載貨物ノ容量ヲ制限スルコト



三 車輛ノ修繕又ハ車輛ニ必要ノ設備ヲ命スルコト
 第二十條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス
 一 第一條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ノ種類又ハ往復スヘキ線路ヲ變更シタル者
 二 第八條ノ鑑札ヲ受ケスシテ車掌、取者、馬丁ヲ爲サシメ又ハ營業者自ラ其ノ業ヲ爲シタル者
 三 第十三條第二項第一號ニ違背シテ點燈ヲ爲サス又ハ定額外ノ賃銀ヲ領收シタル者
 四 第十六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者
 五 第十八條及第十九條各號ノ命令又ハ制限ニ從ハサル者
 六 第十七條、第九條、第十二條第一號、第四號及第九號ニ違背シタル者但シ第九條ノ違背ニ付テハ營業者又ハ管理人ヲ處罰ス
 第二十一條 第十一條第二項ノ死亡届出ヲ爲サ、ル者及ヒ車輛検査證ノ書替ヲ受ケスシテ引續營業ヲ爲シタル者、第十四條第一項ノ指定ニ從ヒ車輛ノ検査ヲ受ケタル者、第四條、第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十三條、第十四條第二項、第十五條第二項及第十六條第二項ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス但シ前條第三號及第六號ノ場合ヲ除ク
 第二十二條 本令第七條、第九條及第十條ノ規定ハ自用馬車ノ使用者、第十三條各項（第一項第三號ヲ除ク）ノ規定ハ自用馬車ノ取者ニモ亦之ヲ適用ス但シ第九條第一項ノ馬丁ヲ置カサルトキハ取者ヲシテ之ヲ兼テシメ車掌ハ之ヲ置クヲ要セス
 第二十三條 馬橋ハ馬車ト看做ス
 第二十四條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則

第二十五條 本令施行前馬車營業ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ營業ヲ爲スモノハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ第八條ノ鑑札ハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ受ケルコトヲ要ス
 馬車ノ往復スヘキ線路ヲ指定セスシテ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ線路ヲ「ボロアントマリ」「ウラジミ」「ロフカ」間ト看做ス
 軍令第四十號
 汽船取扱及舩艇取扱規則左ノ通相定ム
 明治三十九年三月二十六日
 樺太守備隊司令官 山田 保 永

第一章 汽船取扱及舩艇取扱規則
 第一條 汽船取扱營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
 一 原籍、住所、身分、氏名、年齢
 二 營業ノ場所
 三 取扱ヲ爲ス汽船ノ持主
 四 屋號又ハ通稱

第二條 營業者ハ自ラ其ノ營業ヲ管理スル場合ノ外管理人ヲ定メ連署ヲ以テ所轄民政支署長ニ届出ヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
 第三條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ
 一 營業者ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 二 支店ヲ設ケ又ハ之ヲ移轉シ若ハ之ヲ閉鎖シタルトキ



三 廢業シタルトキ
 四 取扱ヲ爲ス汽船ノ持主ヲ變更シタルトキ
 五 營業ノ爲メ他人ヲ雇入レ又ハ之ヲ解雇シタルトキ但シ雇入レノ届書ニハ其ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ヲ記載スルヲ要ス
 六 管理人又ハ雇人ノ原籍、住所、身分、氏名、年齢ニ異動ヲ生シタルトキ
 營業者死亡シタルトキハ其ノ家族、同居人又ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ相續人又ハ他ノ家族ニ於テ引續營業ヲ爲サントスルトキハ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ
 第四條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 客引ヲ出シ又ハ雇僑ノ手段ヲ以テ乗客又ハ貨物主ヲ勧誘スヘカラサルコト
 二 乗船賃、運賃及發著ノ汽船名ハ店頭其ノ他見易キ箇所ニ揭示スヘキコト
 三 乗船賃ヲ受取リタルトキハ直ニ其ノ乗客ノ指定スル汽船ノ乗船切符ヲ交付シ若シ乗客ニ於テ指定セザルトキハ最近ニ出發スル汽船ノ乗船切符ヲ交付スヘキコト
 四 傳染性疾患者、人ノ厭忌スヘキ疾患者、保護者ノ附添ハサル十二歳未満ノ幼者、亂酔者、癡癲者及白痴者ニ對シ乗船切符ヲ發賣スヘカラサルコト
 五 乗客又ハ貨物主ニ對シ汽船發著ノ時刻ヲ偽リ其ノ他故意ヲ以テ乗載ヲ誤ラシムヘカラサルコト
 六 乗船切符ヲ交付シタル後其ノ汽船ノ發著豫定時間ニ著シク異動ヲ生シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ乗客ノ見易キ箇所ニ揭示スヘキコト
 七 汽船ヲ指定シ又ハ日時ヲ豫定シテ貨物ノ回送ヲ託サレタル後其ノ汽船又ハ日時ニ乗載スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ貨物主ニ告知スヘキコト

七〇

八 安ニ口實ヲ構ヘ乗客又ハ貨物主ノ指定スル汽船ヲ變更セシムヘカラサルコト
 九 乗客ノ委託ナクシテ其ノ手荷物ヲ預リ又ハ貨物主ノ承諾ヲ得スシテ荷造ヲ改ムヘカラサルコト
 十 宿屋營業ヲ兼スル者ノ外乗客ヲ宿泊セシムヘカラサルコト
 十一 附録様式ニ依リ乗客人名簿ヲ備ヘ乗客アル毎ニ様式ニ示ス事項ヲ記載シ置キ最終記載ノ日ヨリ一年間保存スヘキコト

附録様式(乗客人名簿)

用紙小判十二行

| 乗船年月日時 | 上陸豫定地名 | 汽船名 | 国籍又ハ原籍及住所 | 身分職業 | 氏名 | 年齢 |
|--------|--------|-----|-----------|------|----|----|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

七一

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

備考 軍隊、學生等ノ隊伍ヲ組ミタル者ハ其ノ引率スル上司ノ官職、氏名并ニ隊伍ノ人員ニ止メ其ノ他ノ官公吏ハ其ノ官職、氏名ヲ記スルヲ以テ足レトス又一般人民ト雖モ市町村、一部藩ノ數名同行シ或ハ妻子、弟妹、僕婢等ヲ連行スル者ニシテ其ノ原籍、身元明瞭ナルトキハ同行申重立タル者又ハ連行ノ長上者ヲ式ニ從テ記載シ他ハ其ノ人員ヲ附記スルヲ以テ足レトス

第五條 乗客ハ營業者若ハ管理人ノ請求アルトキハ乗客人名簿ニ記載ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ乗客人名簿ニ之ヲ記載スヘシ
第六條 營業者又ハ管理人本章ノ規定ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 營業ノ停止ヲ命ジ又ハ許可ヲ取消スコト
二 支店ノ閉鎖ヲ命スルコト
三 家族、同居人又ハ雇人ノ使用ノ禁止、停止又ハ雇人ノ解雇ヲ命スルコト
四 管理人ノ變更ヲ命スルコト
第七條 憲兵長ニ於テ必要ト認ムルトキハ乗客アル毎ニ時間ヲ限リ乗客人名簿ニ記載ヲ要スル事項ノ届出ヲ命スルコトヲ得

第二章 解舟營業

第八條 解舟營業ヲ爲サントスル者ハ第一條第一號第二號第四號ノ事項及營業用ニ供スル解舟數(乗客解舟ニハ定員ヲ附記シ)ヲ具シ所轄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
第九條 第二條ノ規定ハ解舟營業者ニモ亦之ヲ適用ス
第十條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ但シ第二號ノ場合及廢業シタルトキハ解舟検査證ヲ返納シ第三號ノ場合ハ解舟検査證ノ再下付又ハ書換ヲ受クルコトヲ要ス
一 第三條各號ノ事項アリタルトキ但シ第四號ノ場合ヲ除ク
二 解舟ヲ毀損、亡失、讓渡シ又ハ其ノ使用ヲ廢止シタルトキ
三 解舟検査證ヲ毀損、亡失シ若ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ其ノ文字不明ニナリタルトキ
管理人ヲ置キタルトキハ前項第二號及第三號ノ手續ハ管理人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
營業者死亡シタルトキハ其ノ家族同居人又ハ其ノ營業ニ關係アル者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出解舟検査證ヲ返納スヘシ但シ相續人又ハ他ノ家族ニ於テ引續營業ヲ爲サントスルトキハ所轄民政支署長ニ届出解舟検査證ノ書換ヲ受クヘシ
第十一條 營業者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 第四條第一號、第五號及第七號乃至第十號ノ事項
 二 所轄民政支署ノ検査ヲ受ケ合格シタル解舟ニ非サレハ營業ニ使用スヘカラサルコト
 三 検査ニ合格シタル解舟ニハ解舟検査證ヲ受ケ解舟ノ見易キ箇所ニ釘附スヘキコト
 四 舢子タラシムル者ハ年齡滿十八歲以上ノ強壯ナル男子ニ限ルヘキコト
 五 定員外ニ客ヲ乗載スヘカラサルコト但シ十二歲未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ五歲未滿ノ者ハ定員外トス
 六 第四條第四號ニ掲クル者及惡臭ヲ發シ又ハ危險不潔ノ物品ヲ乗載スヘカラサルコト
 七 貨物解舟ニハ客ヲ乗載スヘカラサルコト
 八 所轄民政支署長ノ認可ヲ受ケ解舟ノ賃錢ヲ定ムヘキコト其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ
 九 解舟ノ賃錢ハ解舟及店頭其ノ他見易キ箇所ニ揭示スヘキコト
 十 定額ノ賃錢ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ金錢ヲ領收スヘカラサルコト
 十一 正當ノ事由ナクシテ乗舟及發舟ヲ拒ムヘカラサルコト
 十二 暴風其ノ他ノ危險ヲ冒シテ發舟スヘカラサルコト
 十三 夜間ハ解舟ニ點燈スヘキコト
 第十四條 所轄民政支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ營業者又ハ管理人ニ對シ隨時場所ヲ指定シテ解舟ノ検査ヲ受ケシムルコトヲ得
 第十五條 何等ノ事由アリシニ拘ハラズ前項ノ検査ヲ受ケサル解舟ハ其ノ期日以後更ニ検査ヲ受クル迄營業ニ使用スルコトヲ得ス
 第十六條 營業組合ヲ設ケントスルトキハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄民政支署長ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内ニ所轄民政支署長ニ届出ヘシ
 第十四條 營業者又ハ管理人本章ノ規定又ハ本章ノ規定ニ依リ命令スル事項ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ
 危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄民政支署長ニ於テ第六條各號ノ處分ヲ爲スノ外尙左ノ處
 分ヲ爲スコトヲ得
 一 組合ノ解散又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト
 二 解舟ノ改造又ハ其ノ使用ノ禁止、停止ヲ命シ若ハ其ノ數ヲ制限スルコト
 三 解舟賃錢ノ變更ヲ命スルコト
 第十五條 危害豫防上必要ト認ムルトキハ憲兵ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 定員ノ如何ニ拘ハラズ乗客人員ヲ制限スルコト
 二 乗載貨物ノ容量ヲ制限スルコト
 三 解舟ノ修繕又ハ解舟ニ必要ノ設備ヲ命スルコト
 第三章 罰 則
 第十六條 左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス
 一 第一條及第八條ノ許可ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者
 二 第六條、第十四條及第十五條ノ命令又ハ制限ニ從ハサル者
 三 第十三條第一項ノ認可ヲ受ケシテ營業組合ヲ設ケ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者
 第十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 一 第三條第二項及第十條第三項ノ死亡届ヲ爲サ、ル者及認可ヲ受ケス若ハ解舟検査證ノ書換ヲ受
 ケシテ引續營業ヲ爲シタル者
 二 第七條ノ命令ニ從ハサル者及第十二條第一項ノ指定ニ從ヒ解舟ノ検査ヲ受ケサル者

三 第十一條第八號ノ認可ヲ受ケスシテ舢舨ノ賃錢ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタル者
四 第二條、第三條第一項、第四條、第五條、第九條、第十條第一項、第十一條（第八號ノ場合ヲ除ク）第十二條第二項及第十三條第二項ニ違背シタル者
第十八條 營業上ニ關シテハ家族、同居人又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者又ハ管理人其ノ責ニ任ス
第四章 附 則
第十九條 本令ハ明治三十九年四月十日ヨリ之ヲ施行ス
第二十條 本令施行前運送營業ノ許可ヲ受ケ現ニ汽船取扱又ハ舢舨營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ更ニ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効ヲ生セス

軍令第四十一號
旅行者取締規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月三十日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

旅行者取締規則

第一條 民政施行地域外へ旅行セントスル者ハ特別ノ規定ニ依ルモノ、外本令ニ依リ最寄民政支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ
第二條 前條ノ願書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ
一 旅行者ノ原籍、住所、身分、職業、氏名、年齢
二 旅行ノ目的
三 旅行ノ地域
四 旅行ノ日數

第三條 旅行ヲ許可スヘキ者ハ明治三十八年八月陸軍省告示第十六號ニ依リ渡航シタル者ニ限ル
第四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス
一 許可ヲ受ケスシテ旅行ヲ爲シタル者
二 虚偽ノ手段ヲ以テ旅行ノ許可ヲ受ケタル者
三 旅行許可證ヲ他人ニ貸與シタル者

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則

軍令第四十二號

明治三十八年九月軍令第十六號ハ本日限り之ヲ廢止ス

明治三十九年三月三十日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

軍令第四十三號
汚物掃除規則左ノ通り相定ム

明治三十九年四月二日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

汚物掃除規則

第一條 本令ニ於テ汚物ト稱スルハ塵芥、汚泥、汚水及屎尿ヲ謂フ
第二條 家屋ニ居住スルモノハ其ノ邸宅及附近ニ於ケル汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ
第三條 塵芥、汚泥及屎尿ハ所轄民政支署長ニ於テ指定シタル場所ニ非サレハ投棄スルコトヲ得ス
第四條 掃除義務者ハ掃除シタル塵芥、汚泥ヲ即時ニ投棄セサルトキハ適當ノ容器ニ之ヲ蒐集スヘシ

容器ニ蒐集シタル塵芥、汚泥ハ時々之ヲ投棄シ堆積スルコトヲ得ス
第五條 掃除義務者ハ土地ノ清潔保持ノ爲メ憲兵ノ指示ニ從ヒ溝渠ノ築造、廢撤、改造又ハ修繕ヲ爲スヘシ

溝渠ノ汚水ハ無害ノ場所ニ排泄スヘシ

第六條 本令ニ依リ義務者ニ於テ執行スヘキ事項ヲ執行セス又ハ之ヲ執行スルモ十分ナラスト認ムルトキハ所轄民政支署長ハ代之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ之ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ執行期間ヲ定メテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ執行シ得スト認メタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス
一 憲兵ノ督促ヲ受ケテ塵芥、汚泥ノ掃除ヲ爲サス若ハ容器ニ蒐集シタル塵芥、汚泥ヲ投棄セサル者

二 憲兵ノ督促ヲ受ケテ尿尿ヲ投棄セス若ハ汚水ヲ排泄セサル者

三 第三條、第四條第一項及第五條第一項ニ違背シタル者

第八條 本令ハ明治三十九年四月二十日ヨリ之ヲ執行ス
第九條 本令ハ當分ノ内ボロアントマリ、コルサコウフ、ウラジミロフカ、ガルキノウラスコエ及マウカニ限リ之ヲ執行ス

軍令第四十四號

官有土地建物貸付假規則左ノ通り相定ム

明治三十九年四月二十日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

官有土地建物貸付假規則

第一條 此規則ニ於テ官有土地建物ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル未開地既墾地及家屋其ノ他ノ附屬物ヲ謂フ

第二條 官有土地建物ノ貸付處分ハ此ノ規則ニ依リ民政署民政長官之ヲ執行ス

第三條 農事又ハ牧畜ノ爲メ移住スル者ニ限リ此ノ規則ニ依リ官有土地建物ヲ貸付スルコトヲ得

第四條 市街地附近ニ於テハ蔬菜耕作ノ爲メ官有土地ヲ貸付スルコトヲ得

第五條 建物及既墾地並ニ既成牧場ノ貸付ハ有償トス其ノ料金ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 未墾地ノ貸付ハ無償トシ成墾後十二年目ヨリ別ニ定ムル所ノ地料ヲ徴收ス但シ成墾後相當代價ヲ以テ拂下ルコトアルヘシ

第七條 貸付スヘキ官有土地建物ハ左ノ各號ニ依ル
一 農業目的ノ者ニハ農家ニ來家屋一戸及ヒ附屬舎並ニ其ノ宅地九百坪以内

二 移住ノ初年ニ限リ別途既墾地貳町歩以内

三 牧畜目的ノ者ニハ第壹號ノ建物及宅地ノ外牧場地五拾萬坪以内

四 蔬菜耕作ノ目的ノ者ニハ土地貳町歩以内

第八條 官有土地建物ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ戶籍抄本ヲ添へ別紙書式ニ依リ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 借受ケントスル土地、建物ノ表示

二 使用ノ目的
三 起業ノ方法
四 渡航前ノ住所、原籍、職業、身分、氏名、年齢
牧畜ノ爲メ土地建物ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ前各號ノ外所有牛馬匹ヲ記載スヘシ
第九條 貸付シタル官有土地建物ノ修理其ノ他ノ費用ハ借受人ノ負擔トス
第十條 官有土地建物貸付期限中官ニ於テ公用又ハ公益ノ事業ニ供スル必要アルトキハ貸付ノ許可ヲ取消シ期日ヲ指定シテ之ヲ返還セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタル損失ニ付補償ヲ求ムルコトヲ得
第十一條 官有土地建物ノ貸付ノ許可ヲ得タル者ニシテ指令書受領ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ其ノ土地又ハ建物ニ在任セサルトキハ貸付許可ノ効ヲ失フ但シ民政長官ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニアラス
第十二條 官有土地建物ノ借受人ハ民政長官ノ許可ヲ得シテ其ノ地形及建物ノ形状ヲ著シク變更シ又ハ故意怠慢ニ依リ亡失毀損シ若ハ荒廢ニ歸セシメタルトキハ官ニ於テ其ノ損害ヲ賠償セシムヘシ
第十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リニアラスシテ土地ヲ荒廢ニ歸セシメ若ハ起業方法ノ如ク成效セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキハ貸付ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
第十四條 命令ヲ以テ定メタル成効期間内ニ成墾セサルトキハ其ノ未成墾地ハ無償ニテ返地セシムルモノトス
第十五條 前條ニ依リ許可ヲ取消シタルトキハ未開地ニ屬シタル伐採樹木ノ代金ヲ辨償セシム其ノ金額ハ民政長官ニ於テ評價ヲ以テ之ヲ定ム
第十六條 官有土地建物ノ貸付期限中自己ノ都合ニ依リ返還スルトキハ其ノ土地建物内ニ存在スル借

受人ノ物件ハ官ニ於テ指定シタル期限内ニ之ヲ除去スヘシ若シ除去セサルトキハ官ニ於テ之ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ爲サシメ其ノ費用ヲ借受人ヨリ徴收ス期限滿了ニ由リ返還スルトキ及貸付ノ許可ヲ取消シタルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ既納ノ料金ハ之ヲ還付セス
第十七條 官有土地建物ノ貸付期限中ハ隨時其ノ使用保存及修理ノ實況ヲ検査シ不都合ト認ムルトキハ相當ノ修理又ハ改良ヲ命スルコトアルヘシ
第十八條 土地整理ノ爲メ必要ナルトキハ無償ニテ貸付地域又ハ建物ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
第十九條 前各條ニ規定スルモノ、外許可ノ際民政長官ノ定メタル命令事項ハ之ヲ遵守スヘシ
第二十條 此ノ假規則ニ依リ官有土地建物ノ貸付ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ將來發布セラレヘキ本規則ヲ遵守スヘシ
第二十一條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
書式第一號ノ(一)
官有土地貸付願
何村(區劃何線何番)(若ハ官ニ於テ御指定ノ地番)
一 未開地何町何反歩 目 的
右無償貸付之義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布セラレ、規則ハ堅ク遵守シ起業方法ノ通り成墾可仕此段奉願候也
明治 年 月 日
原籍

權太民政署民政長官何某殿

現住所
身分、職業
氏名
生年月

書式第一號ノ(二) (畑ノ例)

起業方法書

何村何番地

- 一 官有未開地何坪
- 二 樹木ノ種類員數 松目通 何寸何本
何々目通 一尺何本
- 三 開墾ノ方法
- 四 事業配當程度

初年 何千坪 此費目
 二年 何萬坪
 三年 何萬坪
 四年 何千坪
 五年 何千坪
 合計 同
 右之通り候也

書式第一號ノ(三) (牧場ノ例)

起業方法書

- 一 未開地何萬坪
- 二 樹木ノ種類員數 榎松 何寸何本
何々 何寸何本
- 三 所有牛馬數 牝牛 何頭
牡牛 何頭
- 四 事業方法
- 五 事業配當程度

初年 木柵若クハ土壘延長何間
 此費用金
 牧舎 壹棟 桁行五間此建坪十五坪
梁行三間
 此費用金
 種馬購入 牡馬 一頭
 此費用金
 初年費用計金何程

右
何
某印

二年
何、
此費用金
以下同上
合計金
右之通り候也

書式第二號

官有土地貸付願

何村何番地(若クハ官ニ於テ御指定ノ地番)
一 既墾畑地何町步 目的

但壹ヶ年貸付料何程

右有償貸付ノ義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布セラル、規則ハ堅ク
相守可申此段奉願候也

明治 年 月 日

右

何 某印

原籍
現住所
身分、職業

書式第三號

官有建物貸付願

何村何番地(若クハ官ニ於テ御指定ノ番號)

一 露式丸太造平家住宅 壹棟 奥行何間

此建坪何拾坪

一 附屬厩 壹棟 同

此建坪何坪

一 宅 何百坪 前口何間 奥行何間

一ヶ年貸付料金何程

右建物何々目的ヲ以テ有償貸付ノ義御許可相成度御許可ノ上ハ官有土地建物貸付假規則及將來發布
セラル、規則ハ堅ク相守可申此段奉願候也

明治 年 月 日

樺太民政署民政長官何某殿

氏 生 年 月 日

原籍
現住所

身分、職業

氏 生 年 月 日

第四類
告諭

權太民政署民政長官何某殿
軍令第四十五號
明治三十八年十二月軍令第三十號消防組設置概則第一條中「ボロアントマリ」ノ下ニ「ウラジミロフカ」
ヲ追加ス
明治三十九年六月十四日
權太守備隊司令官 山田保永

第四類 告諭

告諭第一號

本年八月自由渡航ヲ許サレシヨリ以來當地へ渡來スル者日ニ漸ク多キヲ加へ現ニ在留スル者其ノ數幾ト一千ニ下ラス而シテ其ノ内既ニ土地ノ一時使用ヲ許サレタル者ハ今ヤ家屋ヲ建築シ以テ在住ノ計ヲ策スルニ汲々タリト雖防塞ノ設備ヲ爲スノ時日十分ナラス勢ヒ急營粗造以テ越年スルニ足ルモノ寡ナルカ如シ今ヤ時漸ク寒冷ニ向ヒ冬期防塞ノ準備急ヲ告クルノ時ニ方リ是ノ如キ狀態ヲ觀ルハ當ニ衛生上憂慮スヘキノミナラス將來ニ於ケル本島拓殖上幾多ノ惡影響ヲ貽サンコトヲ虞ルハ以テ本日軍令第二十七號ヲ以テ家屋一時使用規則ヲ定メ現ニ官憲ノ保管ニ屬スル家屋ヲ以テ身元確實、志操堅固ナル者ニ一時其ノ使用ヲ許シ以テ應急ノ途ヲ計ラントス唯夫レ本令ハ一時ノ使用ヲ許スニ過キササルヲ以テ之ニ安シテ他日ノ計ヲ忽ニシ嚙臍ノ悔ヲ貽スコトナキ様深ク注意スルト共ニ本島ノ拓殖上ニ付誠心誠意貢獻スル所アラシコトヲ望ム

明治三十八年十月十八日

樺太守備隊司令官 山田 保 永

告諭第二號

曩ニ土地ノ一時使用ヲ許シ以テ家屋ヲ建築セシメテヨリ渡來者競フテ之カ造營ニ努メ居住並ニ營業ノ利便ヲ計リ其竣工セルモノ數百ヲ以テ算フヘク屋舎次第ニ櫛比スルニ至リ未タ數月ナラスシテ一新市街ヲ形成セントスルヲ見ルハ寔ニ悦フヘキナリ然ルニ今ヤ時漸ク近寒ノ節ニ入り日夕火氣ニ親ムヲ要スルノミナラス家屋ノ防塞ノ設備不完全ナル今日ニ於テハ勢日夜火氣ヲ絶タス自然之カ取扱ニ粗漏ナキヲ保セス況ンヤ屢風伯ノ暴威ヲ逞フスルアリ此ノ際ニ於テ最モ恐ルヘキモノハ蓋シ火災ナリ若シ不

幸ニシテ一朝火ヲ失シ祝融ノ禍ニ罹ランカ其ノ損害ハ貴重ナル貨財物資ノ亡失ニ止マラス忽チ身ノ容
ルヘキ所ナク餓寒凍餒其ノ慘禍想察ニ堪ヘサルモアルヘシ依テ特ニ一般ニ告諭シ今ニ於テ注意ヲ喚
起セントス
火ハ貴フヘシ親ムヘシ狎ルヘラス弄スヘカラス各自常ニ之ヲ取扱ニ注意シ細心警戒ヲ加ヘ自他共ニ萬
一ノ過ヲ防キ獨リ自己ノ生命財産ノ安全ヲ計ルノミナラス他人ヲシテ救フヘカラサル慘害ヲ被ラシム
カ如キコトナキヲ期センコトヲ望ム

明治三十八年十一月八日

樺太守備隊司令官 山田保永

第一節 ヲ支署告諭

ウ支署告諭第壹號

火災ノ警防ニ關シテハ昨年十一月八日附ヲ以テ守備隊司令官ヨリ告諭セラレタル次第モ有之尙ホ本官
ヨリモ時々警戒ヲ加ヘ置キタルハ各人ニ於テ十分ナル注意ヲ拂ヒツ、アルヘキハ信シテ疑ハサル所ナ
レトモ爾來不幸ニシテ火災ノ發生ヲ見ルコト少カラス今試ニ管内ニ於ケル其ノ件數ヲ調査スルニ昨年
十月二十五日ヨリ本年二月十二日ニ至ル間ニ於テ祝融ノ禍ニ罹レルモノ實ニ八件ノ多キニ上リタルハ
本官ノ深ク遺憾トスル所ナリ然リ而シテ其ノ因テ來ル所ヲ討究スルニ孰レモ皆テ燬爐使用方ノ不注意
ニ起因セザルハナシ且ツ其ノ不注意ニモ二種アリテ一ハ燬爐中破損ノ個處アルニ氣付カスシテ濫リニ
焚火スルニ因ルモノ他ハ燬爐ノ使用方ヲ知ラズシテ長時間燬爐ニ焚火ヲ繼續スルニ因ルモノ、如シ依テ
自今一層此等ノ點ニ注意シ若シ燬爐ノ要部ニ破損ノ個處アルヲ發見シタルトキハ之レカ修理ヲ加フル
ニアラサレハ決シテ焚火スヘカラス又完全ナル燬爐ト雖トモ長時間燬爐ヲ繼續スルコトナク適宜ノ時
間ニ於テ之レヲ止メ同時ニ火氣ノ上騰ヲ防キテ室内ニ導キ以テ燬ヲ取ルヲ要ス今ヤ在來家屋ノ使用者

漸ク多キヲ加ヘ場所ニ依リテハ既ニ空屋ナキニ苦メリ況ンヤ復タ移住民渡航ノ季節ハ近ク目下ノ間ニ
迫リ家屋ノ需用倍々切實ナラントスルニ方リ一朝火ヲ失シテ之レヲ烏有ニ歸セシメシカ其ノ害ノ及フ
所管ニ個人ノ生命財産ヲ損傷スルニ止マラス終ニハ本島拓殖上ニ向テ幾多ノ支障ヲ與フルニ至ルヤモ
側ルヘカラス豈亦恐レテ懼レサルヘケンヤ若シ夫レ火災ノ有無多少ハ一ニ注意ノ厚薄如何ニ在ツテ存
ス各ハ夫レ須ラク細心留意シテ荷モ萬一ノ失誤ナキヲ期シ以テ曩日發セラレタル告諭ノ趣旨ニ副ハレ
ヨ是レ切ニ本官ノ希望スル所ニシテ抑モ亦本署告ヲ發スルニ至リタル所以ナリ

明治三十九年二月二十日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原毛乃

ウ支署告諭第貳號

目下水雪融解ノ初期ニ方リタレハ久シク積雪ニ封鎖セラレ居タル塵芥其ノ他ノ汚物漸ク露出シ更ニ泥
土ニ塗ミレテ腐敗ヲ來シ臭氣ヲ放タントス就中道路及人家周圍ノ不潔ハ一層甚タシク衛生及交通上寸
時モ厭過シ難キ狀況ヲ呈セリ今ニシテ之レニ處スルノ方法ヲ講セザレハ交通ノ不便ハ勿論衛生ノ基礎
タル清潔ノ保持ハ終ニ復望ムヘカラサルニ至ランノミ願フニ管内ニ於ケル現居住者ノ多數ハ實ニ本島
開發ノ前驅者ニシテ今ヤ方サニ勇往邁進以テ其ノ所志ヲ貫徹スヘキ春農ノ好季節ニ際セリ若シ夫レ道
路ノ難易身體ノ健否ハ各人ノ前途本島ノ將來ニ向テ果シテ如何ナル關係ヲ有スヘキ乎蓋思半ニ過クル
モノアラン於茲乎本官ハ深ク感スル所アリ此ノ際特ニ大清潔法ヲ勵行シ尙水遠ニ之ヲ持續セントス各
人ニ於テモ亦能ク其ノ趣旨ヲ領シ左記各號ニ依リテ道路及家屋周圍ノ汚物ヲ掃除シ常ニ能ク交通ノ利
便ト清潔ノ保持トヲ期セラレンコトヲ望ム

明治三十九年三月二十九日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

左記

事務官 榑原毛乃

九二

- 一 各居住者ハ其ノ家屋ニ沿フタル道路ノ汚物ヲ掃除シ且ツ可成路面ヲ平坦ニシテ汚水ノ停留ヲ排除スヘシ
 - 一 家屋周囲ノ汚物ヲ掃除シ且ツ汚水ノ停留ヲ排除シテ屋内床下等ニ滲透スルコトナキ様注意スヘシ
 - 一 飲料水及使用水ノ近傍ハ特ニ注意ヲ加ヘ汚水滲透汚物混入等ノ虞ナカラシムヘシ
 - 一 溝渠下水及汚水溜等ハ常ニ能ク浚渫掃除ヲ爲シ其ノ疏通ヲ良クスヘシ
 - 一 便所ハ就中注意ヲ加ヘ便池外ニ糞尿ノ漏泄滲透スル様ノ虞ナカラシムヘシ
 - 一 掃除シタル塵芥其ノ他ノ汚物ハ適宜無害ノ場所ニ集積シ毎週二回以上最寄共同塵芥棄却場ニ運搬シテ棄却スヘシ
- 前各城ノ實行ニ關シテハ陸保相扶ケ又互ニ警告獎勵シテ遺憾ナキヲ期スヘシ

第二節 マ支署告諭

マ支署告諭

住宅倉庫ノ内外ハ常ニ清潔ニ保持セサルトキハ爲メニ不測ノ病害ヲ起スコトアルヘシ依テ左記事項ニ付各人須ク注意アルヘシ

- 一 住宅倉庫ハ其ノ内外ヲ間ハス常ニ清潔ニ爲シ置クヘシ
- 二 便所ハ大小便トモ一定ノ設備ヲナシタル場所ニ於テシ道路又ハ其ノ附近ニ放糞放尿スヘカラス
- 三 炊事場流尻ニハ一應汚水ヲ容ルヘキ設備例令ハ穴ヲ掘リ若クハ汚水桶ヲ置クカ如シヲナシ時

々之ヲ他ノ差支ナキ場所ニ排除スヘシ
塵芥其他ノ汚物ハ住宅ノ周圍ニ一定ノ棄場ヲ設ケテ之ニ遺棄スヘシ決シテ道路又ハ河川等ニ放棄スヘカラス

五 飲料水トシテ使用スル井戸又ハ河川及住宅附近ノ道路ハ常ニ清潔ナラシムヘシ
六 煤烟ハ有害ノモノナレハ室内ニ多ク烟ノ籠ラサルヲ度トシ且ツ焚火等ハ十分注意シテ之ヲ取扱ヒ苟クモ怠慢不注意ノ爲メニ火災ヲ起シ住宅ヲ失フカ如キコトナキ様各人注意アルヘシ

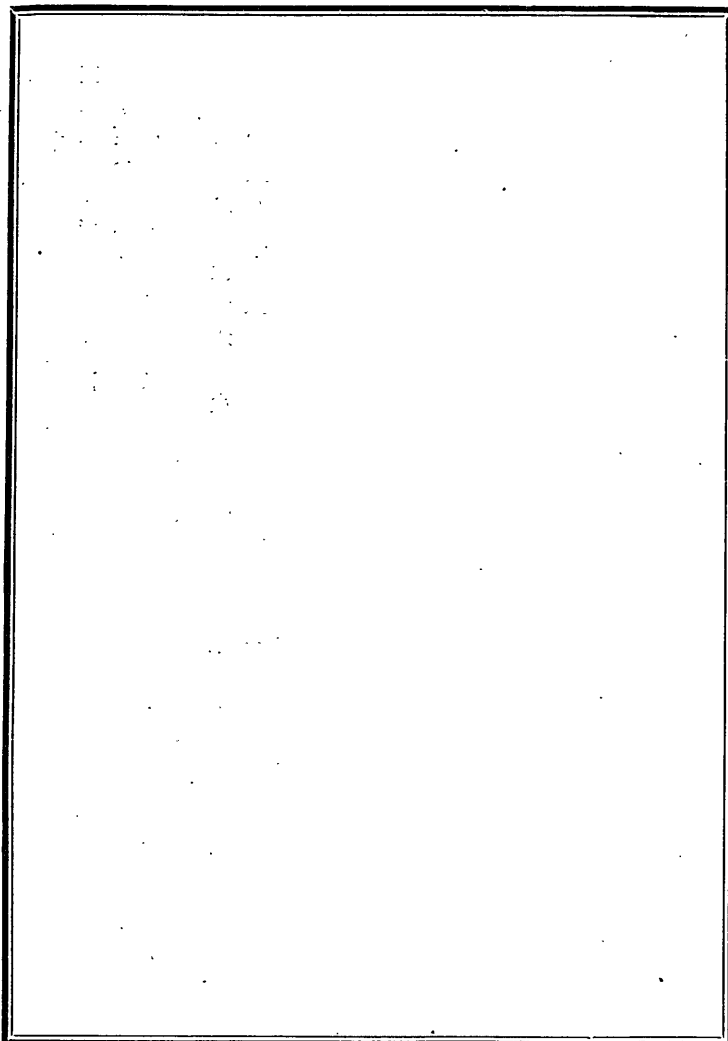
明治三十八年十二月十一日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田郷助

九三

第五類
署令



九四

5-0398

0174

第五類 署 令

第一目 本署令

署令第一號 (明治三十八年十月一日)
漁場視察者取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月六日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

漁場視察者取締規則

- 第一條 「コルサコウフ」「ボロアントマリ」「ベルワヤバーヂ」及其ノ附近以外ノ沿海ノ漁場ヲ視察セントスル者ハ其ノ漁場名・出願者ノ原籍・居住地・氏名・年齢ヲ記載シ民政署ニ願出漁場視察ノ許可ヲ受クヘシ
- 前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ受書提出スヘシ
- 第二條 漁業假規則第四條第一號ニ該當スルモノニ非ラサレハ漁場視察ノ許可ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
- 第三條 漁場視察ノ許可ヲ受ケタル者ハ從隨者トシテ樺太島出入船舶及渡航者規則ニ依リ正當ノ手續ヲ履ミタル者五人以下ヲ伴フコトヲ得
- 從隨者ノ氏名原籍地・居住地及年齢ハ第一條ノ願書ニ記載スヘシ
- 第四條 漁業ノ許可アル迄ハ船舶・家屋・納屋・其ノ他ノ建築場・工作物ヲ新築改築及大修繕ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 許可ヲ得スシテ「コルサコウフ」「ボロアントマリ」「ベルワヤバーヂ」及其ノ附近以外ノ漁場

ニ越キタル者又ハ第三條ノ規定ニ違背シテ從隨者ヲ伴ヒ又ハ從隨ヲ爲シタル者ハ二十圓以下ノ罰金
又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

第六條 第三條ノ規定ニ違背シテ從隨者ヲ伴ヒ第四條ノ事項及軍令其ノ他ノ規則命令ニ違背シタル者
ハ漁業特許ニ付優先ノ證議ヲ受クルコトヲ得サルコトアルヘシ
數人連名ヲ以テ第一條ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ連名者ノ行爲ニ付連帶ノ責任ヲ負ヒ從隨者ヲ伴フ者
ハ從隨者ノ行爲ニ付テモ其ノ責任ヲ負フモノトス

(別紙) (書式)

御 受 書

私 儀 (私 共)

「 漁場視察ノ御許可相成候ニ就テハ漁場視察者取締規則ノ御規程嚴ニ遵守可仕萬一違背ノ行爲
有之トキハ相當ノ御處分並ニ漁業特許ニ付優先ノ御證議無之モ毫モ異存申聞敢爲念受書差出候也
年 月 日 姓 名

長 官 宛

署令第二號

明治三十八年九月署令第一號漁場視察者取締規則中第二條ヲ削除ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十月一日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

署令第三號

家屋一時使用規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十八年十月八日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

家屋一時使用規則施行細則

第一條 軍令第二十五號ニ依リ家屋ヲ一時使用セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ明治三十八年十一月十
日迄ニ家屋所在地ヲ管轄スル支署長ニ願出ヘシ

一 村名並ニ家屋ノ番號
二 在留ノ目的

三 使用者ノ原籍、渡航前ノ住所、本島ニ於ケル居所、身分、職業、氏名並ニ生年月日
四 使用者ノ家族、雇人ノ氏名、生年月日

五 明年四月末日迄ノ食料其ノ他生活用品準備ノ數量

第二條 家屋使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ入口見易キ所ニ村名、家屋ノ番號、戸主、家族及雇人ノ原
籍、氏名ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第三條 家屋ハ使用ノ爲メ必要ナル修繕ヲ加フルノ外模樣換ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 使用者ノ施設シタル修繕工作物ハ使用許可ノ止ミタル日ヨリ十五日以内ニ之ヲ取拂フヘシ若
シ其ノ期限内ニ之ヲ取拂ハサルトキハ之ヲ官沒ス

第五條 家屋ノ保存上必要ト認メ支署長又ハ出張所長ニ於テ指示スル事項ハ之ヲ遵守スヘシ

第六條 使用ノ許可ヲ取消サレタルトキハ十日以内ニ立退クヘシ

第七條 使用ヲ許可スヘキ家屋ノ所在地及其ノ番號ハ民政長官之ヲ公示ス

第九條 本令ハ軍令第二十五號施行ノ日ヨリ施行ス

署令第四號

本島渡來者ニシテ現ニ在留スル者ハ其ノ居住スル家屋ノ入口見易キ場所ニ其ノ原籍、氏名及居住地ノ番號ヲ記シタル左記雜形ノ標札ヲ掲クヘシ

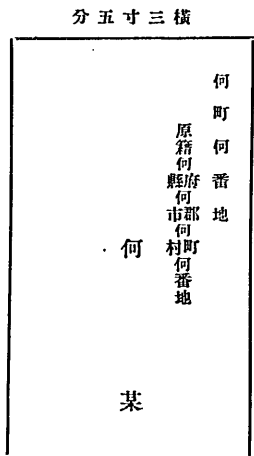
本令ハ明治三十八年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ家屋一時使用規則ニ依リ家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セス

明治三十八年十一月八日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

(標札雜形) 縦六寸



備考 一戸ニ數名居住スル者ハ其ノ原籍氏名ヲ聯記スヘシ此ノ場合ニ於テハ適宜標札横巾ヲ増スコト妨ナシ

署令第五號

本年軍令第十四號ニ依リ左ノ通相定ム

明治三十八年十一月十七日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

行政ノ目的ヲ以テ發シタル軍令其ノ他ノ諸規則ニ違背シタル場合ニ於テ其ノ犯則ノ用ニ供シ及反則ニ因テ獲タル物件ハ何人ノ所有ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收ス既ニ賣拂ヒタルトキハ其ノ代價ヲ追徴ス本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

署令第六號

消防組設置概則施行細則左ノ通り相定ム

明治三十八年十二月二十九日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一章 組織及命免

第一條 消防組員ハ其ノ區域内ニ在スル年齢滿十六歲以上ノ男子ニシテ左ノ各號ニ該當セサル者ヨリ本人ノ志願ニ依リ之ヲ採用ズルモノトス

一 智能完全ナラス又ハ身體強壯ナラサル者

二 平素粗暴ノ行爲アル者及品行方正ナラサル者

三 懲戒處分ニ依ル消防組員ヲ免セラレ爾後滿一年ヲ經過セサル者

第二條 消防手タラントスル者ハ願書ニ原籍、住所、職業、氏名、年齢ヲ記シ憲兵分隊長ニ之ヲ差出スヘシ

組頭ヲ置キタル後ニ在テハ前項ノ願書ハ組頭ヲ經由スルコトヲ要ス此ノ場合組頭ニ於テ意見アルトキハ之ヲ附記スルコトヲ得

第三條 組頭及小頭ハ消防手ノ内ヨリ選拔シテ之ヲ命スヘキモノトス但シ必要ニ依リ消防手以外ノ者ヨリ之ヲ採用スルモ妨ナシ

第四條 組頭、小頭差支アル場合ニハ憲兵長ニ於テ豫メ定ムル所ノ席次ニ從ヒ上席組員順次代理スヘキモノトス

第五條 消防組員其ノ區域内ニ於テ住所ヲ移轉シ又ハ原籍、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ組頭ヲ以テ憲兵分隊長ニ届出ツヘシ

第六條 消防組員其ノ區域外ニ住所ヲ移轉シ又ハ所在不明六ヶ月以上ニ及フトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第七條 消防組員ノ命免及失職者アリタルトキハ速ニ憲兵分隊長ハ憲兵長ハ之ヲ民政長官ニ報告スヘシ

第二章 服務心得

第八條 消防組員ハ常ニ誠實ヲ旨トシ品行ヲ謹ミ特ニ集合ノ場所ニ於テハ能ク指揮者ノ命令ニ從ヒ嚴正ニ規律ヲ守ルヘシ

第九條 消防組員ハ消防上ニ關シ名義ノ如何ニ拘ラス私ニ報酬ヲ受ケ又ハ之ヲ促シ其ノ他示威、強迫等ノ行為アルヘカラス

第十條 組頭及小頭ハ常ニ部下組員ノ舉動ニ注意シ災害警防ノ場合ニハ其ノ勤惰ヲ監視シ功過アルトキハ憲兵長ニ申告スヘシ

第十一條 組頭ハ豫テ憲兵長ノ承認ヲ受ケ組員ノ受持ヲ定メ器械、器具ノ操縦其ノ他任務ノ心得方ヲ教訓シ置クヘシ

第十二條 消防組員第二十條ニ規定スル信號ヲ聞知シタルトキハ速ニ擔當ノ器具ヲ携ヘ現場ニ駆付クヘシ

第十三條 消防組員信號ニ先テ火災アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ憲兵ニ申告シ且ツ信號擔當人ニ

告知スヘシ

第十四條 消防組員災害警防ニ際シテハ各其ノ受持ニ就キ又指揮者ヨリ臨時持場ヲ指定セラレタルトキハ之ニ從ヒ恣ニ離散變更スヘカラス

第十五條 集合シタル組員ハ憲兵長又ハ其ノ代理者ノ命アルニ非サレハ解散スヘカラス

第十六條 第二十條ニ規定スル信號ヲ報シ又ハ憲兵長ヨリ召集ノ通達アリタル場合ニ於テ召集セザル組員アルトキハ組頭其ノ事由ヲ調査シ五日以内ニ憲兵長ニ申告スヘシ

第十七條 憲兵長ハ毎年一回以上消防組ヲ召集シ儀式訓練及實地演習ヲ爲サシムルコトヲ得

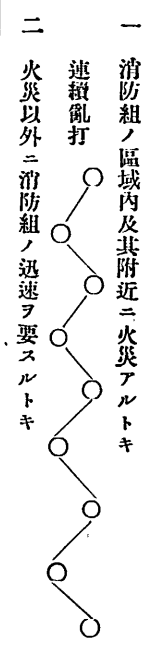
第三章 信號

第十八條 消防組ノ望火臺ハ左ノ個所ニ設置シ各喚鐘ヲ備附ス

- 一 榮町一丁目ニ一ヶ所
- 一 本町中央ニ一ヶ所
- 一 通町ニ一ヶ所
- 一 山下町附近ニ一ヶ所
- 一 民政署附近ニ一ヶ所

第十九條 組頭ハ望火臺附近ニ居住スル消防手ノ内ヨリ各二名ノ信號受持人ヲ定ムヘシ

第二十條 召集信號ノ打方左ノ如シ



二連打 ○—○○—○○—○○—

三 鎮火シタルトキ

一 斷二連打 ○—○○—○○—○○—○○—○○—

第二十一條 信號受持人消防區域内及其ノ附近ニ火災アルコトヲ認知シタルトキハ直ニ前條第一號ノ信號ヲ報スヘシ

第二十二條 信號受持人ハ第二十條第二號ノ信號ニ就テハ憲兵、同條第三號ノ信號ニ就テハ憲兵若クハ組頭ノ指揮アルニ非サレハ之ヲ報スヘカラス

第四章 建物、器械及器具

第二十三條 望火臺附近適當ノ個所ニ消防組ノ器械及器具ノ置場ヲ設ク但シ當分ノ内之ヲ設ケサルコトアルヘシ

建物、器械及器具ハ組頭ニ於テ保管ノ責ニ任スヘキモノトス但シ組頭ハ小頭ヲシテ其ノ一部ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十四條 消防組ノ器械、器具ハ災害警防又ハ儀式、訓練及實地演習ヲ爲ス場合ノ外濫ニ使用スヘカラス

第五章 手当

第二十五條 消防組員ニ支給スヘキ手当ヲ分チ左ノ五種トス

| 第一種 臨時手当 | 組頭 | 小頭 | 消防手 | 備考 |
|----------|-------|------|-----|-----------------------------|
| 一ケ年 | 一ケ年 | 一ケ年 | 一ケ年 | 當分ノ内ニ支給セズ但シ信號受持人ニ限リ所定ノ半額ヲ給ス |
| 金參拾六圓 | 金貳拾四圓 | 金拾貳圓 | | |

| 第二種 臨時手当 | 第一日 | 一日 | 一日 | |
|----------|--------|--------|---|-----|
| 金壹圓 | 金七拾五錢 | 金五拾錢 | | |
| 第三種 功勞手当 | 金參圓以上 | 金壹圓以上 | 火災警防儀式訓練其ノ他ノ必要ニ依リ召集タルトキ之ヲ給ス | |
| 五拾圓以下 | 參拾圓以下 | 貳拾圓以下 | 功勞ノ大小ヲ審査シテ之ヲ給ス | |
| 第四種 療養手当 | 金五圓以上 | 金參圓以上 | 職務ノため負傷シ若クハ疾病ニ罹リタルトキ其ノ療養ニ當リシテ之ヲ給ス但シ三日以上ノ休業ヲ要セザルモノニハ之ヲ給ス | |
| 貳百圓以下 | 百五拾圓以下 | 百圓以下 | 職務ノため死亡シタルトキ其ノ遺族ニ給ス | |
| 第五種 吊祭手当 | 金五拾圓以上 | 金四拾圓以上 | 金參拾圓以上 | ニ給ス |
| 貳百圓以下 | 百五拾圓以下 | 百圓以下 | | |

第二十六條 前條ノ手当給與ニ就テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 第一種ノ手当ハ一ケ年ヲ二期ニ分チ毎年四月及十月ニ前六ヶ月分ヲ給與ヲ受クヘキ者ノ請求ニ依リ之ヲ給ス但シ一期間ノ中途ニ於テ就職又ハ退職シタル者ニ對シテハ月割計算ニ依ル
- 二 第二種以下ノ手当ハ給與ヲ受クヘキ者ノ請求ニ依リ其ノ都度之ヲ給ス

第六章 懲戒

第二十七條 消防組員紀律ヲ破リ品行ヲ亂シ其ノ他不正、怠慢ノ行爲アルトキハ左ノ懲戒處分ヲ行フ

- 一 呵責
- 二 六ヶ月以内ノ停職
- 三 免職

懲戒處分ヲ行フハ概則第三條第四條ノ例ニ依ル

第二十八條 憲兵長ニ於テ前條第二號又ハ第三號ノ懲戒處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ事由ヲ民政長官ニ報告スヘシ
憲兵分隊長ニ於テ前條第二號又ハ第三號ノ懲戒處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ事由ヲ憲兵長ニ報告シ憲兵長ハ之ヲ民政長官ニ報告スヘシ
第二十九條 本令ハ軍令第三十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

署令第七號

樺太民政署罰金、科料及管施行規則左ノ通相定ム

明治三十九年一月十五日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 罰金、科料ノ言渡ヲ受ケタル者限内完納セザルトキハ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ言渡ヲ爲シタル官衙ヨリ樺太守備隊憲兵長ニ通知スヘシ
第二條 憲兵長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ憲兵長シテ相當財産ヲ押取セシメ便宜換價シテ之ヲ言渡ヲ爲シタル官衙ニ送致スヘシ
第三條 憲兵長ハ被告ノ狀態ニ因リ前條ノ處分ヲ爲スモ相當金額ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ直ニ禁錮拘留又ハ管ニ換ヘンコトヲ言渡ヲ爲シタル官衙ニ求ムヘシ
第四條 管ノ執行ハ憲兵長ノ主管トシ憲兵長シテ實行セシムルモノトス
第五條 管ニ處シ又ハ罰金ヲ管ニ換フルノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ憲兵長ニ通知スヘシ

署令第八號

樺太民政署民事強制執行規則左ノ通相定ム

明治三十九年一月十五日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 民事審判及成立シタル勸解ノ強制執行ヲ爲サントスル者ハ司法委員ノ附與シタル執行文ヲ添ヘ申請書ヲ樺太守備隊憲兵長ニ差出スヘシ
第二條 憲兵長ハ審判又ハ勸解ノ趣旨ト原告、被告ノ事情ヲ審査シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期限内ニ履行スヘキコトヲ命スルヲ得
第三條 憲兵長ハ必要ニ應ジ憲兵長シテ債務者ノ財産ヲ押取セシメ之ヲ便宜換價シテ債務ノ辨濟ニ充テ其ノ他必要ナル強制手段ヲ施スコトヲ得
第四條 一債務ニ對シ數債權者ヨリ強制執行ノ申請アリタルトキハ憲兵長ハ債權ノ順位ト割合トヲ債務者、債權者ニ協定セシムヘシ協定不調ニ歸シタルトキハ憲兵長ハ其ノ順位、割合ニ關スル審判ノ終結又ハ勸解ノ成立マテ強制執行ヲ延期シ又ハ必要ノ處置ヲシテ其ノ審判ノ終結又ハ勸解ノ成立ヲ待ツコトヲ得

署令第九號

鑑札漁業者土地使用並ニ山林伐採ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年三月五日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 漁業鑑札ヲ受ケタル者漁業鑑札規則第四條ニ依リ住宅其ノ他營業ニ要スル建築及工作用敷地漁船漁具置場、海産干場ニ必要ナル海濱土地ヲ使用セントスルトキハ第一號書式ニ依リ豫メ所轄支



署長ニ届出ツ可シ

第二條 漁業鑑札ヲ受ケタル者漁業鑑札規則第五條ニ依リ薪炭用、住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用、並ニ漁船漁具用ノ爲メ山林ヲ伐採セントスルトキハ第三號書式ニ依リ豫メ所轄支署長ニ届出ツ可シ

第三條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ハ土地ノ使用又ハ山林ノ伐採ニ着手スル以前ニ於テ左ノ料金を納付ス可シ

- 一 土地使用料金 一坪ニ付一漁期間 金 一 錢
- 一 山林伐採料金 一尺ニ付 金 十 五 錢
- 一 棚ニ付 金 二 十 錢

第四條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ノ伐採シタル木材ハ所轄支署長ノ許可ヲ得シテ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ス

第五條 所轄支署長ハ漁業鑑札規則第四條第二項及第五條第一項ニ基キ必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 左ノ各項ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ木材ハ何人ノ所有ニアルヲ問ハス之ヲ沒收ス

- 一 第一條又ハ第二條ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出以外ニ土地ヲ使用シ又ハ山林ヲ伐採シタル者
- 二 第四條ノ規定ニ違反シタル者
- 三 第五條ニ依ル處分ニ従ハサル者

附 則

第七條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ニシテ本令發布以前ニ山林ヲ伐採シタル者ハ其ノ伐採ノ場所樹木ノ種

類及數量ヲ明記シ本年三月三十一日迄ニ所轄支署長ニ届出テ第三條ノ料金を納付スヘシ

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一號書式

鑑札漁業用土地使用御届

一 場 所 名稱(別紙圖面ノ通り)(圖面ヲ略ス)

一 面 積 何坪(別紙圖面ノ通り)(圖面ヲ略ス)

内 譯

住 宅 何 坪

納 屋 何 坪

海産干場 何 坪

何 々 何 坪

右土地明治何年何月何日ヨリ使用致度明治三十九年署令第九號ヲ遵守シ此段及御届候也

明治何年何月何日

何海岸(又ハ何灣内)漁場名稱、鑑札番號

樺太民政署何支署長官氏名宛

何業者 氏 名 印

第二號書式

鑑札漁業用山林伐採御届

一 伐採場所 何海岸(又ハ何灣内)何々(別紙圖面ノ通り)(圖面ヲ略ス)

二 伐採樹種及數量

(イ) 用材
何々 何尺々

(ロ) 薪炭材
何々 何棚

三 伐採及搬出期間 自明治何年何月何日 何日間
至同 何年何月何日 何日間
右山林伐採致度明治三十九年署令第九號ヲ遵守シ此段及御届候也
明治何年何月何日

何海岸(又ハ何灣内)漁場名稱、鑑札番號
何業者 氏 名 印

署令第十號
所有牛馬届出ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年三月五日 樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 牛馬ヲ所有スル者ハ第一號書式ニ依リ明治三十九年三月三十一日迄ニ所轄支署又ハ支署出張所ヲ經由シ民政長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届出後牛馬ヲ所有シタル者ハ十日以内ニ届出ツヘシ

第二條 前條ノ届出後所有牛馬ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ第二號書式ニ依リ届出ツヘシ

第三條 第一條及第二條ノ届出ヲ爲サル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ情狀ニ依リ其ノ牛馬ハ之ヲ沒收ス

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
第一號書式
所有牛馬御届

| 種類 | 牝牡 | 年齢 | 寸尺 | 毛色 | 特徴 | 用途 | 事由 |
|----|----|----|----|----|----|----|--|
| | | | | | | | 何年何月何日何誰ヨリ買受ク 何年何月何日何ニヨリ掘下 何年何月何日分焼 何々..... |

計 馬牛 何何頭頭
右御届ニ及候也
年月日

民政長官宛
牛馬異動御届
現住所 何ノ誰印

第二號書式
種類 牝牡 年齢 寸尺 毛色 特徴 用途 事由

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 右御届ニ及候也 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 何年何月何日暫死・逃走 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 何年何月何日何誰ニ賣却 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 何々…………… | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

現住所
何ノ誰印

署令第十一號
便所設置規則左ノ通相定ム
明治三十九年三月二十六日
樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 家屋ヲ建設シタル者及家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ家屋ニ居住スル前便所ヲ設置スヘシ其ノ自ラ居住セスト雖モ人ヲ居住セシムル者亦同シ但シ家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ家屋ニ便所ノ設置ナク若ハ設置アリト雖モ其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セサルモノアル場合ニ限ル
第二條 便所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ
一 道路ニ沿ヒタル箇所ニ設置スルトキハ必ス背面向ト爲スコト

二 便池ハ滲瀝ノ虞ナキ材料ヲ以テ構成スルコト
三 便所ノ上縁周圍ハ厚キ漆喰叩ト爲スコト
四 壁裙ハ木板又ハ滲瀝ノ虞ナキ材料ヲ以テ高サ一尺以上ニ組立ツルコト
第三條 便所ハ飲料水ヲ距ル五間以内ノ地ニ設ルヘカラス但シ土地ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス
第四條 所轄民政支署長ニ於テ衛生上必要ト認ムルトキハ便所ノ改築 修繕又ハ位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
第五條 本令又ハ本令ニ依リ命令スル事項ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス
附 則
第六條 本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條ハ明治三十九年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス
家屋一時使用ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ家屋ニ便所ノ設置アルトキハ其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セスト雖本年六月二十日迄第一條ノ規定ヲ適用セス
第七條 本令施行前家屋ヲ建設シ又ハ家屋一時使用ノ許可ヲ受ケ現ニ居住シ若ハ人ヲ居住セシムル者ニシテ便所ノ設置ナキ者ハ本令施行ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ設置スヘシ
第八條 本令施行前設置シタル便所ニシテ其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セス又ハ第三條ノ規定ニ抵触スルモノハ本年六月三十日迄ニ改築又ハ移轉ヲ爲スヘシ
本令施行後設置シタル便所ニシテ其ノ構造第二條ノ規定ニ適合セサルモノハ本年六月三十日迄ニ改築スヘシ



一時使用ノ許可ヲ受ケタル家屋ニ附屬スル便所ニシテ第一項ニ該當スルモノハ第一項ノ期日以後之ヲ使用スルコトヲ得ス

署令第十二號

マウカ市街豫定地使用假規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月十日

權太民政署民政長官 熊谷喜一郎

マウカ市街豫定地使用假規則

第一條 假ニ土地ヲ使用セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リマウカ支署長ニ願出特許ヲ受クヘシ

一 使用ノ目的

二 使用ノ區劃數及其ノ番號

三 使用者ノ渡航前ノ住所、原籍地、身分、職業、氏名、年齢

第二條 土地使用ノ期間ハ特許ノ日ヨリ滿一箇年トス

第三條 土地使用ノ特許スヘキ區域ハ別ニ告示ス

第四條 使用ヲ特許スヘキ土地ハ住宅、店舗、社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物並ニ其ノ附屬地トシテ必要ナルモノニ限ル

第五條 土地ノ使用ハ別段ノ規程アルモノヲ除ク外一人一區劃以上トシ一區劃ヲ分割シテ使用スルコトヲ許サス

第六條 土地使用料ハ別段ノ規程ニ依ル但シ社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物並ニ其ノ附屬地ニ必要ナル土地ハ使用料ヲ免除ス

第七條 土地使用料ハ特許ノ際三箇月分ヲ前納シ爾後其ノ期限ノ終ル毎ニ後ノ三箇月分ヲ前納スヘシ但シ一月、二月、十二月ノ三箇月ハ土地使用料ヲ免除ス

第八條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ土地使用ノ特許ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ官ハ之レカ賠償ノ責ニ任セス

第九條 土地ノ現形ハ特許ヲ得ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 土地使用ノ特許ヲ受ケタル者三十日以内ニ建築工事ニ着手セス若ハ指定ノ期限内ニ建築工事落成セザルトキハ特許ノ効ヲ失フモノトス定期内ニ使用料ヲ納付セザル者亦同シ

第十一條 特許取消ノ處分ヲ受ケタル者ハ一ヶ月以内ニ地上ノ物件ヲ除去スヘシ特許ノ効ヲ失ヒタル者亦同シ

第十二條 特許取消ノ處分ヲ受ケルモ又ハ特許ノ効ヲ失フモ既納ノ使用料ハ還付セス

第十三條 土地使用ノ特許ハ他人ニ讓渡又ハ貸渡スルコトヲ得ス

第十四條 第九條ニ違背シタルトキハ使用ノ特許ヲ取消シ且ツ原形ニ復セシム十日以内ニ復舊セザルトキハ官ニ於テ復舊シ又ハ第三者ヲシテ復舊セシメ其ノ費用ハ之ヲ義務者ヨリ徴收ス

第十五條 此ノ假規則ニ依リ特許ヲ受ケタル者ト雖將來發布セラルヘキ本規則ヲ遵守スヘキハ勿論トス

第十六條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(別紙)

(書式)

土地使用願

(用紙小判紙)

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

土地使用願

- 一 使用ノ目的 營業ニ屬スルモノハ營業ノ種類共
- 一 使用ノ區劃數及其ノ番號

何々第何區.....

右使用ノ義務特許相成度奉願候特許相成候上ハ總テ規則命令及特許ニ附セラレタル條件ヲ嚴ニ相守可申候也

年 月 日

住所(渡航前ノ住所ヲ記ス)

原籍地

身分、職業

氏名印

生年月日

權太民政署マウカ支署長

事務官 何 某 殿

署令第十三號

種子貸與規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月二十一日

權太民政署民政長官 熊谷喜一郎

種子貸與規則

第一條 官有地ノ貸付ヲ受ケ農業ヲ營ム者ハ此ノ規則ニ依リ種子ノ貸與ヲ出願スルコトヲ得
第二條 貸與スヘキ種子ノ種類及數量ハ一斤分ニ付左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 大 | 麥 | 四 | 斗 |
| 裸 | 麥 | 四 | 斗 |
| 小 | 麥 | 四 | 斗 |
| 燕 | 麥 | 四 | 斗 |
| 馬鈴薯 | | 十 | 俵 |

第三條 種子ノ貸與ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 種子ノ種類及數量並ニ作付反別ノ區分
- 二 借地ノ所在地名及其ノ反別
- 三 住所、原籍、氏名

第四條 種子貸與ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定個所ニ於テ現品ヲ受領シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル請書ヲ直ニ差出スヘシ

第五條 貸與シタル種子ハ五ヶ年以内ニ於テ收穫物ヨリ現品ヲ以テ返納スルカ若ハ時價ヲ以テ償還スヘシ

第六條 貸與シタル種子ハ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス違背シタルトキハ貸與ノ際定メタル代價ヲ以テ辨償セシムヘシ

第七條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式(用紙半紙)

種子貸與願



- 一 種子ノ種類數量
 - 二 作付反別ノ區別
 - 三 借地ノ所在地及其ノ反別
- 右種子貸與ノ義許可相成度御許可ノ上ハ種子貸與規則ヲ堅ク相守リ可申此段奉願候也
- 明治 年 月 日

現住所
原籍

氏 名 印

樺太民政署民政長官何某殿

署令第十四號
家畜貸付規則左ノ通相定ム

明治三十九年四月二十一日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

家畜貸付規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬及豚ヲ云フ
- 第二條 官有地ノ貸付ヲ受ケ農業ヲ營ム者ハ此ノ規則ニ依リ家畜ノ貸付ヲ出願スルコトヲ得
- 第三條 家畜ノ貸付ハ一戸分ニ付牝牛一頭、耕馬一頭、牝豚一頭ノ割合トス但シ時宜ニ依リ耕馬ハ二戸若ハ三戸共同ニテ貸付スルコトアルヘシ
- 第四條 牝牛ノ貸付ヲ受ケタル者共同シ蕃殖ノ用ニ供スル場合ニ於テハ特ニ牝牛ノ貸付ヲ爲スコトアルヘシ
- 第五條 家畜ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ所轄民政署支署ヲ經由シ民政

- 長官ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
- 一 家畜ノ種類、牝牛ノ區別及其ノ頭數
- 二 借地ノ目的
- 三 借地ノ所在地名及其ノ反別
- 四 住所、原籍及氏名
- 五 蕃殖用ニ供スル爲メ牝牛貸付ヲ出願ノトキハ其ノ貸付ヲ受ケタル牝牛ノ種類及各其ノ頭數貸付ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ記載シ指令書受領ノ日ヨリ三日以内ニ請書ヲ差出スヘシ
- 一 家畜ノ種類、牝牛ノ區別、其ノ毛色、年齢及各頭數(牛、馬、牝、何色、何)
- 第五條 貸付シタル家畜ハ滿五年間ニ其ノ生産兒ヲ以テ償還スヘシ但シ償還後ハ貸付シタル家畜ハ借受人ノ所有ニ歸ス
- 償還スヘキ生産兒ハ生産後滿一ケ年以上ヲ經過シ體格健全ナルモノニ限ル但シ償還スヘキ生産兒ナキトキハ貸付ノ隊定メタル代價ヲ以テ償還スヘシ
- 牝馬ノ耕作用トシテ貸付シタルトキハ牛ヲ以テ償還シ又ハ代價ヲ以テ償還スヘシ此ノ場合ニ於テモ亦本條第一項但書及第二項ヲ適用ス
- 第六條 貸付シタル家畜ノ飼養其ノ他受取償還ニ關スル總テノ費用ハ借受人ノ負擔トス但シ償還スヘキ家畜ハ官ノ指定スル場所ニ於テ受渡ヲ爲スモノトス
- 第七條 貸付シタル家畜ハ隨時其ノ飼養使役其ノ他ノ狀況ヲ監視シ家畜ノ健全ヲ害スルノ虞アリト認めルトキハ相當ノ設備又ハ飼養若ハ使役ノ方法ヲ命スルコトアルヘシ
- 第八條 借受ケタル家畜斃死又一逸失シタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ記シ所轄民政署支署ヲ經由シ民政長官ニ届出ツヘシ

第九條 貸付シタル家畜ヲ借受人ノ故意怠慢ニ因リ斃死又ハ逸失セシメタルトキハ貸付ノ際定メタル代價ヲ償還セシムヘシ但シ時宜ニ依リ相當ノ家畜ヲ以テ償還セシムルコトヲ得

第十條 此ノ規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
書式(用紙半紙)
家畜貸付願
一 家畜ノ種類、牝牡ノ區別及其ノ頭數(牛、馬、牝、牡)
二 使用ノ目的
三 借地ノ所在地名及其ノ反別
右貸付ノ義許可相成度御許可ノ上ハ家畜貸付規則及將來發布セラレ、規則ハ堅ク相守可申此段奉願候也

明治 年 月 日

原籍
現住所
氏名印

樺太民政署民政長官何某殿

署令第十五號
鮭及鱈漁業特許漁業料ノ納期ニ關スル件左ノ通相定ム
明治三十九年五月十七日 樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎
明治三十九年五月三十一日迄ニ納付スヘキ鮭、鱈及鱈漁業特許ノ漁業料金ハ其ノ半額ヲ同年五月三十

一日迄ニ他ノ半額ヲ同年七月三十一日迄ニ納付スルコトヲ得
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二目 支署令

第一節 コルサコウフ支署令

コ支署令第一號
土地使用規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月三日

樺太民政署コルサコウフ支署長
事務官 尾崎勇次郎

土地使用規則

第一條 土地ヲ使用セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
一 使用ノ目的
二 使用ノ區劃數及其ノ番號
三 使用者ノ渡航前ノ住所
原籍地、職業、身分、氏名、年齢
第二條 土地使用ヲ特許スヘキ區域ハ別ニ告示ス
第三條 使用ヲ特許スヘキ土地ハ住宅、店舗、社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物并ニ其ノ附屬地トシテ必要ナルモノニ限ル



第四條 土地ノ使用ハ別段ノ規定アルモノヲ除ク外一人一區劃以上トシ一區劃ヲ分割シテ使用スルコトヲ許サズ

第五條 土地使用料ハ別段ノ規定ニ依ル但シ社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物並ニ其ノ附屬地ニ必要ナル土地ハ使用料ヲ免除ス

第六條 土地使用料ハ特許ノ際參箇月分ヲ前納シ爾後其ノ期限ノ終ル毎ニ後ノ參箇月分ヲ前納スヘシ但シ一月、二月、十二月ノ參ヶ月ハ土地使用料ヲ免除ス

第七條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ土地使用ノ特許ヲ取消スコトアルヘシ此場合ニ於テ官ハ之カ賠償ノ責ニ任セス條約ノ結果其ノ他ニ因リ土地使用ノ特許消滅シタル場合ニ於テモ亦同シ

第八條 土地ノ現形ハ特許ヲ得ルニアラサレハ之ヲ變更スルヲ得ス

第九條 土地使用ノ特許ヲ受ケタル者三十日以内ニ建築工事ニ着手セス若ハ指定ノ期限内ニ建築工事落成セサルトキハ特許ノ効ヲ失フモノトス

第十條 特許取消ノ處分ヲ受ケタル者ハ一ヶ月以内ニ地上ノ物件ヲ除去スヘシ特許ノ効ヲ失ヒタル者亦同シ

第十一條 特許取消ノ處分ヲ受ケルモ又ハ特許ノ効ヲ失フモ既納ノ使用料ハ還附セス

第十二條 土地使用ノ特許ハ他人ニ讓渡又ハ貸渡スルコトヲ得ス

第十三條 第八條ニ違背シタルトキハ使用ノ特許ヲ取消シ且ツ原形ニ復セシム

第十四條 十日以内ニ復舊セサルトキハ支署長ニ於テ復舊シ又ハ第三者ヲシテ復舊セシメ其ノ費用ハ之ヲ義務者ヨリ徴收ス

第十五條 將來發布セラル、軍令其ノ他諸規則ハ嚴ニ之ヲ遵守スヘキモノトス

(別紙) (書式) (用紙小判紙)

土地 使用 願

一 使用ノ目的 營業ニ屬スルモノハ營業ノ種類共

一 使用ノ區劃數及其ノ番號

コルサコウフ(何々)第何區

右使用ノ儀特許相成度奉願候特許相成候上ハ總テノ規則命令及特許ニ附セラレタル條件ヲ嚴ニ相守可申候也

年 月 日

住所 (渡航前ノ住所ヲ記ス)

原籍地

身 分、職 業、氏 名

生 年 月 日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎勇次郎殿

コ支署令第二號

營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月三日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎勇次郎

營業取締規則

第一條 營業ヲ爲サントスル者ハ別段ノ規則ニ依ルヘキモノ、外本則ニ依リ支署長ニ願出許可ヲ受ク
 第二條 營業願ニハ左ノ事項ヲ具シ別紙書式ニ依ルヘシ
 一 營業ノ種類
 二 營業ノ場所
 三 營業主ノ原籍地、居所、身分、氏名、生年月日
 四 營業主從來ノ職業
 官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ營業上ニ用ユル建築物ノ設計書ヲ徵スルコトアルヘシ
 第三條 營業免許料ハ別ニ定ムル規則ニ依ル
 第四條 營業場ニハ營業ノ種類及營業主ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ掲出スヘシ
 第五條 營業用雇人ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ五日以内ニ支署長ニ届出ツヘシ雇入ノ場合ニハ其ノ原籍地、氏名、生年月日ヲ届書ニ記載スヘシ
 第六條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ料金又ハ販賣品ノ價格ヲ指定シ又ハ營業ノ種類ニ依リ料金若ハ販賣品ノ價格ヲ店頭其ノ他見易キ場所ニ掲出セシムルコトアルヘシ
 第七條 營業許可ノ日ヨリ五十日以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ許可ノ効ヲ失フ
 第八條 公安ノ爲必要ト認ムルトキハ營業ノ停止ヲ命ジ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
 第九條 許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ又ハ本則ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス
 (別紙) (書式) (用紙小判紙)
 何々營業願

一 營業ノ種類 何々
 一 營業ノ場所
 一 從來ノ職業
 右營業致度候間御許可相成度奉願候御許可相成候上ハ總テノ規則、命令及許可ニ附セラレタル條件ヲ嚴ニ相守可申候也
 年 月 日
 原籍地
 居所(離職後)
 身分
 氏名
 生年月日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎勇次郎殿
 コ支署令第三號 (明治三十九年三月二十九日) (要領第七號ヲ以テ廢止)
 内地旅行規則左ノ通相定ム
 明治三十八年九月六日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎勇次郎
 内地旅行規則
 一 内地ヲ旅行セントスル者ハ特別ノ規定ニ依ルヘキ場合ノ外本則ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ



二 旅行願書ニハ左ノ各項ヲ具スヘシ

- 一 旅行ノ目的
- 二 旅行ノ地域
- 三 旅行ノ日數
- 四 出願者ノ原籍、居住地、身分、職業、氏名、年齢
- 五 從者又ハ同行者ノ員數、原籍地、居住地、身分、職業、氏名、年齢
- 三 旅行ヲ許可スヘキ者ハ本年八月陸軍省告示第十六號ニ依リ渡航シタル者ニ限ル
- 四 旅行ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅行許可書ニ記載シタル旅行者心得ヲ遵守スヘシ
- 五 旅行ノ許可ヲ受ケタル者ハ別紙様式ニ依リ請書ヲ差出スヘシ
- 六 本則ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス
(別紙) (様式)

請書

今般何々ノ目的ヲ以テ何地方旅行御許可相成候就テハ支署令第三號旅行規則ハ勿論旅行者心得ヲ遵守シ不都合ノ行爲決シテ致間敷此段御請仕候也

年 月 日

支 署 長 宛

氏 名 印

コ支署令第四號
馬車營業取締規則左ノ通相定ム

樺太民政署コルサコウフ支署長

明治三十八年九月六日

事務官 尾崎 勇次郎

馬車營業取締規則

第一條 馬車營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

- 一 營業者ノ原籍地、居住地、身分、氏名、生年月日
- 二 馬車ノ種類
- 三 營業ノ場所
- 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ車体ノ検査ヲ受ケ其ノ検査證ヲ車体ノ前面見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第三條 廢業シタル者ハ五日以内ニ届出テ検査證ヲ返納スヘシ
- 第四條 營業者ハ名義ノ何タルヲ問ハス官ノ定メタル定額賃錢以外ニ請求スルコトヲ得ス
- 第五條 營業者ハ左ノ各號ヲ嚴守スヘシ
 - 一 馬匹ハ適當ニ飼育スヘキコト
 - 二 馬匹ヲ漫リニ疾驅シ且ツ殘虐ニ使用セサルコト
 - 三 街角、橋上、坂路、交通頻繁ノ場所ハ除行スルコト
 - 四 馬力ニ耐ヘサル荷物ヲ積載セサルコト
 - 五 馬匹ハ相當ノ厩舎ニ收容スヘキコト
- 第六條 許可ヲ得スシテ營業ヲ爲シタル者第二條、第三條、第四條及第五條ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

コ支署令第五號
藝妓並ニ宿屋、料理屋及飲食店ノ雇婦女ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十八年九月九日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇次郎

第一條 傳染性疾患アル婦女ハ藝妓業ヲ爲シ若ハ宿屋・料理屋及飲食店ノ雇入トナルコトヲ得ス
 第二條 藝妓及前條ノ雇入ハ支署長ニ於テ指定シタル醫師又ハ病院ニ就キ健康證書ヲ携帯スヘシ
 第三條 傳染性ノ疾患アル者ト診斷セラレタル藝妓並宿屋・料理屋及飲食店ノ雇入ニ對シテハ支署長ニ於テ特ニ場所ヲ指定シテ治療ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ支署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ治療ノ場所ヲ離ル、コトヲ得ス
 第四條 支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ宿屋・料理屋及飲食店營業者ニ對シ雇入婦女ノ解雇ヲ命シ若ハ其ノ人員ヲ制限スルコトアルヘシ
 第五條 第二條及第四條ノ命ニ從ハス又ハ第三條ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス
 第六條 支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本則ヲ準用シ一般婦女ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコトアルヘシ

コ支署令第六號
 貸座敷及娼妓取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月九日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇次郎

第一章 貸座敷

第一條 貸座敷營業ハ支署長ニ於テ指定シタル地域内ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ支署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 營業ノ場所

二 營業主ノ原籍・居所・身分・氏名・年齢

三 營業主從來ノ職業

四 營業用ニ供スル建物ノ間取圖面

第三條 營業免許料ハ別ニ告示ス

第四條 營業場ニハ營業名及營業主ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ掲出スヘシ

第五條 左ノ各號ノ事項ニ該當スルトキハ五日以内ニ支署長ニ届出ツヘシ

一 廢業シタルトキ

二 營業主ノ原籍・居所・身分・氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

三 貸座敷ニ娼妓ヲ同居セシメ又ハ同居ノ娼妓カ轉居、失踪若ハ死亡シタルトキ

四 貸座敷業ニ從事セシムル雇入又ハ之ヲ解雇シタルトキ但シ雇入ノ場合ニハ其ノ原籍・氏名・年齢ヲ届書ニ記載スヘシ

第六條 營業主ハ支署長ノ認可ヲ得テ娼妓招聘料金ヲ定メ店頭見易キ場所ニ掲出スヘシ

第七條 營業主ハ支署長ノ指定シタル様式ニ依リ遊客人名簿ヲ製シ遊客アリタル都度之ニ記載スヘシ

第八條 遊客人名簿ハ最終記載ノ日ヨリ一年間保存スヘキモノトス

一 通行人ニ對シ遊興ヲ強ヒ又ハ貸座敷營業ヲ許可セラルヘキ地域外ノ地ニ廣告引札等ヲ出シテ客

ヲ誘引スヘカラサルコト
 二 定額外ノ娼妓招聘料金ヲ請求シ又ハ客ノ求メサル飲食物ヲ強ヒ其ノ他濫費ヲ促スヘカラサルコト
 三 遊興費ノ抵償トシテ來客ヨリ衣類其ノ他ノ物品ヲ收受スヘカラサルコト
 第九條 許可ノ日ヨリ三十日以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ許可ノ効ヲ失フ
 第十條 公安又ハ風俗上必要ト認ムルトキハ營業ノ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二章 娼妓

第十一條 拾八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス
 第十二條 支署ニ備フル娼妓名簿ニ登録セラレタル者ニ非ラサレハ娼妓ヲ爲スコトヲ得ス
 第十三條 娼妓名簿ノ登録ハ娼妓タラントスル者自カラ支署ニ出頭シ左ノ各號ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ出ツヘシ
 一 娼妓トナル事由
 二 同一戸籍内ニ在ル最近尊親族、尊親族ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事由
 三 未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母及祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト若シ此等ノ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事實
 四 娼妓ヲ爲スヘキ場所
 五 豫メ年期ヲ定メ又ハ稼業中姓名ヲ稱ヘントスル者ハ其ノ旨
 六 管テ娼妓タリシ事實ノ有無若シ之アリタル者ハ其ノ開始ノ年月日、稼業ノ場所並ニ廢止ノ年月日及其ノ事由
 前項ノ願書ニハ支署長ニ於テ指定シタル醫師若ハ病院ノ作りタル健康診断書戸籍吏ノ作りタル

戸籍謄本市區町村長ノ作りタル承諾者ノ印鑑證明書及前項第二號第三號ノ承諾書ヲ添付スヘシ
 第十四條 娼妓名簿登録料ハ別ニ告示ス

第十五條 支署ニ於テ娼妓名簿ニ登録ヲ爲シタル者ニハ登録證票ヲ交付スルモノトス
 登録證票ハ就業中必ス携帯スヘシ若シ之ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ支署ニ届出書換又ハ再渡ヲ求メ娼妓名簿ヨリ削除セラレタル場合ハ之ヲ返納スヘキモノトス

原籍、氏名ニ異動ヲ生シ又ハ貸座敷營業ヲ許可セラルヘキ區域内ニ於テ住居ヲ移轉シタルトキハ速ニ支署長ニ届出テ登録證票ノ訂正ヲ受クヘシ

第十六條 娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ支署長ニ届出ツヘキモノトス但シ未成年者ニ在テハ第十三條第一項第二號、第三號ニ掲クル者ヨリモ之ヲ届出ツルコトヲ得

前項ノ届出ハ自ら支署ニ出頭シテ之ヲ爲スニ非ラサレハ受理セサルモノトス但シ届書ヲ郵送シ又ハ他人ニ託シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ支署長カ届出者自ら出頭スルコト能ハサル事由アリト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラス年期ヲ豫定シテ登録セラレタル者ハ其ノ年期滿了ノ日ニ於テ別段ノ手續ヲ要セズ娼妓名簿ヨリ削除セラレ、モノトス

第十七條 娼妓ハ支署長ニ於テ指定シタル地域内ニ非ラサレハ居住スルコトヲ得ス

第十八條 娼妓ハ本則ノ規定又ハ官、命令ニ依ルノ外支署長ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ指定ノ地域外ニ出ツルコトヲ得ス

第十九條 娼妓稼ハ支署長ノ許可シタル貸座敷内ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 娼妓ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 一 通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘スヘカラサルコト
 二 客席ニ於テ音曲ヲ弄シ其ノ他濫蕪スヘカラサルコト但シ娼妓ヲ僉スル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 店頭其ノ他公衆ノ目ニ觸ル、場所ニ於テ化粧衣裳等爲スヘカラサルコト

第廿一條 娼妓ハ支署長ノ指定ニ從ヒ健康診断ヲ受クヘシ健康診断ヲ受クヘキ時刻前其ノ事由ヲ記シ支署長ニ届出ツヘシ事由ニ依リ診断ヲ受クルコト能ハサルトキハ出頭スヘキ時刻前其ノ事由ヲ記シ支署長ニ届出ツヘシ

第廿二條 疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アル者ト診断セラレタル娼妓ハ治療ノ上健康診断ヲ受クルニ非ラサレハ稼業ニ就クコトヲ得ス何等ノ事由アリシニ拘ラス指定期日ニ健康診断ヲ受ケサリシ者ハ其ノ期日以後更ニ診断ヲ受クルマテ亦前項ニ同シ

第廿三條 支署長ハ傳染性疾患ニ罹リタル娼妓ニ對シ特ニ場所ヲ指定シテ治療ヲ命スルコトアルヘシ前項ノ命ニ依リ治療中ノ娼妓ハ其ノ治療ノ場所ヲ離ル、コトヲ得ス其ノ疾患全瘉シタルトキハ即日支署長ニ届出ツヘシ

第廿四條 支署長ハ風俗上必要ト認ムルトキハ娼妓稼業ノ停止ヲ命シ又ハ娼妓名簿ヨリ其ノ登録ヲ削除スルコトアルヘシ

第廿五條 何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書ノ閱讀、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

第三章 罰 則

第廿六條 左ノ事項ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

一 貨座敷營業ニ關シ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業主其ノ責ニ任ス

二 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者

三 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登録ヲ願出テタル者

四 第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、第十五條第二項、第三項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條、第二十一條第二項、第二十二條、第二十三條第二項及第二十五條ニ違

背シタル者

四 第二十一條第一項ノ指定ニ從ヒ健康診断ヲ受ケタル者第二十二條ニ依リ娼妓稼業ヲ爲スコトヲ得サル者ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者及第二十三條第一項ノ命ニ從ハサル者

五 第九條、第二十四條ノ停止命令ニ違背シタル者及稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稼業ニ就カシメタル者

六 本人ノ意思ニ反シテ強テ娼妓ノ名簿ノ登録出願又ハ登録削除ノ届出ヲ爲シメタル者

コ支署令第七號

明治三十八年九月支署令第三號ハ本日限り之ヲ廢止ス

明治三十九年三月二十九日 權太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇 次郎

コ支署令第八號

漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ所要ノ木材伐採及土地使用ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年四月十二日 權太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇 次郎

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者特許證書裏書第一條第一號ニ依リ山林ヲ伐採セントスル時ハ第一號書式ニ依リ支署長ニ届出ツヘシ

第二條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者特許證書裏書第一條第二號ニ依リ土地ヲ使用セントスル時ハ第二號書式ニ依リ支署長ニ届出ツヘシ

第三條 本令ニ依リ伐採シタル木材ハ支署長ノ許可ヲ得スシテ他ニ轉賣譲與スルコトヲ得ス
 第四條 本令ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 第一號書式

- 特許漁業用山林伐採届
- 一 伐採場所 何々々 (別紙圖面ノ通(圖面ヲ略ス))
 - 二 伐採樹木ノ種類及數量
 - (イ) 用材 何々々 何尺
 - (ロ) 薪炭材 何々々 何
 - 三 伐採及搬出期間 自何年月日 何日間 至何年月日 何日間
- 右山林伐採致度明治三十九年四月支署令第八條ヲ遵守シ此段及御届候也
 年 月 日

權太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 何 某 殿
 特許人 何 某 印
 漁場名稱、鑑札番號

第二號書式
 特許漁業用土地使用願

一 場所 名稱(別紙圖面ノ通(圖面ヲ略ス))
 一面積 何坪(別紙圖面ノ通(圖面ヲ略ス))

内譯
 住宅 何坪
 納屋 何坪
 何々 何坪

右土地明治 年 月 日ヨリ使用致度明治三十九年四月支署令第八號ヲ遵守シ此段及御届候也
 年 月 日

權太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 何 某 殿
 特許人 何 某 印
 漁場名稱、鑑札番號

コ支署令第九條
 特許漁業者ニアラサレハ鯨ヲ以テ肥料ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以内
 ノ拘留ニ處ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十九年五月五日

權太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 柳原毛乃



第二節 ウラジミロフカ支署令

ウ支署令第一號
家屋使用規則左ノ通相定ム

明治三十八年十月七日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榎原 毛 乃

家屋使用規則

- 第一條 本島ニ永住セントスル者ノ住宅、店舗及社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ家屋ハ本則ニ依リ在來ノ家屋ヲ使用スルコトヲ得
- 但シ土地ノ使用ニ就テハ別段ノ規定ニ依ル
- 第二條 在來ノ家屋ヲ使用セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 一 使用ノ目的
 - 二 使用セントスル町村名及番地
 - 三 使用セントスル家屋ノ等級別
 - 四 使用者ノ家族及同居人又ハ雇人ノ員數
 - 五 使用者ノ三十七年度ニ於ケル直接國稅及地方費負擔額
 - 六 使用者渡航前ノ住所、原籍、職業、身分、氏名、生年月日
- 第三條 家屋使用ヲ特許スヘキ區域ハ別ニ告示ス
- 第四條 家屋ノ使用料金額ハ別段ノ規定ニ依ル

一三六

但社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ家屋ハ此ノ限ニ非ラス又家族ヲ携行シ移住スルモノハ特ニ使用料ヲ免除スルコトアルヘシ

第五條 家屋ノ使用料ハ特許ノ際三ヶ月分ヲ前納シ爾後其期間ヲ終ル毎ニ後ノ三ヶ月分ヲ前納スヘシ

第六條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ家屋使用ノ特許ヲ取消スコトアルヘシ

此ノ場合ニ於テハ三十日前豫メ其ノ旨通達スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ官ハ之カ賠償ノ責ニ任セス

第七條 家屋使用ノ特許ヲ受ケタル者二十日以内ニ居住セザルトキ又ハ定期間内ニ使用料ヲ納付セザルトキハ特許ノ効ヲ失フモノトス

第八條 取消處分ヲ受ケ又ハ特許ノ効ヲ失フコトアルモ既納ノ使用料ハ之ヲ還附セス

第九條 家屋使用ノ特許ヲ受ケタル者ハ其ノ家屋保持ノ責ニ任スルモノトス若シ使用者ニシテ其ノ責務ヲ果サ、ルトキハ支署長ニ於テ之ヲ保修シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保修セシメ其ノ費用ハ使用者ヨリ之ヲ徴收ス

第十條 家屋使用ノ特許ハ之ヲ他ニ讓渡スコトヲ得ス又使用ヲ特許セラレタル家屋ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 前條ニ違背シタル者ハ使用ノ特許ヲ取消シ且支署部内ニ居住スルコトヲ得ス

第十二條 在來ノ家屋使用ノ特許ヲ受ケ若ハ新ニ建設シタル家屋ニハ其ノ入口見易キ場所ニ町村名、番地、族籍、氏名ヲ記載シタル別紙雛形ノ標札ヲ掲出スヘシ

本條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上貳圓以下ノ罰金若ハ二日以下ノ拘留ニ處ス

(別紙 書式 (用紙小別紙))

一三七

家屋使用願

原籍地

住所(渡航前ノ住所ヲ記入スル事)

身分、職業

氏

生年月日

- 一 使用ノ目的
 - 二 使用ノ町村名及其ノ番地
 - 三 使用セントスル家屋ノ等級別
 - 四 使用者ノ家族及全居人又ハ雇人ノ員數
 - 五 三十七年度ニ於ケル直接國稅及地方費負擔額
- 右使用ノ儀特許相成度奉願候也
 特許相成候上ハ總テノ規則命令及特許ニ附セラレタル條件ヲ嚴守可致候也

右

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榑原毛乃殿

何之誰 印

(標札雛形)

一三八

二寸以上
三寸以下

何町村何番地
何府縣平(華、土)民
何之誰

六寸以上八寸以下

ウ支署令第二號
土地使用規則左ノ通相定ム
明治三十八年十月七日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榑原毛乃

土地使用規則

- 第一條 本島内ニ居住スル者ハ住宅、店舗及社寺、佛堂、學校其ノ他公共ノ用ニ供スヘキ建物ノ敷地並ニ其ノ附屬地トシテ必要ナル土地ニ限リ土地ヲ使用スルコトヲ得
- 第二條 土地ヲ使用セントスル者ハ左ノ各號ヲ具シ別紙書式ニ其ノ使用セントスル土地ノ見取圖面ヲ添ヘ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 一 使用ノ目的
- 二 使用ノ坪數

一三九

三 使用ノ目的タル事業經營ニ關スル詳細ナル設計
 四 使用ノ町村名及其ノ位置(在來ノ家屋使用ノ特許ヲ得タル者ハ其ノ家屋ノ番號ヲ記入スヘシ)
 五 使用者ノ資産(三十七年度ニ於ケル直接國稅及地方費負擔額)
 六 使用者渡航前ノ住所、原籍地、職業、身分、氏名、生年月日
 第三條 土地使用ヲ特許スヘキ區域ハ別ニ告示ス
 第四條 土地使用料ハ別段ノ規定ヲ設ケル迄之ヲ徵收セス
 第五條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ土地使用ノ特許ヲ取消スコトアルヘシ
 此ノ場合ニ於テハ五十日前豫メ其ノ旨地達スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ官ハ之カ賠償ノ責ニ任セス
 第六條 土地使用ノ特許ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス又使用ヲ特許セラレタル土地ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス
 第七條 前條ニ違背シタルモノハ土地使用ノ特許ヲ取消シ且當署部内ニ居住スルコトヲ得ス
 第八條 土地ノ使用ヲ特許セラレタル者ハ許可ナクシテ其ノ形狀ヲ變更スルコトヲ得ス
 使用者ニシテ前項ニ違背シタルトキハ之ヲ原形ニ復セシメ又ハ支署長ニ於テ自ら之ヲ復舊シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ復舊セシメ其ノ費用ハ使用者ヨリ之ヲ徵收ス
 第九條 土地ノ使用ヲ特許セラレタル者ハ標木ヲ以テ特許地域ヲ明示スヘシ
 第十條 第二條ノ許可ヲ受ケス土地ヲ使用シタルモノ又ハ第六條、第八條第一項及第九條ニ違背シタル者ハ一面以上十回以下ノ罰金若ハ五日以下ノ拘留ニ處ス
 (別紙)

一四〇

(書式) (用紙小列紙)
 土地使用願

原籍

住所(渡航前ノ住所ヲ記入スルコト)

身分、職業

氏名

生年月日

一 使用ノ目的
 二 使用ノ坪數
 三 使用ノ町村名及位置(在來ノ家屋使用ノ特許ヲ得タル者ハ其ノ家屋ノ番號ヲ記入スルコト)
 四 使用者ノ資産(三十七年度ニ於ケル直接國稅及地方費負擔額)
 右使用ノ儀特許相成度奉願候特許相成候上ハ總テノ規則命令及特許ニ附セラレタル條件ヲ嚴守可致候也

明治 年 月 日

右

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 柳原毛乃殿

何之 謹 印

一四一



ウ支署令第三號
營業取締規則左ノ通相定ム
明治三十八年十月八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榊原 毛 乃

營業取締規則

- 第一條 營業ヲ爲サントスル者ハ別段ノ規則ニ依ルモノ、外本則ニ依リ別紙書式ヲ以テ支署長ヘ願出テ許可ヲ受ク可シ又從來ノ營業者ハ本則發布ノ日ヨリ十日以内ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 營業願ニハ左ノ各號ヲ記載スヘシ
 - 一 營業ノ種類
 - 二 營業資本ノ高
 - 三 營業主從來ノ職業
 - 四 營業ノ場所(町村名及其ノ番地)
 - 五 營業主渡航前ノ住所、原籍地、身分、氏名、生年月日
- 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ營業上ニ用ユル建造物ノ設計書若ハ在來家屋ノ見取圖ヲ徴スルコトアルヘシ
- 第三條 營業ノ免許料金額ハ別段ノ規定ニ依ル
- 第四條 營業ノ場所ニハ營業ノ種類及營業主ノ氏名ヲ記シ且當支署ノ印ヲ烙セル別紙雛形ノ標札ヲ掲出スヘシ
- 第五條 官ニ於テ必要ト認ムルトキハ料金額若ハ販賣品ノ價格ヲ指定シ又ハ營業ノ種類ニ依リ料金額若ハ販賣品ノ價格ヲ店頭其ノ他賭場キ場所ニ掲出セシムルコトアルヘシ

一四二

- 第六條 營業許可ノ日ヨリ三十日以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス
- 第七條 營業用ノ雇人ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ七日以内ニ支署長ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ雇人ノ原籍地、氏名及生年月日ヲ届書ニ記載スルコトヲ要ス
- 第八條 營業ノ用ニ供スル家屋其ノ他ノ建設物ハ官ニ於テ必要ト認ムル所ニ從ヒ何時タリトモ變改ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 公安又ハ風俗ノタメ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ營業ノ停止又ハ禁止ヲ命シ若ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十條 許可ヲ受ケスシテ營業ヲナシ又ハ本則ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

(別紙)
(書式) (用紙小判紙)
何々營業願

原籍地

住所(渡航後ノ居住所)

身分

氏

生年月日

一 營業ノ種類 (何々)

一四三

二 從來ノ職業
 三 營業ノ場所 (何町村番地)
 四 營業ノ資本高
 右營業御許可相成度奉願候御許可ノ上ハ總テノ規則命令及許可ニ附セラレタル條件ヲ嚴守可致候也
 年 月 日 右 何 之 某 印

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原毛乃殿
 (標札雜形) 二尺五寸

○ (屋號アルモノハ屋號ヲ記スヘシ)
 何々營業 烙印 何 之 誰
 寸 八

ウ支署令第四號 (明治三十九年三月二十七日)
 (ウ支署令第十四號ヲ以テ廢止)
 内地旅行規則左ノ通相定ム
 明治三十八年十月八日
 樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原毛乃

一 内地ヲ旅行セントスル者ハ特別ノ規定ニ依ルヘキ場合ノ外本則ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受
 タヘシ
 二 旅行願ハ左記書式ニ依ルヘシ
 旅行御願

原籍地
 住 所 (渡航後ノ住所)
 身 分、職 業
 氏 名
 生 年 月 日
 同行者又ハ從者アルトキハ其ノ原籍地、住所、身分、職業、氏名、生年月日ヲ逐次連署スヘシ
 右何々(例之農業視察ノ爲メ何々(例之ガルクノウラスコエ)へ何日間旅行致度候條御許可相成度此
 段奉願候也御許可相成候上ハウ支署令第四號旅行規則ハ勿論旅行者心得ヲ遵守可致候也
 年 月 日 右 何 之 誰 印
 何 之 誰 印
 何 之 誰 印

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原毛乃殿
 三 旅行ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅行許可書ニ記載シタル旅行者心得ヲ遵守スヘシ
 四 本則ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

ウ支署令第五號
在來ノ家屋ニ附屬シタル器物使用規則左ノ通相定ム

明治三十八年十月十日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原 毛 乃

在來ノ家屋ニ附屬シタル器物使用規則

第一條 家屋使用規則ニ依リ家屋ノ使用ヲ許可セラレタル者ハ特ニ官ノ定メタル員數ニ限リ在來ノ家屋ニ附屬シタル器物ヲ使用スルコトヲ得
本則發布前ニ於テ假リニ在來家屋ノ使用ヲ許可セラレタルモノニシテ現ニ其ノ家屋ニ附屬シタルモノ若ハ他ノ家屋ヨリ移取シタルモノヲ使用スルモノハ本則發布ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ種類員數ヲ詳記シテ署長ニ届出ツヘシ
前項ノ器物ヲ現ニ使用シ且將來使用セントスルモノハ其ノ器物使用ニ關シテ更ラニ本則ニ依リ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二條 本則ニ依リ器物ヲ使用セントスル者ハ左ノ書式ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
在來ノ家屋ニ附屬シタル器物使用願

一種類員數
右使用御許可相成度奉願候也

御許可ノ上ハ確實ニ保管可致ハ勿論官ニ於テ必要ノ場合ハ何時タリトモ返納可致候也

年 月 日

住 所 (本則ニ依リ許可セラレタル家屋ノ番地)
族 籍

氏 名

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榑原 毛 乃 殿

第三條 本則ニ依リ使用ヲ許可セラレタル器物ハ之ヲ他人ニ賣渡シ又ハ貸渡スコトヲ得ス

第四條 本則ニ依リ使用ヲ許可セラレタル器物ヲ破損若ハ亡失シタルトキハ其ノ賠償ノ責ニ任スルモノトス

第五條 本則ニ違背シタルモノハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

ウ支署令第六號

委棄ノ財物並ニ空屋其ノ他ノ取締ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十八年十月十八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原 毛 乃

本署所轄内ニ於テ左ノ行爲アリタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

一 許可ナクシテ退去露國人民ノ委棄シタル家財器具若ハ穀物蔬菜其ノ他ノ物件ヲ收去スルコト

一 許可ナクシテ空屋内ニ宿泊シ又ハ立入り其ノ他之ヲ使用スルコト

一 猥ニ殘留土民ノ家屋ニ立入り宿泊又ハ物器ヲ強要シ其ノ他不正ノ行爲ヲナスコト

ウ支署令第七號

牛馬其ノ他家畜屠殺取締ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十八年十月二十五日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榑原毛乃
當署所轄内ニ於テ牛馬其ノ他ノ家畜ヲ屠殺セントスル者ハ所轄憲兵分遣所ニ願出テ許可ヲ受クヘシ犯シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
但シ署及出張所所在地以外ノ地ニ在テハ便宜巡察ノ憲兵ヘ願出ツルコトヲ得

ウ支署令第八號
所有權ノ移轉及物件ノ管外移出取締ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十八年十月二十五日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原毛乃

- 一 當署所轄内ニ於テ物件ノ何タルヲ問ハヌ又名義ノ如何ニ拘ハラヌ(買買、交換、讓與等ヲ合シ總テ所有權ヲ移轉セントスル者ハ其ノ所有權ヲ證明スルニ足ルヘキ證據書類ヲ添ヘ當事者双方ヨリ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
但シ當事者ノ一方又ハ双方カ營業トシテ包括的ニ買買ノ行爲ヲ許可セラレタルモノナル場合及本年十月二日付軍令第二十號第一條ニヨリ民政長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス
- 二 當署所轄内ニ於テ物件ノ何タルヲ問ハヌ之ヲ管外ニ搬出セントスル者ハ其ノ種類、數量及仕向ケ地ヲ具シ且其ノ所有權ヲ證明スルニ足ルヘキ證據書類ヲ添ヘ支署長ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ其ノ他人ノ所有物件ニ係ル場合ハ所有者ノ承諾書ヲ附スルコトヲ要ス
- 三 前二項ニ違背シタル者ハ十日以内ノ拘留又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

ウ支署令第九號
藝妓、酌婦其ノ他ノ婦女健康診断ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十八年十一月八日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原毛乃

- 第一條 支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ藝妓、酌婦其ノ他ノ一般婦女ニ對シ健康診断又ハ疾患治療ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二條 健康診断ヲ命セラレタル者ハ支署長ニ於テ指定シタル醫師又ハ病院ニ就キ健康診断ヲ受ケ健康證書ヲ携帶スヘシ
- 第三條 疾患治療ヲ命セラレタル者ハ支署長ニ於テ指定シタル場所ニ於テ治療ヲ受クヘシ支署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ場所ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第四條 疾患治療ノ爲メニ要シタル費用ハ總テ本人又ハ雇主ノ負擔トス
- 第五條 第二條、第三條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

ウ支署令第十號
貸座敷及娼妓取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年十一月十日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榑原毛乃

- 第一章 貸座敷
第一條 貸座敷營業ハ支署長ニ於テ指定シタル地域内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス



第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一 原籍、渡航前ノ居住所、現居住所、身分、氏名、年齢及從來ノ職業

二 營業ノ場所

三 營業資本高

四 營業用ニ供スル建物ノ見取圖面

第三條 貸座敷營業者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 廢業シタルトキ又ハ營業願書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速カニ支署長ニ届出ツヘシ

二 娼妓ヲ同居セシメ又ハ同居娼妓カ轉居、失踪若ハ死亡シタルトキ亦同シ

三 雇人ヲ雇入レ又ハ之ヲ解雇シタルトキ亦同シ

四 營業場ニハ營業名及營業主ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ掲出スヘシ

五 娼妓招聘料金ハ支署長ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ客室ニ掲出スヘシ

六 支署長ノ指定シタル様式ニ依リ遊客人名簿ヲ製シ遊客アリタル都度之ニ記載スヘシ其ノ保存期限ハ最終記載ノ日ヨリ一ケ年トス

七 通行人ニ對シ遊興ヲ強ヒ又ハ貸座敷地域外ノ地ニ廣告、引札等ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス

八 定額外ノ娼妓招聘料金ヲ請求シ又ハ客ノ求メナキ飲食物ヲ強ヒ其ノ他濫費ヲ促スヘカラス

九 支署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ遊興費ノ抵償トシテ來客ヨリ衣類其ノ他ノ物品ヲ收受スヘカラス

第四條 支署長ニ於テ公安又ハ風俗上必要ト認ムルトキハ貸座敷營業ノ停止若ハ禁止ヲ命シ又ハ其ノ

許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二章 娼 妓

第五條 十八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス又娼妓名簿ニ登録セラレタル者ニ非サレハ娼妓ノ稼業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 娼妓稼業ヲ爲サントスル者ハ自ラ支署ニ出頭シ左ノ各號ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ娼妓名簿ノ登録ヲ支署長ニ願出テ登録證ヲ受クヘシ

一 原籍、渡航前ノ居住所、現居住所、身分、氏名、年齢、從來ノ職業

二 娼妓トナルヘキ事由

三 同一戸籍内ニ在ル最近尊族親、尊族親ナキトキハ戸主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事由

四 未成年者ニ在リテハ前號ノ外實父、實父ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母及實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト若シ此等ノ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ其ノ事由

五 娼妓稼業ヲ爲スヘキ場所

六 稼業ノ稼業年期ヲ定メタル者ハ其ノ期間、姓名ヲ稱ヘントスル者ハ其ノ姓名

七 稼業上ニ關シ貸座敷營業者ト契約アル者ハ其ノ契約書寫

八 管ア娼妓タリシ事實ノ有無若シ之レアリタル者ハ其ノ開廢ノ年月日、事由及場所

前項ノ願書ニハ支署長ニ於テ指定シタル醫師又ハ病院ノ作リタル健康診断書、戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本、市區町村長ノ作リタル承諾者ノ印鑑證明書及前項第三號、第四號ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第七條 娼妓名簿ノ削除ハ娼妓自ラ出頭シテ支署長ニ届出ツヘキモノトス但シ届書ヲ郵送シ又ハ他人

ニ託シテ之ヲ差出シタル場合支署長ニ於テ本人自ラ出頭スルコト能ハサル事由アリト認ムルトキ及
未成年者ニ在テハ前條第三號、第四號ニ掲クル者ヨリ届出タルトキハ此ノ限ニ在ラス又稼業年期ヲ
豫定シテ登録セラレタル者ハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ當然削除セラル、モノトス

第八條 娼妓ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 登録證票ハ他ニ貸與スヘカラス就業中ハ必ス携帯スヘシ若シ之ヲ毀損、亡失シ又ハ原籍、氏名
ニ異動ヲ生シ若ハ居住ヲ移轉シタルトキハ速カニ支署長ニ届出登録證票ノ訂正又ハ再渡ヲ求メ
娼妓名簿ヨリ削除セラレタルトキハ之ヲ返納スヘシ
- 二 支署長ニ於テ指定シタル地域内ニ非サレハ居住スルコトヲ得ス又本則ノ規定若ハ官ノ命令ニ依
ルノ外支署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ指定ノ地域外ニ出ツルコトヲ得ス
- 三 支署長ノ許可シタル貸座敷内ニ非サレハ招聘ニ應スルコトヲ得ス
- 四 通行人ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ猥褻ノ談話ヲ爲スヘカラス
- 五 客席ニ於テ音曲其ノ他藝妓ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヘカラス
- 六 店頭其ノ他公衆ノ目ニ觸ルル場所ニ於テ見世張、化粧又ハ衣裝替ヲ爲スヘカラス
- 七 支署長ニ於テ指定シタル日時、場所ニ於テ健康診断ヲ受クヘシ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ之ヲ受
クルコト能ハサルトキハ出頭スヘキ時刻前其ノ事由ヲ支署長ニ届出ツヘシ
- 八 疾病ニ罹リ稼業ニ堪ヘサル者又ハ傳染性疾患アリト診断セラレタル者ハ治療ノ上健康診断ヲ受
クルニ非サレハ稼業ニ就クコトヲ得ス又何等ノ事由アルニ拘ハラズ指定期日ニ健康診断ヲ受ケ
サリシ者ハ更ニ之ヲ受クルマテ亦同シ
- 九 傳染性疾患ニ罹リタル者ニ對シ支署長ニ於テ場所ヲ指定シテ治療ヲ命ジタルトキハ直ニ之ニ應
ジ自費ヲ以テ治療ヲ受クヘシ且治療中支署長ノ許可ナクシテ其ノ場所ヲ離ル、コトヲ得ス

第九條 支署長ニ於テ風俗上必要ト認ムルトキハ娼妓稼業ノ停止若ハ禁止ヲ命ジ又ハ娼妓ノ名簿ヨリ
其ノ登録ヲ削除スルコトアルヘシ

第十條 何人ト雖娼妓ノ通信、而接、文書ノ閱讀、物件ノ所持其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス

第三章 罰 則

第十一條 左ノ各號ノ事項ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

一 貸座敷營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業主其ノ責ニ任ス

二 第二條ノ許可ヲ得スシテ貸座敷營業ヲ爲シ又ハ第六條ノ登録ヲ受ケスシテ娼妓稼業ヲ爲シタル
者

三 虚偽ノ事項ヲ具シテ貸座敷營業ノ免許又ハ娼妓名簿ノ登録ヲ願出タル者

四 第三條各號、第八條各號及第十條ニ違背シタル者

五 第九條ノ禁止命令ニ違背シタル者

六 第八條第八號ニ依リ稼業ヲ爲スコトヲ得サル娼妓又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲ強テ稼業ニ就カシメ
タル者

七 本人ノ意思ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登録願出又ハ登録削除ノ届出ヲ爲サシメタル者

第四章 附 則

第十二條 貸座敷營業免許料及娼妓名簿登録料ハ別ニ告示ス

第十三條 支署長ニ於テ事實不都合ナシト認ムルトキハ當分ノ内本則第六條各號ノ事項中其ノ幾分ヲ
具備セサル者ニ對シ娼妓名簿登録ノ出願ヲ受理スルコトアルヘシ

ウ支署令第十一號 (明治三十九年二月二十日
ウ支署令第十三號ヲ以テ廢止)

漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ用材伐採ノ場合ニ於ケル届出ニ關スル件左ノ通相定ム
明治三十九年一月四日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長

漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ特許證書裏書第一條第一號ニ依リ薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及
工作用並ニ漁船漁具用ノ爲メ山林ヲ伐採セントスルトキハ其ノ樹木ノ種類 數量及日時ヲ記シタル書
面ニ伐採場所ノ略圖ヲ添ヘ當支署又ハガルキノウラスコエ出張所ニ届出ツヘシ犯シタル者ハ二十間以
下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處シ尙其ノ伐採樹木ヲ沒收ス

ウ支署令第十二號
居住移轉及退去ニ關スル届出規則左ノ通相定ム
明治三十九年二月二十日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榎原 毛 乃

- 居住移轉及退去届出規則
- 第一條 當支署管内ニ居住セントスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ支署長ニ届出ツヘシ
一 本籍、身分、氏名及生年月日
二 渡航前ノ現住所及職業
三 渡航年月日及渡航届出手續ノ濟否(未済ナルトキハ其ノ事由)
四 渡航後ノ經過及現住所並ニ職業
五 居住セントスル村名番地及他人ノ家屋ナルトキハ其ノ所有主又ハ借家主ノ承諾書並ニ居住ノ目
的

- 第二條 當支署管内ニ於テ其ノ居住所ヲ移轉セントスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ支署
長ニ届出ツヘシ
一 本籍、住所、身分、職業、氏名及生年月日
二 移轉セントスル村名、番地及他人ノ家屋ナルトキハ其ノ所有主又ハ借家主ノ承諾書並ニ移轉ノ
事由
- 第三條 當支署管外ニ退去セントスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ支署長ニ届出ツヘシ
一 本籍、住所、身分、職業、氏名及生年月日
二 退去先及退去ノ事由
- 第四條 家族又ハ使用人ノ居住移轉及退去届ハ其ノ戸主又ハ使用主ヨリ之レヲ爲スコトヲ要ス
- 第五條 出張所部内ニ屬スル前各條ノ届書ハ當該出張所長ヲ經由スヘシ
- 第六條 本則第一條、第二條、第三條及第四條ニ違背シタル者ハ二十間以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘
留ニ處ス

附 則
第七條 本令發布以前ニ於テ既ニ當支署管内ニ居住シタル者ハ本令施行ノ日ヨリ十五日以内ニ於テ本
則第一條ノ届出ヲ爲スヘシ
ウ支署令第十三號
特許漁業用山林伐採及土地使用ニ關スル届出規則左ノ通相定ム但シ本年(二月)ウ支署令第十一號ハ本
令施行ノ日ヨリ廢止ス
明治三十九年二月二十日
樺太民政署ウラジミロフカ支署長

特許漁業用山林伐採及土地使用届出規則

事務官 柳原毛乃

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ特許證書裏書第一條第一號ニ依リ薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用並ニ漁船漁具用ノ爲メ山林ヲ伐採セントキハ豫メ其ノ樹木ノ種類、數量及期間ヲ記シタル書面ニ伐採場所ノ略圖ヲ添ヘ當支署又ハ出張所ニ届出テ指示ヲ受クヘシ

第二條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ特許證書裏書第一條第二號ニ依リ住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用敷地、漁船漁具置場、網干場、海産干場及蔬菜園ニ必要ナル海濱ノ土地ヲ使用セントスルトキハ豫メ其ノ目的、坪數及期間ヲ記シタル書面ニ使用場所ノ略圖ヲ添ヘ當支署又ハ出張所ニ届出テ指示ヲ受クヘシ

第三條 本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ二十拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處シ尙前者ニ對シテハ其ノ伐採樹木ヲ沒收シ後者ニ對シテハ其ノ使用地ヲ原形ニ復セシム

ウ支署令第十四號

明治三十八年十月ウ支署令第四號内地旅行規則ハ自今民政施行區域内ニ於ケル旅行者ニ適用セス

明治三十九年三月二十七日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 柳原毛乃

第三節 マウカ支署令

マ支署令第一號

居住及移轉届出規則左ノ通相定ム

明治三十八年十二月十一日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田郷助

居住及移轉届出規則

第一條 當支署管内ニ居住スル渡航者ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ具シ支署長ニ届出ツヘシ

一 原籍、身分、氏名、生年月日

二 渡航前ノ住所及職業

三 渡航年月日及渡航届出手續ノ濟否並ニ其ノ事由

四 渡航後ノ經過

五 現ニ居住スル場所、家屋番號、家屋所有主ノ氏名

六 現ニ營メル職業

旅行許可證ヲ所持スルモノハ其許可證ヲ添付スヘシ

戸主ハ家族ニ代リ雇主、漁場管理人ハ使用人ニ代リテ第一項ノ届出ヲナスコトヲ要ス

第二條 旅行其ノ他居住ノ場所ヲ移轉セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ支署長ニ届出ツヘシ

一 原籍、當地現住所、身分、職業、氏名、生年月日

二 旅行ノ場所又ハ移轉セントスル場所

三 旅行又ハ移轉ノ目的

四 旅行日數

家族又ハ使用人ノ旅行及居住移轉ノトキハ其ノ戸主、雇人又ハ漁場管理人之レニ代リテ前項ノ届出ヲナスコトヲ要ス

第三條 本則ノ規定ニ違背シタルモノハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

第四條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

マ支署令第二號

特許漁業用材伐採及土地使用ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年一月三十一日

權太民政署マツカ支署長

事務官

横田 郷助

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ特許證書裏書第一條第一號ニ依リ薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用並ニ漁船漁具用ノ爲メ山林ヲ伐採セントスルモノハ第一號書式ニ依リ當支署長ニ届出ツヘシ

第二條 日通り三寸以下ノ落葉松及しんこまつハ伐採スルコトヲ得ス

第三條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者其ノ特許證書裏書第一條第二號ニ依リ住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用敷地、漁船漁具置場、網干場、海産干場及蔬菜園ニ必要ナル海濱土地ヲ使用セントスルモノハ第二號書式ニ依リ當支署長ニ届出ツヘシ

第四條 左ノ各項ニ該當スルモノハ貳十圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

一 第一條又ハ第三條ノ届出ヲ怠リタルモノ

二 第二條ノ規定ニ違背シタルモノ

第一號書式

特許漁業用材伐採届書式

一 伐採ノ場所 樺太西海岸 何々

一 伐採樹木ノ種類及數量 何々

(甲) 薪材

何々 何何

(乙) 用材

何々 何尺

右貴支署令第二號第一條ニ依リ御届申上候也

明治 年 月 日

漁場番號第 號(漁場名稱)

特許人 何

某 ㊦

管理人又ハ代理人ヨリ届出ツルトキハ左ノ通り

漁場番號第 號(漁場名稱)

特許人何某代理人(又ハ漁場管理人) 何

某 ㊦

權太民政署マツカ支署長

事務官 横田 郷助殿

第二號書式

特許漁業用材使用届書式

一 使用土地ノ場所 別紙圖面ノ通り(圖面ヲ略ス)

一 使用土地坪數 何坪

内 譯

住宅 何坪

納屋 何坪

海産干場 何 坪
何々 何 坪
右貴署令第二號第三條ニ依リ御届申上候也
明治 年 月 日

漁場番號第 號(漁場名稱)

特許人 何

某 ㊦

管理人及代理人ヨリ届出ツルトキハ左ノ通り

漁場番號第 號(漁場名稱)

特許人何某代理人(又ハ漁場管理人) 何

某 ㊦

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷 助 殿

マ支署令第三號
渡航届出規則左ノ通相定ム

明治三十九年三月十二日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷 助

渡航届出規則

第一條 當支署管内ニ渡航スルモノハ上陸後直ニ左記事項ヲ具シ届出テ其ノ届濟ノ證ヲ受クヘシ
一 原籍及前住所
二 身分、職業

三 姓名、年齢

四 乗船名、上陸ノ日及上陸地

五 渡航ノ目的

漁業ノ許可ヲ得クル者及其ノ使用人以外ノ者ハ身元證明書及戸籍謄本ヲ添付スル事ヲ要ス

第二條 前條ノ届出ハ家族ニ就キテ其ノ戸主ヨリ使用人ニ就テハ雇主又ハ其ノ代理人ニ於テ之ヲ爲ス事ヲ要ス

第三條 本則ノ規定ニ違背セル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス

第四條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

マ支署令第四號

藝妓並ニ宿屋、料理屋及飲食店ノ雇婦女ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年四月十九日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷 助

第一條 傳染性疾患アル婦女ハ藝妓業ヲ爲シ若ハ宿屋、料理屋及飲食店ノ雇人トナルコトヲ得ス

第二條 藝妓及前條ノ雇人ハ支署長ニ於テ指定シタル醫師又ハ病院ニ就キ健康診断ヲ受ケ健康證票ヲ携帶スヘシ

第三條 傳染性ノ疾患アルモノト診断セラレタル藝妓並ニ宿屋、料理屋及飲食店ノ雇婦女ニ對シテハ支署長ニ於テ特ニ場所ヲ指定シテ治療ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ支署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ治療ノ場所ヲ離ル、コトヲ得ス

第四條 支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ宿屋、料理屋及飲食店營業者ニ對シ雇婦女ノ解雇ヲ命シ若

ハ其ノ人員ヲ制限スルコトアルヘシ
 第五條 第二條及第四條ノ命ニ従ハヌ又第三條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス
 第六條 支署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本則ヲ準用シ一般婦女ニ對シ健康診断ヲ施行スルコトアルヘシ

マ支署令第五號

當支署管内沿岸ニ於テ拾録ヲ嚴禁ス犯ス者ハ二十圓以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ニ處ス
 明治三十九年四月二十日 樺太民政署マウカ支署長 事務官 横田 郷助

マ支署令第六號

營業取締規則左ノ通相定ム
 明治三十九年五月三日 樺太民政署マウカ支署長 事務官 横田 郷助

營業取締規則

第一條 營業ヲ爲サントスル者ハ別段ノ規則ニ依ルヘキモノ、外本則ニ依リ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
 第二條 營業願ニハ左ノ事項ヲ具シ別紙書式ニ依ルヘシ
 一 營業ノ種類

二 營業ノ場所

三 營業主ノ原籍、住所、身分、氏名、生年月日
 四 營業主ノ従來ノ職業

官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ營業上ニ用ユル建物ノ設計書ヲ徴スルコトアルヘシ
 第三條 營業免許料ハ別ニ定ムル規則ニ依ル

第四條 營業場ハ營業ノ種類及營業主ノ氏名ヲ記シタル標札ヲ掲出スヘシ
 第五條 營業主雇人ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ五日以内ニ支署長ニ届出テ雇入ノ場合ニハ其ノ原籍氏名、生年月日ヲ届書ニ記載スヘシ

第六條 官ニ於テ必要ト認ムルキハ料金又ハ販賣品ノ價格ヲ指定シ又ハ營業ノ種類ニ依リ料金若ハ販賣品ノ價格ヲ店頭其ノ他見易キ場所ニ掲出セシムルコトアルヘシ

第七條 營業許可ノ日ヨリ五十日以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ許可ノ効ヲ失フ
 第八條 公安ノ爲必要ト認ムルトキハ營業ヲ停止ヲ命シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 許可ヲ受ケヌシテ營業ヲ爲シ又ハ本則ニ違背シタルモノハ貳拾圓以下ノ罰金又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

(書式) (用紙小判紙)

- 一 營業ノ種類 何々 營業願
- 一 營業ノ場所 何々
- 一 従來ノ職業

右營業致度候間御許可相成度素願候御許可相成候上ハ總テノ規則命令及許可ニ附セラレタル條件ヲ



第六類
布達

嚴ニ相守可申候也
年 月 日

權太民政署マッカ支署長
事務官 横田 郷助殿

原籍
住所 (渡航前及居住所) 身分
氏

生年 名 月 日

一六四

第六類 布 達

民達第壹號

樺太民政署水産部出張所「コルサコウフ」ニ置ク
明治三十八年八月二十八日

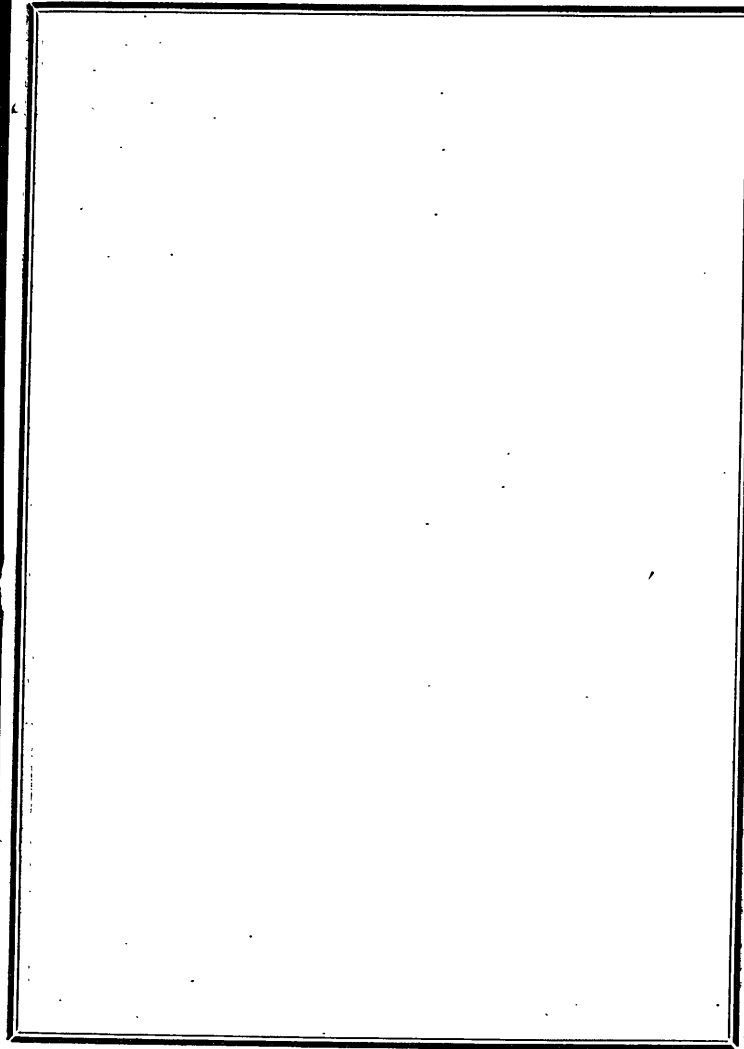
樺太民政長官

175

5-0398

0210

第七類
告示



一六六

5-0398

0211

第七類 告示

第一目 本署告示

告示第一號

軍令第拾貳號ニ依リ從來ノ民政施行區域ノ外第一、第二、第三及第四假軍政署管内ニ民政ヲ布ク
「ミルガコウフ」支署ノ外「ウラジミロフカ」ニ「民政支署ヲ置キ」「ガルキノウラスコエ」ニ「ウラジミロフ
カ」支署出張所ヲ「リュトカ」ニ「コルサコウフ」支署出張所ヲ置ク
本告示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十八年九月十四日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

告示第二號

樺太民政署コルサコウフ支署及ウラジミロフカ支署ノ管轄區域ヲ定ムルコト左ノ如シ
中央ニ於テハ「ミツリヨフカ」及「ブラゴエチエンスコエ」東海岸ニ於テハ「トンナイチャ」西海岸ニ於
テハ「タラントマリ」ノ各北端ヲ連繋セル一線ヲ以テ境界トシ以南一圓ヲコルサコウフ支署ノ管轄ト
シ其ノ以北ヨリ「マヌエ」及「クスンナイ」ニ至ル一圓ヲ以テウラジミロフカ支署ノ管轄トス

明治三十八年九月二十二日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

告示第三號

明治三十八年八月七日陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依ル鮭、鱈、鯧漁業入札規則左ノ通定

明治三十八年十月一日
 樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

第一條 陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則第三條ニ基キ漁場ヲ競争入札ニ付スヘキ場合ニハ本規則ニ準據スヘシ

第二條 入札ニ付スヘキ漁場ノ番號、名稱、漁業ノ種類左ノ如シ

東海岸漁場

| 漁場番號 | 漁業ノ種類 | 漁場ノ名稱 | 備考 |
|------|---------|-------|---|
| 二 | ナイブト | 鮭 | 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 三 | ノトノワ | 鮭 | |
| 四 | トノドヲ | 鮭 | |
| 四 | ヤンケナイ | 鮭 | |
| 二 | シムタキ | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 二 | 無 | 鮭 | |
| 二 | エホロコフナイ | 鮭 | |
| 二 | 同 | 鮭 | |
| 三 | 同 | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 九 | 同 | 鮭 | |
| 四 | 同 | 鮭 | |
| 四 | 同 | 鮭 | |
| | 無 | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| | 無 | 鮭 | |
| | 無 | 鮭 | |
| | 無 | 鮭 | |

| | | | |
|---|----------|---|---|
| 八 | イトダクスナイ | 鮭 | （一）號 サウキナ バーヤ 同二十一 日（二） 三號ノナ ヨホマナ イブンヲ 本表ニ加 ヘ同二十 日（一）八 二號チン ナイボ） ヲ本表ヨ リ削ル |
| 八 | レアルイッサン | 鮭 | |
| 八 | ヲソイコネ | 鮭 | |
| 一 | エンルンコマナイ | 鮭 | |
| 七 | シヨウウンナイ | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 七 | ルホントマリ | 鮭 | |
| 七 | 無 | 鮭 | |
| 七 | スソウシ | 鮭 | |
| 七 | イトダクスナイ | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 六 | 無 | 鮭 | |
| 六 | 無 | 鮭 | |
| 六 | 無 | 鮭 | |
| 七 | ハト | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 七 | 同 | 鮭 | |
| 七 | 同 | 鮭 | |
| 七 | 同 | 鮭 | |
| 八 | カモイクシ | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 八 | トヨマシ | 鮭 | |
| 八 | トヨマシ | 鮭 | |
| 八 | ヤンケナイ | 鮭 | |
| 三 | ミナベツ | 鮭 | 備考 明治三十 八年十月 十七日 (四三號 レブンケ ナイ)同 |
| 二 | ヤンケナイ | 鮭 | |
| 一 | ミナベツ | 鮭 | |
| | 第一號 | 鮭 | |

| | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 四 | 三 | 二 | 一 | 〇 | 九 | 八 | 七 | | |
| ソ | チ | ム | ナ | モ | チ | イ | モ | | |
| コ | ロ | ナ | ヤ | ロ | ヲ | ト | エ | | |
| ラ | ー | イ | シ | ロ | ナ | ナ | ト | | |
| イ | ク | イ | シ | チ | イ | イ | ナ | | |
| 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 鯨 | | | | | | | | | |

一七八

入札ハコルサコウフ権太民政署ニ於テ之ヲ行フ
 入札ハ十月十八日ヨリ之ヲ始ム各口ニ於ケル入札開始ノ時刻及入札ニ付スヘキ漁場ハ其ノ入札ノ前
 日ニ之ヲ揭示ス

第三條 入札ニ加ハラントスル者ハ十月十六日迄ニ營業及身元證明書ヲ民政長官ニ差出スヘシ
 民政長官ハ前項ノ證明書及本條第三項但書ニ規定スル證明書ヲ審査シ入札ノ資格アリト認ムルモノ
 ハ之ヲ揭示ス揭示ナキ者ハ入札ニ加ハルコトヲ得ス入札者ハ各入札期日ノ前日迄ニ其ノ翌日入札ニ
 付スヘキ漁場中入札ニ加ハラントスル漁場數ニ應シ一漁場ニ就キ入札保證金三百圓ヲ添ヘ各漁場毎
 ニ樺太島漁業假規則第五條ニ掲クル願書ヲ民政長官ニ差出スヘシ但シ樺太島漁業假規則第四條ノ出
 願ヲ爲シタル者ハ出願書ニ添付シタル營業及身元證明書ヲ以テ本條第一項ノ證明書ニ充ツ
 入札保證金ヲ納付シタルトキハ預リ證ヲ交付スヘシ
 入札保證金ハ現金トス但シ國債證券ヲ以テ現金ニ代ユルコトヲ得
 入札保證金ハ現金トス但シ國債證券ヲ以テ現金ニ代ユル場合ニ於テハ額面三百五十圓ヲ以テ現金三百圓ニ換算ス
 前項ニ依リ國債證券ヲ入札保證金ニ代用スル場合ニ於テハ額面三百五十圓ヲ以テ現金三百圓ニ換算ス

第四條 各漁場ニ使用スヘキ漁網ハ鮭、鱈ニ在テハ建網一統鯨ニ在テハ建網一統及曳網二統ノ外之ヲ
 許サズ

第五條 入札ハ第三條ノ願書ト共ニ各漁場毎ニ入札金額、年月日、原籍、住所「コルサコウフ」ニ於ケル
 居留所及氏名ヲ記載捺印シ封緘ノ上本人若シ代理人自ラ入札ニ投入スヘシ但シ代理人ハ漁業願、
 入札及漁業料納付ニ關スル完全ナル委任狀ヲ携帶スヘシ

第六條 入札金額ハ圓位ニ止メ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第七條 入札ハ一旦入札ニ投入シタルトキハ違算、錯誤、誤記其ノ他何等ノ事故アルモ引換訂正又
 ハ取消シヲ求ムルコトヲ得ス

入札加入ヲ妨害シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケ其ノ他詐僞ノ手段ヲ以テ入札ヲ爲シタル者ハ入札ノ權利ヲ
 失フノミナラス爾後漁業上ノ競争入札ニ加ハルコトヲ得サルモノトス

左ニ記載セル入札ハ之ヲ無効トス

- 一 金額其ノ他必要ノ文字明瞭ナラサルモノ
- 二 金額其ノ他必要ノ文字ヲ改竄挿入シ捺印セサルモノ
- 三 氏名ノ下ニ捺印セサルモノ
- 四 一定金額ヲ記載セサルモノ
- 五 入札金額ニ圓位未滿ノ端數ヲ付シタルモノ

第八條 開札ハ公示シタル場所、日限、時刻ニ於テ之ヲ行フ
 入札人ハ開札ニ立會スルコトヲ得但シ入札人多數ナルトキハ數名ヲ指名シテ立會セシムルコトアル
 ヘシ
 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ豫定價格ニ達セサルトキハ再入札ニ付ス

一七九

再入札ハ開札ノ當日更ニ時刻ヲ期シ參會ノ入札人ヲシテ入札セシメ若ハ更ニ日限、時刻ヲ期シテ入札ニ付ス

第九條 落札者以外ノ入札保證金ハ開札ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ還付ス

第十條 落札者ハ漁業特許通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ漁業料ノ半額ヲ納付シ入札保證金ノ還付ヲ受ケ他ノ半額ハ翌年五月ニ納付スヘシ但シ入札保證金ハ現金ニ限リ漁業料ニ充當スルコトヲ得落札者前項ノ期日内ニ漁業料ノ半額ヲ納付セザルトキハ入札ヲ取消シ入札保證金ハ之ヲ沒收シ順位ニ依リ次ノ最高價格ノ入札者ニ特許スルコトアルヘシ

告示第四號 (明治三十八年十月九日)

告示第五號 (明治三十八年十月九日)

明治三十八年八月七日陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依リ漁業鑑札規則左ノ通相定ム

明治三十八年十月三日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

漁業鑑札規則

第一條 陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則第十七條ニ依リ昆布採取業其ノ他鮭、鱒、鯉漁業以外ノ漁業ヲ爲サントスルモノハ本規則ニ依ルヘシ

第二條 鑑札ヲ下付スヘキ漁業ノ種類又鑑札料金ハ左ノ如シ

- 一 捕鯨業引揚場 一ヶ所ニ付 金五十圓
- 二 昆布採取業 漁船一隻ニ付 金五圓
- 三 海參漁業 同上 金五圓
- 四 鱒漁業 同上 金十圓
- 五 大鮓漁業 同上 金五圓

六 潜水器漁業 潜水器一臺ニ付 金三十圓

七 手網漁業及打網漁業 漁船一隻ニ付 金二十圓

八 鱈漁業 同上 金五圓

九 採貝業 同上 金五圓

十 雜漁業 前各號以外ノ漁業同上 金五圓

二號及八號乃至十號ノ漁業ニ碇舟(幅三尺五寸以下)ヲ使用スルトキハ一隻ニ付金一圓

第三條 漁業鑑札ノ下附ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シテ民政長官ニ願出ツヘシ

- 一 漁業ノ種類
 - 二 漁具ノ種類及數
 - 三 漁船ノ數
 - 四 漁獲物ノ種類
 - 五 漁業ノ場所
 - 六 漁夫ノ數
 - 七 漁業ノ時期
- 第四條 漁業ノ鑑札ヲ受ケタル者ハ住宅其ノ他營業ニ要スル建築及工作用敷地、漁船漁具置場、海産干場ニ必要ナル海濱土地ヲ使用スルコトヲ得但シ官ノ定ムル使用料ヲ納付スヘシ土地使用料額ハ別ニ之ヲ定ム
- 前項土地ノ面積ハ官ニ於テ之ヲ指定シ禁止シ制限スルコトアルヘシ
- 第五條 漁業鑑札ヲ受ケタル者ハ薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用並漁船漁具用ノ爲メ官ノ定ムル伐採料金ヲ納付シ山林ヲ伐採スルコトヲ得但シ海面ヨリ展望シ得ヘキ場所展望區域ヨリ十

八町及河川ノ沿岸一町以内ハ此ノ限ニアラス
 前項ニ依リ伐採シ得ヘキ區域内ト雖官ハ伐採ヲ禁止シ又ハ伐採區域若ハ樹木ヲ指定スルコトアルヘシ

第六條 漁業鑑札ノ効力ハ鑑札下附ノ日ヨリ一ケ年トス
 第七條 鑑札ハ捕鯨業及潜水器漁業ヲ除クノ外漁船毎ニ之ヲ下附ス
 第八條 鑑札ハ漁船ニ釘付スヘシ但シ捕鯨業及潜水器漁業ヲ爲ス者ハ漁業ヲ爲ストキ之ヲ携帯スヘシ
 第九條 鑑札ハ譲渡又ハ貸渡スコトヲ得ス
 第十條 鑑札ヲ紛失若ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ再下附ヲ願出ヘシ
 第十一條 水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル場合又ハ軍事上其ノ他公益ノ爲メ必要ナルトキハ何時ニテモ漁業ヲ禁止、停止又ハ制限シ既ニ下附シタル鑑札ヲ引上クヘシ
 第十二條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本則施行前ニ漁業假鑑札ヲ受ケタルモノハ十月十五日迄ニ更ニ本則ニ依リ鑑札下附ヲ願出ヘシ
 前項ノ期間内ニ鑑札ノ下附ヲ受ケサルモノハ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

告示第五號
 明治三十八年十月三日告示第四號漁業鑑札規則第三條ニ第二項乃至第五項トシテ左ノ規定ヲ追加ス
 明治三十八年十月九日 權太民政署民政長官 熊谷喜一郎
 曳網、手繰網、打瀬網及潜水器ハ一人一統若ハ一臺ニ限ル
 曳網ハ九十尋以内ノモノニ限リ其ノ使用漁夫ノ數ハ六人以内トシ根據地ヨリ左右二里以外ニ於テ使用スルコトヲ得ス

曳網ハ四月一日ヨリ七月十日迄河川ノ全部、河々ノ前面及左右一里以内ニ在リテハ七月十一日ヨリ九月末日迄使用スルコトヲ得ス
 漁船ハ釣漁業ニハ一人三隻以内釣漁業以外ニハ一人一隻ニ限ル但シ一漁具ニ付數隻ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ非ス

告示第六號
 第一條 「チフメーチフスキー、ポスト」「ナヨロ」「ナイブツ」「トシナイチャ」「コルサコウフ」「ボロアントマリ」「ベルツヤバジ」「マウカ」「クステンナイ」及其ノ附近ノ海濱土地ハ三十八年十月三日告示第四號漁業鑑札規則ニ依リ漁業ノ鑑札ヲ受ケタル者ト雖特ニ官ノ許可ヲ受クルニ非サルハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條 明治三十八年十月九日告示第五號ニ依ル河川ノ名稱左ノ如シ
 曳網使用禁制河川名
 東 海 岸

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ノ | コ | ロ | 河 | ト | キ | シ | マ | ナ | イ | 河 |
| タ | ラ | キ | カ | 河 | タ | ラ | ン | コ | タ | ン |
| ボ | ロ | ナ | イ | 河 | ナ | ヨ | ロ | 河 | | |
| コ | タ | ン | ケ | ン | 河 | ニ | イ | ト | イ | 河 |
| シ | ヤ | フ | コ | タ | ン | シ | レ | ト | ロ | 河 |
| ウ | エ | ン | コ | タ | ン | カ | ス | ボ | 河 | |



マ グン コ タ ン 河
 マ ス エ 河
 マ ト マ ナ イ 河
 ア ス シ ナ イ 河
 イ ス シ ナ イ 河
 オ チ ヨ ボ カ 河
 ト シ ナ イ チ ャ 湖 口
 ア ニ ッ 灣 内
 大 ヤ マ ン ベ ツ 河
 ナ イ オ ン ナ イ 河
 ユ ガ ン キ ナ レ ー チ カ 河
 リ ユ ト ガ 河
 ナ イ チ ヤ 河
 ナ イ チ ヤ 河
 ベ ス ト マ ナ イ 河
 コ ル ボ ス ム ナ イ 河
 ナ ヤ シ 河
 ウ シ ネ コ ロ 河
 オ 河
 ア ス サ ン ナ イ 河
 ト コ ン ナ イ 河
 シ ー ナ イ 河
 ア ト ヲ タ ン ナ イ 河
 ソ ー ニ 河
 ノ シ ケ ナ イ 河
 ト ー プ ツ 湖 口
 ス ナ ヤ 河
 タ ナ ナ イ 河
 ド ロ カ ワ 河
 ナ イ 河
 ア ス サ ン ナ イ 河
 ト コ ン ナ イ 河
 シ ー ナ イ 河
 ア ト ヲ タ ン ナ イ 河
 ソ ー ニ 河
 ノ シ ケ ナ イ 河
 ト ー プ ツ 湖 口
 ス ナ ヤ 河
 タ ナ ナ イ 河
 ド ロ カ ワ 河
 ナ イ 河

オ ホ ト マ リ 河
 マ ヲ カ 河
 ト ー プ ツ 河
 オ テ フ コ ロ 河
 ナ ヨ ロ 河
 エ ビ シ 河
 ラ イ チ シ カ 湖 口
 テ イ 河
 リ ヲ タ ン ナ イ 河
 ノ タ サ ン 河
 ト マ リ オ ロ 河
 ク ス ン ナ イ 河
 モ エ ビ シ ナ イ 河
 コ タ ン ウ ト ロ 河
 明 治 三 十 八 年 十 月 十 四 日
 樺 太 民 政 署 民 政 長 官 熊 谷 喜 一 郎

告示第七號
 左ノ通町名ヲ改稱ス
 一 日本町ヲ本町ト改ム
 一 野村町ヲ榮町ト改ム (丁目ヲ付スルコト故ノ如シ)
 一 大通町ヲ通町ト改ム
 一 日本町西一丁目ヲ本町西一丁目ト改ム
 一 日本町東一丁目ヲ本町東一丁目ト改ム
 明 治 三 十 八 年 十 月 十 四 日
 樺 太 民 政 署 民 政 長 官 熊 谷 喜 一 郎

告示第八號
 官設屠畜場ニ於テ獸畜ヲ屠殺スル者ハ左ノ使用料ヲ徴收ス



- 明治三十八年十月二十九日
- 權太民政署民政長官 熊谷喜一郎
- 一 牛馬一頭ニ付金五十錢
 - 一 羊、豚仔馬及犢牛一頭ニ付金三十錢

告示第九號

明治三十八年十月一日軍令第十八號落札漁場ノ建物其ノ他財産取締規則第二條ノ漁期開始期日ヲ左ノ通相定ム

- 明治三十九年二月二十一日
- 權太民政署民政長官 熊谷喜一郎
- 一 鮭、鱈漁業ニ在リテハ明治三十九年六月十五日
 - 二 鱈漁業ニ在リテハ左ノ如シ
- 東海岸 明治三十九年四月二十五日
- アニツ灣 同 年四月十五日
- 西海岸 同 年四月十日

告示第十號

馬車營業取締規則第十五條ニ依リ馬車ノ賃錢左ノ通相定ム

明治三十九年三月二十六日

權太民政署民政長官 熊谷喜一郎

| | | | | | | | |
|------|------|----|----|-----------|-------|----|----|
| 乗合馬車 | 一人ニ付 | 乗客 | 賃切 | 手荷物其ノ他貴重品 | 普通貨物 | 馬車 | 賃切 |
| | 一人ニ付 | 貨物 | 賃切 | 十貫目以上 | 十貫目以上 | 賃切 | 賃切 |

| | | | | | | |
|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 半里未滿 | 以金十錢 | 以金十錢 | 以金六錢 | 以金七錢 | 以金五錢 | 以金三十錢 |
| 半里以上 | 以金十六錢 | 以金十六錢 | 以金十錢 | 以金十一錢 | 以金八錢 | 以金五十錢 |
| 一里未滿 | 以金十六錢 | 同上 | 以金十六錢 | 以金十六錢 | 以金十六錢 | 以金十六錢 |
| 一里以上 | 半里又ハ一里ヲ増ス | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |

- 一 乗合馬車ノ乗客十二歳未滿ノ者ハ各所定ノ半額トシ五歳未滿ノ者ハ無賃トス
- 一 貨物ノ重量二十貫目以上ナルトキハ其ノ二十貫目ヲ超過スル部分ニ限リ二貫目毎ニ各所定ノ一割以内ヲ増額ス
- 一 夜間又ハ雨天、吹雪ノトキ若ハ雨後、融雪後等ニシテ道路泥濘ナルトキハ各所定ノ一割半以内ヲ増額シ夜間且ツ雨天、吹雪ノトキ若ハ雨後、融雪後等ニシテ道路泥濘ナルトキハ各所定ノ三割以内ヲ増額ス

告示第十一號

マツカ市街豫定地使用假規則第六條ニ依リ土地使用料左ノ通相定ム

明治三十九年四月十日

權太民政署民政長官 熊谷喜一郎

- 一 一等地 一坪ニ付 一ヶ月 金二錢
 - 一 二等地 同 同 金一錢
 - 一 三等地 同 同 金五厘
 - 一 四等地 同 同 金三厘
- 土地使用ノ特許カ月ノ十五日以前ニ係ルモノハ全月分ヲ其ノ十五日以後ニ係ルモノハ半月ヲ徴收ス

告示第十二號
農業目的ヲ以テ本島ニ渡航シ現ニ在住ノ者ハ左記ノ事項ヲ具シ渡航證明書ヲ添へ本月二十五日迄ニ所轄支署長ニ届出ヘシ

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

- 一 渡航年月日
- 二 渡航セル家族ノ人員並ニ年齢
(農業開墾ノ勞働ニ耐ユル人数男女ノ別)
- 三 渡航前ノ職業
- 四 現今ノ職業
- 五 家畜ノ有無(馬何頭牛何頭猪何頭)
- 六 農業志望地
- 七 本年收穫迄糧食準備ノ數量
- 八 農具種子ノ準備アラハ其ノ種類及數量

但シ戸籍謄本若ハ抄本ヲ所持スルモノハ添付スヘシ

告示第十三號

明治三十九年四月軍令第四十四號ニ據ル土地建物、賃付料金ハ左ノ如シ

明治三十九年四月二十一日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

告示第十四號

本町、本町東一丁及本町西一丁ノ町名ヲ左ノ通改稱ス

明治三十九年五月十二日

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎

| 地名 | 種目 | 單位及等級 | 一ケ年料金 |
|---------------|---------|--------|-------|
| フクサツウ 市街附近 | 商業的既墾地 | 一反歩ニ付 | 五錢 |
| ウラシミ 市街附近 | 商業的既墾地 | 同上 | 三錢 |
| マウカ 市街附近 | 商業的既墾地 | 同上 | 四錢 |
| 一般農村部落 | 既成墾地 | 一町歩ニ付 | 三錢 |
| 同上 | 既成墾地 | 一萬坪ニ付 | 三錢 |
| 同上 | 住宅地及共附屬 | 甲一戸分ニ付 | 三錢 |
| 同上 | 住宅地及共附屬 | 乙同上 | 二錢 |
| 同上 | 住宅地及共附屬 | 丙同上 | 一錢 |
| 同上 | 住宅地及共附屬 | 丁同上 | 五錢 |

| 新町名 | 舊町名 |
|------|------|
| 南一丁目 | 南一丁目 |
| 南二丁目 | 南二丁目 |
| 南三丁目 | 南三丁目 |

| | | | |
|--|-----------------------|-----------------------|------------------|
| 考 備 | 町 | | |
| | 西 一 條 | 東 一 條 | 大 通 |
| | 北 二 丁 目 | 北 三 丁 目 | 北 三 丁 目 |
| 各 丁 目 ノ 位 置 及 區 域 ハ 圖 面 ヲ 以 テ 之 ヲ 表 示 シ 當 署 掲 示 場 ヘ 掲 示 セ リ | 北 一 丁 目 | 北 二 丁 目 | 北 三 丁 目 |
| | 南 一 丁 目 | 南 二 丁 目 | 南 三 丁 目 |
| | 南 四 丁 目 | 南 五 丁 目 | 南 六 丁 目 |
| | 本 町 西 一 丁 | 本 町 東 一 丁 | 本 町 |

一九〇

第二目 支署告示

第一節 コルサコウフ支署告示

支署告示第一號

土地使用料額左ノ通定メラレタリ

明治三十八年九月三日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇次郎

一 一 等 地 一坪ニ付一ヶ月 金 二 錢
 一 二 等 地 同 金 一 錢
 一 三 等 地 同 金 五 厘
 一 四 等 地 同 金 三 厘
 土地使用ノ特許カ月ノ十五日以前ニ係ルモノハ全月分ヲ其ノ十五日以後ニ係ルモノハ半ヶ月分ヲ徴
 收ス

支署告示第二號

營業免許料額左ノ通定メラル

明治三十八年九月四日

樺太民政署コルサコウフ支署長

事務官 尾崎 勇次郎

一 物品卸賣業 金 十 圓
 一 倉庫業 金 十 圓

一九一

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|---|
| 運送業 | 旅人宿業 | 金貨付業 | 料理屋業 | 藝妓業 | 請負業 | 物品小賣業 | 製造業 | 印刷業 | 寫真業 | 飲食店業 | 雇入口業 | 裁縫業 | 湯屋業 | 遊藝師業 | 相撲業 | 俳諧業 | 遊藝業 | 雜技業 | |
| 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 | 金 |
| 十 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 |

一九三

一 洗滌業 金 一 圓
 一 遊藝人 金 一 圓
 免許料ハ許可ノ際徴收ス

支署告示第三號
 コルサコウフニ樺太南部病院ヲ設置セラル
 明治三十八年九月四日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎 勇次郎

支署告示第四號
 樺太南部病院ハ本月五日ヲ以テ開始ス
 明治三十八年九月四日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎 勇次郎

支署告示第五號
 貸座敷營業免許料及娼妓名簿登錄料左ノ通定メラル
 明治三十八年十月一日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎 勇次郎

一九三

一九四

支署告示第六號
 明治三十九年四月軍令第四十三號汚物掃除規則第三條ニ依リ當署管内ノ汚物投棄場ヲ左ノ通指定ス
 明治三十九年四月十二日
 樺太民政署コルサコウフ支署長
 事務官 尾崎 勇次郎
 一 ポロアンドマリ楠溪通信所前ヨリ南南東高地標示ノ場所
 一 コルサコウフ官設厩場與標示ノ場所
 一 コルサコウフ山下町東北高地標示ノ場所

第二節 ウラジミロフカ支署告示

ウ支署告示第一號
 家屋使用料額左ノ通定メラル
 明治三十八年十月七日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原 毛乃

家屋使用料
 一 甲 號 一戸ニ付 一ヶ月 金 六 圓
 二 乙 號 同 金 三 圓
 三 丙 號 同 金 一 圓
 四 丁 號 同 金 五 十 錢
 家屋使用料ノ納期ハ第一期(自十月)第二期(自十一月)第三期(自十二月)第四期(自一月)トシ既納使用料ニ對スル使用期間ノ滿了前五日以内ニ次期ノ使用料ヲ前納スヘシ其ノ特許カ月ノ十日以前ニ係ルモノハ全

月分、十一日以後ニ係ルモノハ半ヶ月分トシ當該期間ニ對スル料金ヲ前納スヘシ
 但シ第二期分ハ使用料三分ノ二ヲ減免ス

ウ支署告示第二號
 營業免許料額左ノ通定メラル
 明治三十八年十月八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原 毛乃

| | |
|-------|-------|
| 運送業 | 金 五 圓 |
| 倉庫業 | 金 五 圓 |
| 物品卸賣業 | 金 三 圓 |
| 旅人宿業 | 金 二 圓 |
| 料理屋業 | 金 二 圓 |
| 金貸付業 | 金 二 圓 |
| 藝妓業 | 金 二 圓 |
| 請負業 | 金 二 圓 |
| 物品小賣業 | 金 二 圓 |
| 製造業 | 金 一 圓 |
| 印刷業 | 金 一 圓 |
| 寫真業 | 金 一 圓 |

一九五

| | | | |
|-------------|------|---|---|
| 一 | 飲食店業 | 金 | 一 |
| 二 | 雇入口業 | 金 | 十 |
| 三 | 裁縫業 | 金 | 十 |
| 四 | 湯屋業 | 金 | 十 |
| 五 | 理髮業 | 金 | 十 |
| 六 | 遊藝師 | 金 | 十 |
| 七 | 相撲匠 | 金 | 十 |
| 八 | 俳優 | 金 | 十 |
| 九 | 遊藝場 | 金 | 十 |
| 一〇 | 洗濯業 | 金 | 十 |
| 一一 | 遊藝人 | 金 | 十 |
| 一二 | 遊藝雜業 | 金 | 十 |
| 免許料ハ許可ノ際徴收ス | | | |

ウ支署告示第三號
 假リニ家屋又ハ土地使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ願出テニ關スル件左ノ通定メラル
 明治三十八年十月八日
 樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原 毛 乃
 本年十月七日ウ支署令第一號家屋使用規則第二號土地規則發布前ニ於テ假リニ家屋又ハ土地使
 用ノ許可ヲ受ケタル者ハ同則ニ依リ本日ヨリ十日以内ニ支署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

ウ支署告示第四號
 署所在地ニ於テ牛馬其ノ他ノ獸畜ヲ屠殺セントスル者ハ必ス官ノ指定セル屠畜場ニ於テスヘシ
 當分ノ間ウラジミロフカ村二十三番地ノ後方無名ノ川ニ沿ヘル標示ノ區域ヲ以テ屠畜場ト指定ス
 明治三十八年十月十七日
 樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原 毛 乃

ウ支署告示第五號
 署及出張所々在地ニ於ケル宿泊及宿泊人届出ニ關スル件左ノ通定メラル
 明治三十八年十月十七日
 樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 榑原 毛 乃
 一 所轄内ヲ通過スル日本臣民ニシテ署及出張所々在地ニ於ケル在留土民ノ居室ニ宿泊セントスル
 モノハ豫メ所轄憲兵分遣所長ノ許可ヲ受クヘシ
 一 署及出張所々在地ニ於テ他人ヲ宿泊セシメタル者ハ二時間以内ニ左ノ各號ヲ具シ所轄憲兵分遣
 所長ヘ届出ツヘシ
 一 宿泊人ノ原籍、住所、職業、氏名、年齢
 二 宿泊ノ日時及出發ノ豫定日時
 三 前夜ノ宿泊地及行先地
 四 旅行ノ目的

ウ支署告示第六號



ウ支署令第一號家屋使用規則第三條ニ依リ家屋使用ヲ特許スヘキ區域左ノ如シ
使用希望ノ者ハ本日より願書ヲ差出スヘシ
明治三十八年十月十八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榊原毛乃

特許區域

- 一 パリシヤヤエラニ村
- 一 ホムトフカ村
- 一 リストウエニチノエ村

以上

ウ支署告示第七號
所轄内ニ於テ牛馬其ノ他ノ家畜ヲ所有スル者ハ左記様式ニヨリ十一月十日迄ニ届出ツヘシ届出ノ後其ノ所有家畜ニ異動ヲ生シ若ハ新ニ之ヲ所有シタル場合ハ其ノ旨更ニ届出ツヘシ

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榊原毛乃

所有家畜届

一 種類 牝 頭 數
右ハ私儀所有ノ家畜ニ相違無之候條此段御届申上候也

何者 某

樺太民政署ウラジミロフカ支署長
事務官 榊原毛乃殿

ウ支署告示第八號

本月十六日露講和條約批准交換了シタル旨其ノ筋ヨリ通達アリタリ

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榊原毛乃

ウ支署告示第九號

當署所轄内ニ於テ一時使用ヲ許可スヘキ家屋所在村落區域左ノ通定メラル

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榊原毛乃

- ルゴオエ村
- パリシヤヤエラニ村
- リストウエニチノエ村

- ブリジチエ村
- ホムトフカ村

以上

ウ支署告示第十號

當署出張所所轄内ニ於テ一時使用ヲ許可スヘキ家屋所在村落區域並ニ許可スヘキ家屋番號左ノ通定メラル

1100

明治三十八年十一月七日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榎原 毛乃

ガルキノウラスコエ村

第一號乃至第四號、第七號、第八號

第廿五號乃至第廿八號、第四十七號

第四十八號、第五十號、第五十一號

マルウエチキノ村

第一號 乃至第七號

ドブキイ村

第十一號乃至第十四號、第十六號

第十八號乃至第廿五號

以上

ウ支署告示第十一號

明治三十八年十月二十五日付ウ支署告示第七號ヲ以テ發布シタル牛馬其ノ他ノ家畜ヲ所有スル者ノ届出ニ關スル件ハ都合ニ依リ十一月二十日迄延期ス

明治三十八年十一月八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榎原 毛乃

ウ支署告示第十二號 (明治三十九年一月十八日) (ウ支署告示第十三號ヲ以テ訂正)

常支署附屬ウラジミロフカ診療院本日より業務ヲ開始ス尙ホ診察料及藥價等左ノ通相定ム

明治三十八年十二月三十日

樺太民政署ウラジミロフカ支署長

事務官 榎原 毛乃

一 診察料 外來患者ハ當分無料トス

一 往診料 晝間金五拾錢夜間金壹圓

一 水藥 一日分 金貳拾錢以上

一 散藥 一日分 金貳拾錢以上

一 丸藥 一日分 金貳拾錢以上

一 頓服藥 一回量 金拾錢以上

一 外用劑 一回分 金五錢以上

一 吸入劑 一回分 金貳拾錢以上

一 洗腸料 一回分 金參拾錢以上

一 點眼料 一回分 金八錢以上

一 注射料 一回分 金貳拾錢以上

一 器法料 一回分 金拾圓以上

一 洗耳料 一回分 金拾五錢以上

一 拔牙料 一回分 金貳拾錢以上

一 齒科料 一回分 金貳拾錢以上

1101

一 手術料 金參拾圓以上
 一 產科手術料 金參拾圓以上
 一 体格検査料 金五拾圓以上
 一 診階書料 金壹圓
 一 屍体検案料 金壹圓
 一 屍体検案書料 金壹圓
 一 死産證書料 金壹圓
 一 處方箋料 金五拾錢
 一 入院料 金貳圓五拾錢
 但シ手術ヲ要セシ場合ハ規定ノ手術料ヲ徴收ス

支署告示第十三號
 明治三十八年十二月三十日附ウ支署告示第十二號中診察料及藥價等左ノ通訂正ス
 明治三十九年一月十八日
 樺太民政署ウラジミロフカ支署長
 事務官 柳原 毛 乃

診察料 外來患者ハ當分無料トス
 往診料 金五十錢、雨中雪中及夜間ハ金一圓トス但シ往診ハ當分近距離ニ限ル
 水藥 一日分 金十二錢以上
 散藥 一日分 金十二錢以上
 丸藥 一日分 金十二錢以上
 頓服藥 一回分 金十錢以上
 外用劑 一回分 金五錢以上
 吸入劑 一回分 金二十錢以上
 洗眼料 一回分 金二十錢以上
 點眼料 一回分 金五錢以上
 注射料 一回分 金二十錢以上
 但シ血清注射ハ血清ノ實費ヲ徴收ス
 瘧法料 一回分 金十錢以上
 耳洗料 一回分 金十錢以上
 拔牙料 一回分 金二十錢以上
 手術料 金三十錢以上
 体格検査料 金五十錢以上
 診階書料 金一圓以上
 屍体検案料 金一圓以上
 但シ醫員ノ出張ヲ要スル場合ハ規定ノ往診料ヲ徴收ス



- 一 屍体検査書料 金一圓以上
 - 一 死産證書料 金一圓以上
 - 一 入院料 一日 金一圓五十錢
- 但シ食費及滋養物ハ自辨タルヘシ
- 診察時間當分左ノ通定ム
- 一 院内診察 自午前八時 至正午十二時
 - 一 往診 自午後一時 至午後五時
- 但シ急病患者ハ此ノ限りニアラス

ウ支署告示第十四號
 管下ウラジミロフカ村共同蘆芥棄却場ヲ左ノ三ヶ所ニ設定ス
 明治三十九年三月三十一日 樺太民政署ウラジミロフカ支署長

- 一 共同蘆芥棄却場位置
- 一 ウラジミロフカ村第三番地裏 標示ノ地域
- 一 同村第二十一番地裏 同上
- 一 同村第五十七番地裏 同上

ウ支署告示第十五號
 今般管下ウラジミロフカ村北端橋梁ヨリ西北約二丁ヲ距ル樹林中ニ官設屠畜場新築ニ付明治三十八年十月本署告示第七號ノ使用料ヲ以テ一般屠畜ノ使用ニ供ス
 明治三十九年四月一日 樺太民政署ウラジミロフカ支署長

第三節 マウカ支署告示

マ支署告示第壹號
 マウカ(アラクワイ及ボントマリヲ含ム)ニ於テ官憲ノ保管ニ屬スル家屋ヲ借用セル渡航者並ニ營業希望者ハ左記書式ニ依リ出頭許可ヲ受クヘシ
 追テ現ニ營業中ノモノハ此ノ際速ニ出頭許可ヲ受クヘシ
 明治三十八年十二月十一日 樺太民政署マウカ支署長

- (甲) 家屋借用願書式
- 一 何々造家屋 何 棟 番地 何第 號
 - 一 私儀明治 年 月 日 何々ニテ當地ニ渡航候處越年ノ爲メ必要ニ付前記ノ家屋特別ノ御詮議ヲ以テ借用ノ儀御許可被成下度萬一借用中損害ヲ生シタルトキハ相當御指定ノ代價ヲ辨償可致候又官ノ御都合有之候節ハ何時ニテモ返上可仕候此段奉願候也
 - 追テ借用家屋ニ對シ建増若ハ造作ヲ付スル場合ハ着手前吃度御指圖相受可申候也
- 年 月 日

1105

1104

樺太民政署マウカ支署長
 事務官 横田 郷 助殿
 (注 意)
 一 出願人ニ於テ同居セシムヘキ家族又ハ使用人等アルモノハ其ノ原籍、氏名、生年月日ヲ別紙ニ認メ差出スヘシ
 二 二人以上共同借用ノモノハ連署出願スヘシ
 三 願書ハ添付書類トモ正副二通認メ差出スヘシ
 (乙) 營業願書式
 一 營業場所 何々々
 一 使用人 何某、々々、以上何人
 私儀明治 年 月 日何々ニテ當地ニ渡航候處越年中活計ノ爲メ前記營業相營度御規則御命令等ハ堅ク遵守可致候間特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也
 年 月 日
 原籍
 住 所
 當地現住所

原籍
 住 所
 族籍、職業 何
 某 印

二〇六

樺太民政署マウカ支署長
 事務官 横田 郷 助殿
 (注 意)
 一 現ニ營業中ノモノハ他ノ官憲ヨリ許可セラレタル證書ヲ添付スヘシ
 二 二人以上共同營業者ハ連署出願スヘシ
 三 願書ハ添付書類共正副認メ差出スヘシ
 マ支署告示第二號
 マウカ(アラクワイ及ボントマリヨ合ム)ニ於テ越年ノ爲メ住宅建設希望ノモノハ止ムヲ得サルモノニ限リ許可スヘキニ付左記書式ニ依リ出願スヘシ
 明治三十八年十二月十一日
 樺太民政署マウカ支署長
 事務官 横田 郷 助
 住宅建設及土地使用願書式
 一 何々造住宅 一 棟
 一 建設ノ場所 別紙圖面ノ通り(住宅建坪等此ノ圖面中ニ併記スヘシ)
 私儀明治 年 月 日何々ニテ當地ニ渡航候處越年ノ爲メ住宅建設致度尤モ官ノ御都合ニヨリ取拂方被命候節ハ何時ニテモ無償ニテ取拂可致候條特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也
 年 月 日
 原籍

何
 某 印

二〇七

住 所
當地假居所
族 籍、職 業 何 某 印

權太民政署マツカ支署長
事務官 横田 郷助殿

(注 意)

- 一 出願人ニ於テ同居セシムヘキ家族又ハ使用人等アルモノハ其ノ原籍、氏名、生年月日ヲ別紙ニ認メ本願書ニ添付スヘシ
- 二 二人以上共同建設者ハ連署出願スヘシ
- 三 願書ハ添付書類共正副二通認メ差出スヘシ
- 四 住宅建設方法及見積等ニ付必要アルトキハ別ニ書面ヲ投出セシムルコトアルヘシ

マ支署告示第三號
本日ヨリ當署醫務課ニ於テ一般公衆ノ需ニ應ジ診察治療ニ從事ス
但シ藥價其ノ他料金ハ左ノ規程ニヨル
明治三十八年十二月十一日
權太民政署マツカ支署長
事務官 横田 郷助

藥價其ノ他徴收規定
一 診 察 料 外來患者ハ當分無料トス
一 往 診 料 金五十錢、雨中雪中及夜間ハ金壹圓トス

二〇八

但シ往診ハ當分近距離ナルヘク醫務ノ都合ニヨリ應ス

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|------|------|------|------|------|-------|-------------------|------|----|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------|--------|
| 水 | 散 | 丸 | 頓服 | 外用 | 吸入 | 洗腸 | 點眼 | 注射 | 但シ血清ノ注射ハ血清ノ實費ヲ徴收ス | 翳法 | 耳洗 | 拔齒 | 手術 | 体格検査 | 診斷書料 | 屍體検査料 | 但シ醫員ノ出張ヲ要スル場合ハ規定ノ往診料ヲ徴收ス | 屍體検査書料 |
| 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 | 藥 |
| 壹日分 | 同 | 同 | 同 | 壹圓分 | 壹圓分 | 壹圓分 | 壹圓分 | 同 | | 壹圓分 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 壹圓分 | 壹圓分 |
| 拾貳錢以上 | 同 | 同 | 拾錢以上 | 拾錢以上 | 拾錢以上 | 拾錢以上 | 拾錢以上 | 貳十錢以上 | | 十錢以上 | 同 | 貳拾錢以上 | 貳拾錢以上 | 參拾錢以上 | 五十錢以上 | 壹圓以上 | 同 | 壹圓以上 |

二〇九

- 一 死産證書料 壹圓分 壹圓以上
 - 一 入院料 壹日分 壹圓五拾錢
- 但シ食費及滋養物ハ自辨タルヘシ
以上藥價ハ小兒(一才ヨリ六才迄)及貧困者ハ半減極貧者ニハ施療ス

マ支署告示第四號 (明治三十九年三月一日マ支署告示第七號ヲ以テ追加)
住宅建設用材及自家用薪材伐採致度希望ノモノハ別紙圖面ノ場所ニ於テ左記書式ニ依リ出願スヘシ
追テ伐採料金ハ確定ノ上徴收スヘシ
明治三十八年十二月廿八日 樺太民政署マウカ支署長 事務官 横田 郷助

- 住宅建設用材伐採願書式
- 一 何々々 樹 目通直徑何尺寸 本
- 一 何々々 樹 同 同 本
- 計 本

右ハ住宅建設ノ爲ノ必要ニ付御指定ノ場所ニ於テ伐採御許可相成度御許可ノ上ハ御規則命令等堅ク遵守可仕候此段奉願候也
年 月 日 原 籍 當地假居所 氏 名 印

原 籍 當地假居所 氏 名 印

樺太民政署マウカ支署長 事務官 横田 郷助殿
薪材伐採願書式

一 薪材 材 棚
右ハ自家用薪材トシテ必要ニ付御指定ノ場所ニ於テ伐採御許可相成度御許可ノ上ハ御規則命令等堅ク遵守可仕候此段奉願候也
年 月 日 原 籍 當地假居所 氏 名 印

原 籍 當地假居所 氏 名 印

マ支署告示第五號
住宅建設用材及薪材伐採料金左ノ通相定ム
明治三十九年一月十一日 樺太民政署マウカ支署長 事務官 横田 郷助

- 一 住宅建設用材伐採料金 一尺ベニ付 金二十三錢
- 一 薪材伐採料金 一棚(五六)ニ付 金五十錢
- 但シ古損木ハ一棚(五六)ニ付金十錢



マ支署告示第六號
在留露國人其ノ他居住及移轉届出規程左ノ通相定ム
明治三十九年一月廿二日
樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷助

在留露國人其ノ他居住及移轉届出規程

第一條 當支署管内ニ居住スル露國人、清國人、韓國人及移住アイヌ人ハ第一號書式ニヨリ支署長ニ届出ツヘシ

第二條 居住ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ第二號書式ニヨリ支署長ニ届出ヘシ

第三條 家族ニ就キテハ戸主代リテ本規程ノ届出ヲナスコトヲ要ス

第四條 本人ノ都合ニヨリテハ當支署ニ出頭ノ上、口頭ヲ以テ本規程ノ届出ヲナスコトヲ得

第一號書式

居住届
私儀御管内何々(現住所)ニ居住罷在候ニ付左記事項ヲ具シ此段及御届候也
明治 年 月 日

戸主カ代リテ届出ツルトキハ左ノ通記入

氏名
右戸主 氏名
印

一 原籍、身分、生年月日

樺太民政署マウカ支署長
事務官 横田 郷助 殿

- 二 當島ニ移住セルモノハ其ノ移住ノ年月日及其ノ詳細ナル事由
 - 三 當島ニ移住前ノ住所並ニ職業
 - 四 移住後ノ履歴
 - 五 現ニ營ミ及將來營マンドスル職業
 - 六 歸國希望ノ有無若シ有ラハ其ノ時期ト方法
- (注意) 平常ニケ所以上ニ居住所ヲ定メアルモノハ其ノ旨附記スヘシ
第二號書式

移轉届
私儀今般何々ノ目的ヲ以テ何々ノ地ニ移轉致候ニ付此段及御届候也
年 月 日

現住所、身分
職業

戸主カ代リテ届出ルトキハ左ノ通記入

氏名
右戸主 氏名
印

樺太民政署マウカ支署長
事務官 横田 郷助 殿
(露語譯文ハ本誌ニ掲載セサルモ在留露國人ノ購求者ニ限り右露語譯文ヲ添付ス)

マ支署告示第七號

明治三十八年十二月二十八日マ支署告示第四號住宅建設用材及自家用薪材伐採場所別紙圖面ノ通り追
加ス
追テ從前許可ヲ受ケタル場所ト同號ノ場所ニ於テハ別ニ出願許可ヲ要セス伐採スルコトヲ得
明治三十九年三月一日
樺太民政署マウカ支署長
事務官 横田 郷 助

マ支署告示第八號
明治三十九年二月二十八日軍令第三十七號森林伐採規則ニ依リ差出スヘキ願書、請書ノ書式及伐採料
金、伐採指定地左ノ通相定ム
明治三十九年四月九日
樺太民政署マウカ支署長
事務官 横田 郷 助

第一條 軍令第三十七號森林伐採規則ニ依リ樹木伐採ヲ許可スヘキ場所ハ當支署管内ニ在ッテハテ
ヤ川上流指定地別紙圖面ノ通トス
第二條 伐採料金ハ左ノ通りトス
一 用材一尺ハ 二十八錢
二 薪炭材一捆 三十五錢
但シ被害木ニ付テハ別ニ相當料金ヲ指定スヘシ
第三條 願書及請書ハ左ノ書式ニ依リ當支署ニ差出スヘシ
甲 伐採願書式
何々伐採願

何々 (伐採地)
何 樹 何 本

此材積何程(薪材ハ尺ハ)
用途(家屋建築用若ハ薪材用、建築用材ナルトキハ其ノ建築地建坪數構造等可成詳記スヘシ)
右伐採御許可被成下度明治三十九年二月軍令第三十七號森林伐採規則ニ據リ此段奉願候也
年 月 日
住 所、族 籍
氏 名 印

乙 請書式
請 書
何 々 (伐採地)年月日御許可ノ分
何 樹 何 本(何尺)

此料金何程
今般前書ノ通り伐採御許可相受ケ候ニ就テハ森林伐採規則及左記條項ヲ承諾シ請書差出候也
年 月 日
住 所、族 籍
氏 名 印

一 料 金 納 付 何年何月何日限
二 樹 木 引 渡 何年何月何日限

三 造林 何年何月何日限

四 每樹ニ極印ヲ打記シ引渡サルヘキニ付其ノ根部印跡アル部分ハ之ヲ存置スルコト若シ區域ヲ限リテ周圍ノ樹木ニ極印ヲ打記シ引渡サレタルトキハ其ノ印跡アル立樹ハ之ヲ存置スルコト

五 伐採區域ノ面積、材積、數量又ハ品質ニ錯誤、過不足アルモ異議ヲ述ヘサルコト

六 造林物件ハ伐了検査ヲ受ケタル後ニ非レハ搬出スルコトヲ得ス

七 搬出期限内ニ搬出セザル造林又ハ立木ハ所有權ヲ拋棄セザルモノニ付官ニ於テ任意ニ處分アルモ異議ナキコト

八 左ノ場合ニ於テ伐採又ハ搬出ヲ停止セララル、モ異議ヲ述ヘス又損害アルモ之ヲ請求セス

一 許可以外ノ樹木ニ對シ損害ヲ與ヘタルトキ

二 許可人又ハ其ノ使役人森林ニ關スル犯罪アリト認めラレタルトキ

三 森林伐採規則又ハ此ノ請書ノ條項ニ違背セルトキ

丙 山入鑑札下付願書式

山入鑑札下付願

一 何々 (伐採地)

二 何樹 何程

三 用途 (家屋建築材、薪材漁具材等)

四 山入林期限 何月何日ヨリ何月何日マテ

五 漁業ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ場所、鑑札下付ノ年月日及番號ヲ記スヘシ

右山入鑑札何枚御下付相成度別紙使役人名書相添ヘ此段奉願候也

住所、族籍

年月日 氏名

民政長官宛 使役人名書

同 何 某 何 歳

同 同 同 同

丁 入林延期願書式

入林延期願

一 許可年月日、番號

二 山元殘存材 何々何本

三 延期出願日數 何月何日ヨリ何月何日マテ

右何々ニ付豫定期間内ニ搬出仕兼候間山元殘存材前記ノ通り何日間搬出御延期被成下度此段奉願候也

住所、族籍

氏名

マ支署告示第九號

營業免許料額左ノ通定メラル

明治三十九年五月三日

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷助

紅梅町 望町
 朝顔町 葵町
 紅葉町 黄菊町
 撫子町 若葉町

白萩町
 櫻町
 柳町
 春雨町

樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷助

マ支署告示第十二號
 マウカ市街豫定地等級左ノ通相定ム

一等地

紅梅町 全部(倉庫敷地ヲ含ム)
 望町 壹番地ヨリ四十三番地マテ
 白萩町 壹番地ヨリ三十八番地マテ

二等地

撫子町 全部
 朝顔町 四十四番地ヨリ八十八番地マテ
 白萩町 全部
 櫻町 三十九番地ヨリ五十八番地マテ
 春雨町 紅葉町 若葉町 各全部

三等地

葵町 全部
 黄菊町 全部
 柳町 全部

明治三十九年五月二十二日

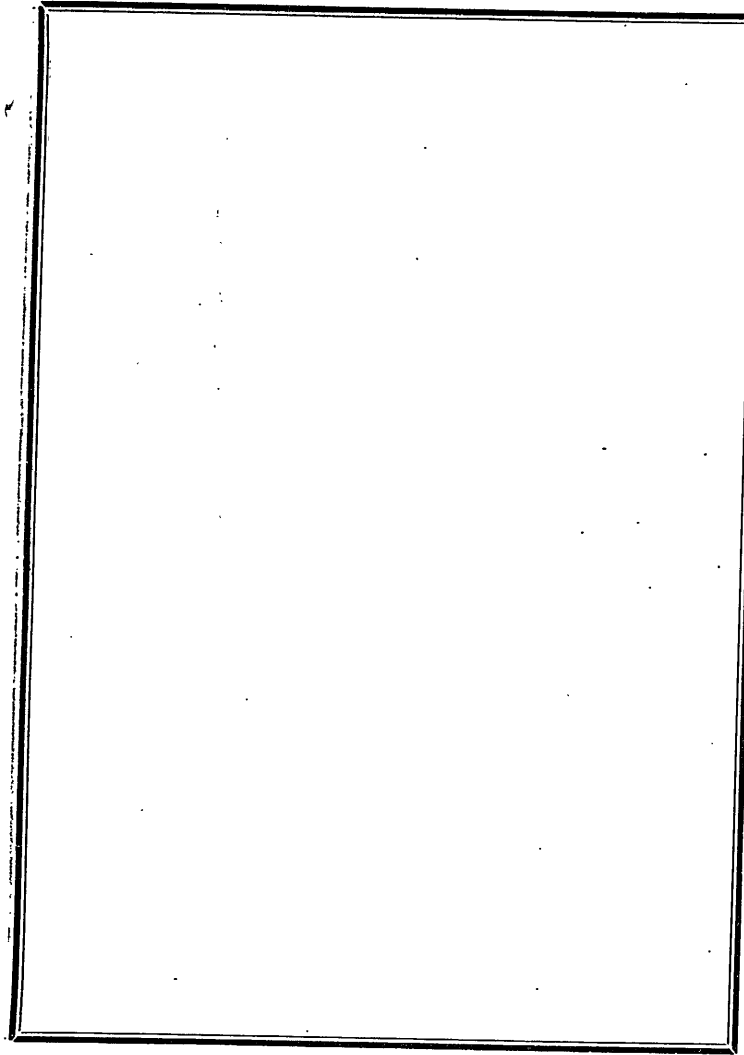
樺太民政署マウカ支署長

事務官 横田 郷助

三三三

三三三

第八類
公告



5-0398

0238

第八類 公告

公告第一號

從來本島内地間ノ郵便ハ總テ青森郵便局ヲ經ルコト、ナリ居リシ爲メ北海道方面ノ郵便ハ二日内外ノ
遅達ヲ免レサリシ處今般此ノ不便ヲ除却スル爲メ普通郵便ニ限リ小樽郵便局ト當地郵便局ト直接受授
ノ便ヲ開始セリ

明治三十八年十月十八日

樺太守備隊郵便部

公告第二號

十一月十日ヨリコルサコッフ野戰郵便局ニ於テ左ノ普通郵便事務ヲ取扱フ

- 一 普通通常郵便物ノ全部(書狀、葉書、新聞、雜誌、印刷物、種子、見本等)引受
- 一 普通通常郵便物ノ全部及普通小包郵便物(特殊取扱ノモノ例ヘハ代金引換又ハ價格表記等ヲ
除ク)配達交付

注意 本島ヨリ内地ヘハ小包ヲ差出シ得サルモノト知ルヘシ

明治三十八年十一月八日

樺太守備隊郵便部

公告第三號

十二月二日ヨリ「コルサコッフ」通信所ニ於テ樺太臺灣間公衆電報取扱ヲ開始ス其ノ料金左ノ如シ
和文至急私報拾五字以内 金壹圓貳拾錢

五字以内ヲ加フル毎ニ金參拾錢ヲ増ス
明治三十九年一月十五日

ウ支署公告第一號
普通郵便及爲替事務ノ取扱開始ニ關シ樺太守備隊第五野戰郵便局ヨリ左ノ如ク通知セリタリ
明治三十九年一月十八日

樺太民政署ウラジミロフカ支署

一月二十日ヨリ當郵便局ニ於テ普通郵便及爲替事務ノ取扱ヲ開始ス
一 第一種乃至第五種郵便物ノ引受及配達交付
但シ第一種書狀、第二種葉書、第三種毎月一回以上刊行スル定期刊行物、第四種書籍、印刷物、寫眞、見本雛形等、第五種農産物種子
一 普通小包郵便物ノ配達交付
但シ小包郵便物ノ引受ヲナサス
一 通常爲替及小爲替
但シ爲替拂渡事務ハ此ノ限ニアラス
右及通知候也

明治三十九年一月十八日

樺太守備隊第五野戰郵便局

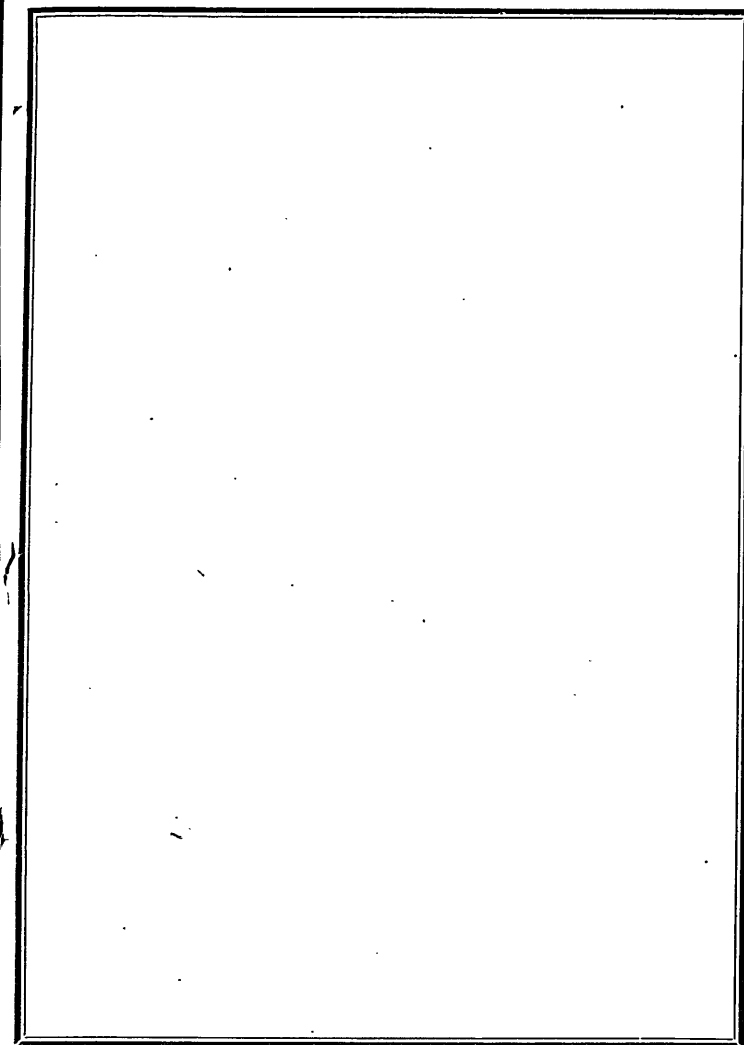
ウ支署公告第二號

私報電信取扱ニ關シ樺太守備隊第五野戰郵便局ニ於テ左ノ如ク廣告セラレタリ
明治三十九年三月二十五日

樺太民政署ウラジミロフカ支署

本島内地間ノ私報ハ至急報ニ限リ其ノ料金ハ通常ノ三倍トス
電報ハ料金完納ノモノニ限リ郵便ニヨリ發送スルコトヲ得但シ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ
此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限リ無料トナスコトヲ得

第九類
彙報



三三

5-0398

0241

第九類 彙 報

彙報第一號 明治三十八年九月四日

樺太島漁業假規則ニ基キ漁業特許證雛形、漁業特許證ニ裏書スヘキ心得書、漁業特許ニ對スル受書及
 鮭、鱈、鱒漁業特許入札規程ノ大要左ノ通定メタリ

○漁業特許證雛形
 第 號

漁業特許證

住 原 籍

———
 漁業特許證雛形
 漁名漁番漁
 種及種類
 許可ノ日ヨリ明治三十九年 月 日ニ至ル

右明治三十八年陸軍省告示第十五號及同年軍令第三號第十一ニ依リ之ニ特許ヲ與フルモノ也
 明治 年 月 日

○漁業特許證雛形心得書

樺太民政署民政長官

第一條 漁業ノ特許ヲ受ケタル者ハ無料ニテ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
 一 薪炭用住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用漁船漁具用ノ爲メ山林伐採スルコト但シ海面ヨリ展望シ得ヘキ場所及展望區域ヨリ十八町以内ハ此ノ限ニ在ラス
 前項ニ依リ伐採シ得ヘキ區域内ト雖官ハ伐採禁止シ又ハ伐採區域若ハ樹木ヲ指定スルコトアルヘシ
 一 住宅其ノ他漁業ニ要スル建築及工作用敷地漁船漁具置場、網干場、海産干場及蔬菜園ニ必要ナル海濱土地ヲ使用スルコト
 前項土地ノ面積ハ官ニ於テ指定スルコトアルヘシ
 第二條 漁業料ハ特許證交付ノ際其ノ半額ヲ納付其ノ半額ハ明治 年五月三十一日迄ニ之ヲ納付スルモノトス若シ納期日ニ此ノ漁業料ヲ納付セザルトキハ特許ノ効ヲ失フモノトス
 第三條 既納ノ漁業料ハ如何ナル場合ト雖之ヲ還付セス
 第四條 條約ノ結果其ノ他ニ依リ本特許消滅シ若ハ無効ニ歸シタル場合ト雖官ハ之カ賠償ノ責ニ任セ
 第五條 漁業上ノ設備及方法ニ付官ノ指示スル所ハ違反スヘカラス
 第六條 現行並將來發布セラル、軍令其ノ他ノ諸規則ハ嚴ニ之ヲ遵守スヘシ
 ○受書ノ書式
 御 受 書
 私 儀
 漁業出願中ノ處明治 年 月 日第 號ヲ以テ特許相成候ニ付右特許證裏面ノ心得書堅ク可相守此段御受申上候也

明治 年 月 日
 樺太民政長官殿
 ○鮭、鱒、鯉漁業特許入札規程ノ大要
 第一 入札ノ場所ハ「コルサコウフ」トス
 第二 入札ノ日ハ追テ之ヲ定ム但シ十月ナルヘシ
 第三 入札ノ日及入札ニ付スヘキ漁場ハ民政署官報ヲ以テ告示スルノ外入札期日ノ十五日前ニ國民新聞、東京朝日新聞、時事新報、中外商業新報、東京日々新聞、中央新聞、萬朝報、大阪朝日新聞、大坂毎日新聞、北海タイムス、小樽新報、函館毎日新聞、河北新報(仙台)、富山日報(富山)、東奥日報(青森)紙上ニ廣告ス
 第四 入札ハ本人若ハ其ノ代理人入札場所ニ出頭シテ之ヲ爲スヘシ
 代理人ヲ出頭セシムル場合ニハ入札漁業願及漁業料納付ニ關スル完全ナル委任ヲ爲シ署クヘシ
 第五 入札金額ニシテ豫定價額ニ達セザルトキハ直ニ現在入札者ヲシテ再入札ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第六 競争入札ニ加ハラントスル者ハ豫メ一漁場ニ付入札保證金參百圓ヲ提供スヘシ
 入札保證金ハ現金ニ限ル但シ國債證券、國庫債券ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項ノ保證金額ハ額面參百五十拾圓ヲ以テ現金參百圓ニ換算ス
 落札者ノ保證金ヲ除ク外開札ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ還付ス
 第七 落札者ノ入札保證金ハ之ヲ漁業料ニ充ツ國債證券及國庫債券ヲ以テ保證金トナシタルトキハ其ノ價額ハ公定相場ニ依ル若シ本年納付スヘキ漁業料ニ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ還付ス
 第八 落札者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ保證金ヲ沒收ス本年納付スヘキ漁業料ヲ納付セザルトキ亦

同シ

第九 落札者確定シタルトキハ漁業特許願ヲ差出スヘシ本年納付スヘキ漁業料ノ納付ト共ニ特許證ヲ交付スヘシ

彙報第二號 明治三十八年九月六日

樺太南部病院ニ於テ診察料及藥價等左ノ通定メラレタリ

| | |
|-----------------|--------------|
| 一 往診料 | 外來患者ハ當分無料トス |
| 一 往診ハ當分ノ内近距離ニ限ル | 晝間金五拾錢 夜間金壹圓 |
| 一 水 | 一日分 金貳拾錢以上 |
| 一 散 | 一日分 金貳拾錢以上 |
| 一 丸 | 一日分 金貳拾錢以上 |
| 一 頓服 | 一回量 金拾錢以上 |
| 一 外用劑 | 一回分 金五錢以上 |
| 一 吸入劑 | 一回分 金貳拾錢以上 |
| 一 洗眼料 | 一回分 金八錢以上 |
| 一 點眼料 | 一回分 金貳拾錢以上 |
| 一 注射料 | 一回分 壹圓以上 |
| 一 洗耳料 | 一回分 金貳圓以上 |
| 一 洗耳料 | 一回分 金拾五錢以上 |

| | |
|----------|-----------|
| 一 拔牙料 | 金貳拾錢以上 |
| 一 手術料 | 金參拾錢以上 |
| 一 產科手術料 | 金參圓以上 |
| 一 体格検査料 | 金五拾錢以上 |
| 一 診斷書料 | 金壹圓 |
| 一 屍體検査料 | 金壹圓 |
| 一 屍體検査書料 | 金壹圓 |
| 一 死産證書料 | 金壹圓 |
| 一 處方箋料 | 金五拾錢 |
| 一 入院料 | 一日 金貳圓五拾錢 |

但シ往診ヲ要スル場合ハ規定ノ往診料ヲ徴收ス

但シ刑事ニ關スルモノ及陸海軍ニ關スルモノハ金五圓以上トシ又往診ノ際ハ規定ノ往診料ヲ徴收ス

彙報第三號 明治三十八年十月一日

明治三十八年八月陸軍省告示第十五號樺太島漁業假規則ニ依リ本月二十六日迄ニ優先ノ證議ヲ爲シ鮭鱒、鯨漁業ノ特許ヲ與ヘタル者左ノ如シ



| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|---------------------------------|---------------------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-----------------------|---|----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|--------|--------|------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 三九 | 三八 | 三七 | 三六 | 三五 | 三四 | 三三 | 三二 | 三一 | 三〇 | 二九 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二四 | 二三 | 二二 | 二一 | 二〇 |
| 五三 | 五二 | 五一 | 五〇 | 四九 | 四八 | 四七 | 四六 | 四五 | 四四 | 四三 | 四二 | 三一 | 三〇 | 二九 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二四 |
| ソヨ コタン | ペ ケ | ノ ボ リ ボ 第 二 號 | ノ ボ リ ボ 第 一 號 | ウ ヤ ン ケ | フ レ チ シ | ア カ ラ | ソ ヤ ル | ク マ ル | ヤ ン ケ ナ イ | ソ ウ マ ナ イ、 オ タ シ ウ ス | イ ソ ウ シ ナ イ | サ フ コ タ ン | モ フ コ タ ン | アイ ハ カ ナ イ ボ | 無 名 | 無 名 | ト エ ク シ | チ ヤ タ レ コ タ ン | ハ ニ ウ シ コ ツ ナ イ |
| 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 |
| 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 内山 | 小田 | 小林 | 小林 | 角野 | 岡田 | 岡田 | 西川 | 林川 |
| 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 | 吉太 |

二二七

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|---|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|------------------|----|
| 一九 | 一八 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一二 | 一一 | 一〇 | 〇九 | 〇八 | 〇七 | 〇六 | 〇五 | 〇四 | 〇三 | 〇二 | 〇一 | |
| 二九 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二四 | 二三 | 二二 | 二一 | 二〇 | 一九 | 一八 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一二 | 一一 | 一〇 |
| ク チ ヤ ウ ン ナ イ | ウ ネ ト ン ナ イ | ナ ヨ ロ 第 六 號 | ナ ヨ ロ 第 四 號 | ナ ヨ ロ 第 二 號 | タ ラ ン コ タ ン 第 四 號 | タ ラ ン コ タ ン 第 六 號 | タ ラ イ カ 第 三 號 | タ ラ イ カ 第 五 號 | タ ラ イ カ 第 七 號 | タ ラ イ カ 第 九 號 | タ ラ イ カ 第 一 號 | タ ラ イ カ 第 三 號 | ト ロ ア ム ビ ー ニ | エ ロ ト 第 一 號 | ト ー キ シ マ ナ イ | ヤ ン ケ バ ナ ツ キ | ヤ ン ケ カ チ ヨ ボ ン ト | コ ヌ ワ フ | |
| 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 |
| 林 | 西 | 永 | 永 | 永 | 有 | 石 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 木 | 笹 | 笹 | 笹 | 笹 | 笹 | 笹 | 石 |
| 寅 | 利 | 彌 | 彌 | 彌 | 五 | 川 | 長 | 長 | 長 | 長 | 長 | 長 | 野 | 野 | 野 | 野 | 野 | 野 | 川 |
| 吉 | 光 | 平 | 平 | 平 | 郎 | チ | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 七 | 吉 | 吉 | 吉 | 吉 | 吉 | チ |

二二六

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 七九 | 七八 | 七七 | 七六 | 七五 | 七四 | 七三 | 七二 | 七一 | 七〇 | 六九 | 六八 | 六七 | 六六 | 六五 | 六四 | 六三 | 六二 | 六一 | 六〇 |
| 一六二 | 一六一 | 一四七 | 一四四 | 一四一 | 一三九 | 一三六 | 一三三 | 一三〇 | 一二九 | 一二八 | 一二七 | 一二六 | 一二五 | 一二四 | 一二三 | 一二二 | 一一九 | 一一八 | 一一七 |
| シブシナイボ | モシラルシナイ | ライトマリ | ナイトマリ | オホイ | トマリ | ドカ | モンヤ | バーチ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ | シブ |
| 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 |
| 石川 | 柳谷 | 内山 | 岡田 | 岡田 | 岡田 | 岡田 | 西原 | 米田 | 米田 | 米田 | 米田 | 米田 | 米田 | 佐々 | 西原 | 田中 | 田中 | 小倉 | 岡田 |
| イ | 助 | 吉 | 十 | 十 | 十 | 十 | 次 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 平 | 林 | 武 | 武 | 倉 | 兵 |
| チ | 市 | 太 | 次 | 次 | 次 | 次 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 次 | 郎 | 衛 | 衛 | 基 | 次 |

三三九

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 五九 | 五八 | 五七 | 五六 | 五五 | 五四 | 五三 | 五二 | 五一 | 四九 | 四八 | 四七 | 四六 | 四五 | 四四 | 四三 | 四二 | 四一 | 四〇 | |
| 一〇五 | 一〇四 | 一〇三 | 一〇二 | 九七 | 七七 | 七六 | 七五 | 七四 | 七一 | 六八 | 六七 | 六四 | 六三 | 五九 | 五八 | 五七 | 五六 | 五五 | |
| カストム | チビ | ホラ | ナイ | コチ | ヤン | ボ | アベ | ト | 無 | ノ | ト | モ | モ | サ | アン | シ | ホ | 無 | |
| 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 | 鮭 |
| 村上 | 岡田 | 村上 | 村上 | 村上 | 相原 | 相原 | 相原 | 佐々 | 佐々 | 佐々 | 佐々 | 笹野 | 若山 | 山本 | 山本 | 山本 | 笹野 | 笹野 | |
| 兵 | 次 | 兵 | 兵 | 兵 | 兵 | 兵 | 兵 | 平 | 平 | 平 | 平 | 平 | 榮 | 太 | 之 | 之 | 之 | 榮 | 榮 |

三三八

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 九九 | 九八 | 九七 | 九六 | 九五 | 九四 | 九三 | 九二 | 九一 | 九〇 | 八九 | 八八 | 八七 | 八六 | 八五 | 八四 | 八三 | 八二 | 八一 | 八〇 |
| 二二七 | 二二九 | 二二八 | 二二六 | 二二二 | 一九六 | 二〇三 | 二〇四 | 二〇二 | 二〇一 | 二〇〇 | 二〇六 | 一九五 | 一九三 | 一九二 | 一九一 | 一六八 | 一六五 | 一六四 | 一六三 |
| ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ | ウ イ キ ニ |
| パイカシヤクシ第一號 | オコナイボ | パイカシヤクシ第三號 | パイカシヤクシ第一號 | パイカシヤクシ第一號 | エベケレンルン | ビタレンルン | チイカベスボ | オロンベントマリ | ウツ | ケイカイナイボ | グアマナイボ | ビスボニ | クラシナイボ | ピロトロナイボ | アゴマイ | ソイヤナイボ | トイブシ | ケヌシナイボ | ナイボロ |
| 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 |
| 米 | 米 | 米 | 米 | 米 | 宮 | 桂 | 忠 | 忠 | 宮 | 大 | 米 | 品 | 小 | 小 | 桂 | 桂 | 田 | 柳 | 柳 |
| 林 | 林 | 林 | 林 | 林 | 島 | 久 | 久 | 久 | 島 | 兵 | 伊 | 鹿 | 榮 | 榮 | 久 | 久 | 武 | 助 | 助 |
| 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 館 | 五 | 五 | 五 | 館 | 吉 | 三 | 鹿 | 次 | 次 | 久 | 久 | 兵 | 市 | 市 |
| 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 八 | 藏 | 郎 | 郎 | 八 | 郎 | 郎 | 造 | 郎 | 郎 | 藏 | 藏 | 衛 | 市 | 市 |

二四〇

榮報第四號 明治三十八年十月一日
 樺太南部病院ニ於テ藥價其ノ他ノ料金左記ノ通改正セリ

| | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-----------|------|----------|------|
| 一〇六 | 一〇五 | 一〇四 | 一〇三 | 一〇二 | 一〇一 | 一〇〇 |
| 一六九 | 一〇八 | 一五四 | 二〇七 | 一四〇 | 一九八 | 一九八 |
| オ | ユガキナ、レイチカ | 無名 | ビスボナイボ第一號 | トエクシ | ベールイカイメニ | アラコイ |
| 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 | 鯨 |
| 内 | 吉 | 小 | 品 | 齋 | 佐 | 米 |
| 山 | 松 | 林 | 田 | 藤 | 々 | 林 |
| 吉 | 久 | 榮 | 鹿 | 五 | 木 | 伊 |
| 太 | 雄 | 次 | 造 | 郎 | 平 | 三 |
| | | 郎 | 郎 | 郎 | 次 | 郎 |

一 診察料 外來患者ハ當分無料トス
 一 往診料 金五十錢 雨中雪中及夜間ハ金一圓トス
 但シ往診ハ當分近距離ニ限ル

一 水 金十二錢以上
 一 散 金十二錢以上
 一 丸 金十二錢以上
 一 頓服 金十錢以上
 一 外用 金五錢以上
 一 吸入 金二十錢以内
 一 浣腸 一回分 金二十錢以上

二四一

一 點 眼 料 一 回 分 金 五 錢 以 上
 一 注 射 料 一 回 分 金 二 十 錢 以 上
 但シ血清注射ハ血清ノ實費ヲ徴收ス
 一 卷 法 料 一 回 金 十 錢 以 上
 一 耳 洗 料 一 回 金 十 錢 以 上
 一 齒 洗 料 一 回 金 十 錢 以 上
 一 手 術 料 金 貳 拾 錢 以 上
 一 體 格 檢 査 料 金 參 拾 錢 以 上
 一 診 斷 書 料 金 五 拾 錢 以 上
 一 屍 體 檢 査 料 金 壹 圓 以 上
 但シ醫員ノ出張ヲ要スル場合ハ規定ノ往診料ヲ徴收ス
 一 屍 體 檢 査 書 料 金 壹 圓 以 上
 一 死 産 證 書 料 金 壹 圓 以 上
 一 入 院 料 一 日 金 壹 圓 五 拾 錢
 但シ食費及滋養物ハ自辨タルヘシ
 診察時間當分ノ間左ノ通定ム
 一 院 內 診 察 自 正 午 前 八 時
 自 正 午 十 二 時
 至 午 後 五 時
 但シ急病患者ハ此ノ限ニアラス

二四三

榮報第五號 明治三十八年十月十四日
 (漁業特許願様式)
 一 漁 業 特 許 願 第 號
 一 漁 場 番 號 第 號
 一 漁 場 名 稱
 一 漁 業 ノ 種 類
 一 漁 網 ノ 種 類 及 數
 一 使 用 船 隻 數
 一 漁 夫 人 員
 一 入 札 保 證 金 圓
 前記ノ漁業特許相成度特許相成候上ハ御規則命令等嚴ニ遵守可仕候此段御願申上候也
 明 治 年 月 日
 住 原 籍 右 出 願 人 何 某 印
 住 原 籍 右 出 願 代理人 何 某 印
 右 出 願 代理人 何 某 印

二四三

樺太民政署民政長官 熊谷喜一郎殿

(注) 意

一 代理人ヨリ出願ノ場合ハ願書ニ委任狀ヲ添付スヘシ若シ他ノ願書ニ委任狀ヲ添付シ署キタルト
キハ其ノ旨明記スヘシ

入札書様式

入札書

| | | |
|------|------|------------------|
| 漁場番號 | 入札金額 | 原籍 住所 氏名 |
| | | 原籍 住所 氏名 |
| | | 現居留所 入札人 何 某 印 |
| | | (代理人ヨリ入札ノ場合ハ左ノ通) |
| | | 原籍 住所 何 某 |
| | | 現居留所 右代理人 何 某 印 |

明治三十八年十月 日

稟報第六號 明治三十八年十月廿九日
家屋一時使規則ニ依リ一時使用ヲ許可スヘキ所在地及其ノ番號左ノ通公示セラレタリ

明治三十八年十月二十九日

フタラトヤバアヤ村

乙 第二號

トレーアバアチ村

乙 第二號

乙 第六號

乙 第八號

丙 第二號

丙 第四號

丙 第六號

ミツリヨフカ村

甲 第一號

乙 第一號

乙 第四號

メレイ村

自乙第一號至乙第五號

自丙第一號至丙第七號

ルゴエ村

丙 第三號

乙 第五號

乙 第七號

乙 第十號

丙 第三號

丙 第五號

甲 第二號

乙 第二號

丙 第一號

自第一號至第五十六號
 パリシヤエラニ村
 自第一號至第二十五號
 ホムトフカ村
 自第一號至第三十八號
 リストウエニチノエ村
 自第二號至第十四號
 以上

二四六

公衆電報取扱規定

十一月一日午前八時ヨリ(コルサコウフ)軍用通信所ニ於テ公衆電報取扱ヲ開始ス發受信者ハ左ノ通心得ヘシ

- 一 取扱フヘキ電報ハ(コルサコウフ)通信所、内國間和文至急私報(料金ハ普通私報ノ三倍ニ限ル)
- 二 若信ハ留置ノ外ハ凡テ郵便配達トス
- 三 暗號電報ハ樺太守備隊司令部ノ許可アルモノ、外ハ取扱ハス
- 四 誤謬遅延及不達ノ責ニ任爲ス
- 五 特許電報ハ軍事官報ニ限ル
- 六 貼用切手ハ野戰郵便局ニ於テ賣下ク

以上ノ外不明ノ點ハ樺太電信隊又ハ(コルサコウフ)通信所ニ就テ問合スヘシ

榮報第七號 明治三十八年十一月八日

家屋一時使用規則ニ依ル一時使用ヲ許可スヘキ家屋ノ所在地及其ノ番號十月二十九日樺太民政署官報第十二號榮報掲載ノ個所ノ外尙左ノ通公示セラレタリ

明治三十八年十一月八日

- ガルキノウラスコエ村
- | | |
|------------|-------|
| 第一號乃至第四號 | 第七號 |
| 第廿五號乃至第廿八號 | 第八號 |
| 第四十七號 | 第四十八號 |
| 第五十號 | 第五十一號 |
- マロウエチキノ村
- | | |
|------------|------|
| 第一號乃至第七號 | |
| ドブキー村 | |
| 第十一號乃至第十四號 | 第十六號 |
| 第十八號乃至第廿五號 | |
- 以上

二四七

マツカ支署榮報 明治三十九年一月三十一日
 當署醫務課ニ於テマツカ附近ノ飲料水質定性試験ヲ執行セシニ其ノ成績別表ノ如シ

飲料水ハ井水及川水若ハ木樋ニヨリテ川水ヲ引キタルモノ、ミ井戸ハ何レモ淺ク尺餘ナルアリ深

キモ數尺ヲ超エス濕地ヲ掘開シテ蓄留セシムルモノニテ其ノ地下水ヲ得ルノ設備ニアラス其ノ周圍ハ敢テ不潔ニアラサルモ井戸側ハ木材ノ已ニ汚腐セルモノ多シ七號ハ稍々完備シ二號、三號及六號共ニ構造全カラヌ又一號、五號ハ木樋ヲ水道トシテ引ケルモノ其ノ構造稍々備レリ四號、九號ハ結水ヲ穿テテ川流ヲ汲取ルモノ何等ノ設備アルナク八號僅ニ木樋ノ設ケアリ而シテ二號、三號、七號共ニ安母尼亞ノ痕跡以上ヲ含有ス中ニ三號ハ其ノ量尤モ多ク且ツ有機質ヲ多含スルヲ以テ飲料ニ適セス二號、七號ヲ強テ使用セントスル場合ハ煮沸及濾過スルヲ以テ安全ナリトス尙井戸ハ何レモ換水ノ上清淨ナラシムヘク朽腐セル井戸側等ノ修繕ヲ加フルニ於テ或ハ其ノ水質ヲ更變シ使用シ得ルニ至ルコトアルヘシ

飲料水定性試驗成績表

| 色 | 臭 | 反酸 | 格魯 | 硫酸 | 安母尼亞 | 硝酸 | 亞硝酸 | 重金屬 | 石灰質 | 有機質 | 檢鏡 | 適種 | 場所 |
|----|---|----|----|----|------|----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----------|
| 清濁 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第一號(安母尼亞) |
| 無 | 無 | 中性 | 僅微 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第二號(安母尼亞) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第三號(安母尼亞) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第四號(マカカ川) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第五號(靈第十號) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第六號(靈第九號) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第七號(守備隊) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第八號(フコサン) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第九號(シナサン) |
| 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 無 | 第十號 |

| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
|----|----|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |
| 痕跡 | 僅微 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 | 僅微 | 無 | 極微 | 無 |

マウカ支署彙報 明治三十九年一月三十一日
 本年一月二十日ヨリ樺太守備隊第五野戰郵便局ニ於テ普通郵便事務ノ一部取扱開始ニ付注意事項左記ノ通り同局ヨリ當支署ヘ通牒アリタリ

一 發信書狀ニハ軍事郵便ノ記號及所屬部隊官職氏名明記ノ事
 二 右記載漏ノ分ハ普通々常郵便ト見做シ未納ノ取扱ヲナスコト

備考
 取扱開始ノ普通郵便爲替事務ノ範圍左ノ通り
 一 第一種乃至第五種郵便物ノ引受及配達交付
 但シ第一種書狀、第二種葉書、第三種毎月一回以上刊行スル定期刊行物、第四種書籍、印刷物、寫眞、見本雛形等、第五種農産物種子
 二 普通小包郵便物ノ配達交付
 但シ小包郵便物ノ引受ヲナス
 三 通常爲替及小爲替
 但シ爲替拂渡事務ハ此ノ限りニアラス

マウカ支署彙報 明治三十九年四月十九日
本年四月一日ヨリ樺太守備隊第七野戰郵便局ニ於テ普通郵便事務ヲ開始セラレタルニ付左記事項ニ注
意スヘシ

- 一 發信書狀ニハ軍事郵便ノ記號及所屬部隊官職氏名明記ノ事
- 一 右記載洩レノ分ハ普通々常郵便ト見做シ未納ノ取扱ヲナスコト

備考

取扱開始ノ普通郵便爲替事務範圍左ノ通り

- 一 第一種乃至第五種郵便物ノ引受及配達交付
- 但シ第一種書狀、第二種端書、第三種毎月一回以上刊行スル定期刊行物、第四種書籍、印刷物、寫眞、見本雛形等、第五種農産物、種子等
- 一 普通小包郵便ノ配達交付
- 但シ小包郵便物ノ引受ヲ爲サス
- 一 普通爲替及小爲替
- 但シ爲替拂渡事務ハ此ノ限リニアラス

●本年四月十六日ヨリ樺太守備隊第七野戰郵便局ニ於テ郵便貯金事務開始セラレタリ

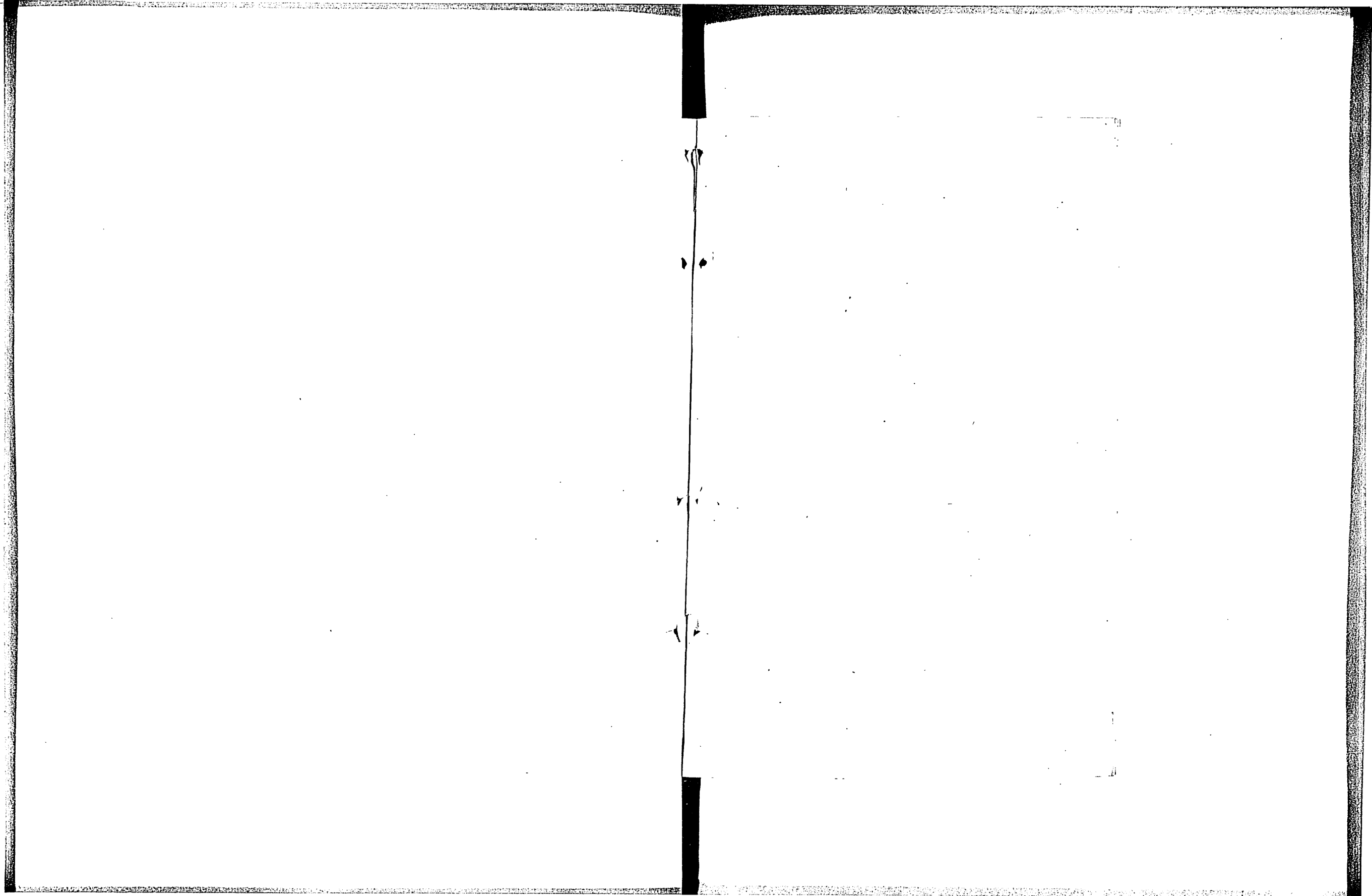
明治三十九年七月三十日印刷

明治三十九年七月三十一日發行

樺太民政署

印刷者 岡田商會印刷部

東京市京橋區南橋屋町二十四番地



5-0398

0253